特223
360

昭十三年度

商業調査

東京市立京橋商業學校

始

特223
360

昭和十三年度

商業調査

東京市立京橋商業學校

昭和十四

巻頭言

實社會は寔に目まぐるしき發展を續け經濟機構また複雜多岐となり、絶えず幾多の問題を生み出しつゝある。

依つて本年度の商業調査部に於ては、實業界の各種問題に對し積極的に考究を進めしむると共に、廣く業界の各方面に派遣し資料の蒐集、質問等に依り業界の實態に觸れしめ、これが研究を完成せしめんとしたのである。

斯くて都下に於ける官廳、銀行、會社等の御援助を仰ぎし次第であるが、何れも御多忙の際にも拘らず御懇切なる御指導と貴重なる資料とを忝うし、衷心より感謝の意を表する。

今玆に生徒の研究報告を取纒め、その一部を收錄して「商業調査」を世に送ることとなつたが、時局を考慮し、紙數に制限を加へた爲に粗漏の點も少くない。

然しながら右の趣旨を諒とせられ、御叱正、御教導を賜らば幸である。

昭和十三年十二月

東京市立京橋商業學校長　梶原　壽一

昭和十三年度 商業調査 目次

一、研究報告……五D 菅原榮五郎……一

一、我國の海運界に就いて……五C 唐澤一雄……一〇

二、日滿經濟ブロック……五A 毛塚芳正……三三

三、現下の石油問題に就いて……五D 坂内信雄……三三

四、捕鯨業に就いて……五B 鈴木康郎……四六

五、販賣豫算に關する一考察……五B 永田武……五九

六、新宿商店街の分析……五C 今枝新一……五九

二、研究題目並に研究者氏名……五C 井坂清……九三

三、商品研究部より……五D 竹澤義弘……九三

編輯室より……

我國の海運界に就いて

五D　菅原榮五郎

一、序

最近運輸機關の發達は顯著なるものがあり、「地球を縮小した」と言はれてゐる程で、殊に航空機に於て然りとする。種類多き交通機關の中其の王座を占めて居る陸上の鐵道、海上の船舶は發達の急速な航空機によつて漸次壓迫されつゝあるとは言へ、近き將來に於て凌駕され王座を奪はれるであらうとは未だ考へられない。此處に於て海運が陸運の鐵道と並行して、最も重要な交通及通商の手段たることは從來通りであり、何等疑ふ餘地の無い所である。世界各國が航空機發展助成の一方に於て、海運の保護奬勵に一層の拍車をかけ、一層の伸張發展を期してゐる所以も又此處に存する。

更に我が國に此れを當て嵌むれば、古來四面環海にして天惠資源に惠まれぬ國故に、資源開發、國際貸借改善或ひは戰時輸送に殊に其の必要性が認められるのである。世界の如何なる國々よりも海運が我が國絶對不可缺の重要地位を有するのも蓋し當然のことである。從つて國力の盛衰は大いに海運力の完備强化の如何に關係すると言ふも決して過言では無い。換言すれば、我が國主要産業が多少たり共、海外に依存してゐる以上海運力の充實伴なはずして發展

を圖ることは到底望み得べくもない。一方敢えて自國海運に完備を強要せず、他國船舶の利用に依り償はんとする時其の結果生ずべき他國依存の障害は寔に大なるものがあらう。即ち一朝有事の場合海運力の不足に瀕したる時は勿論平時にあつても經濟競爭上多大の不利を惹起するに至り、國力衰微は必然の結果になり終るであらう。

斯くの如き健全なる自國船保有の必要が緊務であることは更に述べる迄もなく明白な事であるが、我が僅々六十餘年に渉る過去の躍進的歴史は一層如實に示す所である。統計的に觀察しても國運の隆盛は常に船舶の量と並行して居る。翻つて現狀を見る時後者は前者に稍々後れ氣味の如くで、其の重要性が充分に滿たされてゐる樣には思はれない。勿論其れには著しくデリケートとなつた國際經濟の影響もあるかも知れぬが、大洋に惠まれたる點、近海に唯一つもの海運國を有せざる點等に於て、寔に世界に卓越した現勢よりすれば、現有海運力は餘りにも劣勢にある。

然し今日の世界第三位の海運力を構成する迄の目覺ましき發達を顧みる時、現今の狀勢は決して悲觀すべき性質のものでは無く、蓋し今後に於ける伸張發展こそ期待すべきであり、注目すべきであらう。

二、搖籃時代

我が國が現今世界海運國の一として數へらるゝに至つたことは、特殊な地理的環境と國民的素質とに基いた必然の道であつたと言はねばならない。併し乍ら夙に發展すべくして其の機を逸して來た我が海運が、漸く其の緒を近代的基礎の上に開いたのは、明治初年のことである。當時德川幕府が自衞目的逐行の爲、今を去る三百有餘年前鎖國令を公布し、大船建造及外國との交通を殆んど禁止してしまつて、爾來海運に就いては毫も顧みられず、一小島に悠々の夢を貪つて來たのである。從つて海上に於ては既に英國、和蘭、西班牙、葡萄牙、佛蘭西、獨逸等の先進國が優秀なる技術設備を擁して七洋を縱横に濶歩してゐたのであつた。やがて其れが遂に我國に迄も迫つて、半植民地化せんとするに及び、元來海外發展的なる國民は此等諸外國の帝國主義的進出を抑制し、國力の充實發展を企圖したが、直接に、間接に、必要に迫られたものは實に海運力の充實强化であつた。其の第一として既に汽船使用價値の著大なる事に刮目せる政府は、汽船建造及其の利用に如くは無しとし、以て着々と計畫を進めんとしたが、當時の外國文明に對する我國水準の著しき劣低、技術的、知識的缺陷等に加へ、諸國よりの壓迫等は非常な困難支障を伴ひ、搖籃期に於ける我海運界の歩一歩の伸張は、一に唯努力其のものであつた。次に其の驚異的發展の經過を略記しよう

〔一〕明治初年、日本帝國郵便蒸汽船會社が政府の絶大なる後援援助の下に設立せられたが、營業者及政府の未熟により採算常に合はず、日尙ほ淺くして瓦解の止むなきに至り、さまで見るべき成績なくして終つて了つた。後、右の所有船舶を受け繼いで、岩崎彌太郎氏に依る三菱會社が設立され、一方共同運航會社も相前後して設立の運びとなつた。元より政府の積極的保護が、或る時は外國汽船の購入奬勵に、或る時は政府自身の運用に等と加はつたのは言ふまでもない。其の頃我が沿岸航路には、アメリカ太平洋郵便汽船會社が既に其の巨船と優秀設備、低廉運賃とを以て獨占する所となつてゐた。從つて我が汽船會社が其の諸條件を以ては到底對抗し得なかつたのは勿論であつたが、尊敬すべきは當時の貿易商であつて、割安、安全の米國船に依らずして、進んで運賃の高い自國船を利用したことである。官民一致の努力は終始一貫された結果、先づ米國汽船會社を我沿岸より後退せしめるに成功し、初期の海運戰に於て勝利を手中に納めたのである。

越えて明治十七年には、瀨戸内海通ひの小船主が「徒らなる競爭は効果的なものでは無い。宜しく妥協すべし」として此處に合併の運びとなり大阪商船會社の設立が實現したのである。

かくする中に、三菱會社と共同運航會社とは各々堅實な發達を遂げたが、終に海運戰を開始するに至り、漸次激烈化するによつて共倒れの懸念さへ感ぜられるに至つた。其の結果、明治十八年九月遂に兩社の合併を見、資本金一千

一百萬圓の日本郵船會社が設立せらるゝ事に落着して、此處に我が海運界の基礎確立が完成されたのである。

(二)次いで明治二十七年、日清の風運急を告げ交戰狀態に入るや、軍需品輸送に基く急激な船舶需要は必然的に海運界を一層活況に導き、且急激の躍進を促した。此れを統計に就いて見るも、船腹は戰前約十六萬噸であつたものが戰後には二倍の三十二萬噸に達して居り、造船所數は六十以上を算するに至つてゐる。十年後の日露戰爭には更に躍進し、戰前明治三十六年に五十八萬噸の船腹が戰後には一躍百萬噸に達するの活況を呈し、遂に英、米、獨、佛、諸、伊に次いで世界第七位にまで進んだのであつた。一方船腹のみならず、造船業の技術及設備の進歩擴大と共に、海運界は世界に對し獨立的地位を確保し得る迄に至つた。

かくの如く維新、日清、日露の三段階を經て、搖籃時代としては相應の發展を逐げたが、此の時代は正に基礎時代とも言ふべきの時であつた。

(三)更に歐洲大戰を契機とする世界海運の異常なる膨脹時に際し、我が海運も又古今未曾有の活況を呈し、明治七年僅かに二萬六千噸を有するに過ぎなかつた船腹が、大戰終了後の大正八年には實に其の百倍、二百七十九萬噸に增加し、遂に英、米に次ぐ世界第三位の今日の地位を占むるに至つたのである。此れより今日に至る進歩は、量的よりも質的の改良であつて、優秀巨船の出現も其の結果であつて、此の時代は躍進時代とも言ふべきであらう。

以上の如き目覺ましき海運史は他國のそれに比を見ざる所であつて、此れ固より我が國運の全面的發展の然らしめた所なるは勿論であるが、政府の保護政策、民間の協力が我が國民性と相俟つて天來の海國を進むべきの道に進ましめた努力も亦見逃すことの出來ぬ一大因素である。

三、列國海運と我が現狀

偖、刮目して世界の情勢を觀察するに、近來漸く回復の途にあると雖も、餘り活潑な動きを示してゐるとは言へぬ。今左にその源を求めて見よう。

(一) 世界大戰に於ける急激な船腹の大需要に順應して、非常な船腹の膨脹が行はれ、當時は全體的に未曾有の大活況を呈したにも拘はらず、戰後の異常なる貿易萎縮の爲、船腹は過剩にあることである。此れを統計に依つて觀るに、一九二九年を一〇〇とした船腹指數は一九三一年に於ては一〇六と增加したに反し、貿易數量は九五、價格は六八の激減を示し、尙且今後急激に增加すべき見込はない。

(二) 即ち其の後の貿易方面は、制限、禁止、ブロック經濟化の迫進、アウタルキー政策の强化等の事實が世界的傾向となつて居り、自由主義經濟下に發達した海運業は苦惱を訴へんとする情勢にまで進んだのである。

斯くの如き事が不況の原因であるが、一方其の當然の結果として提唱されたのが、海運業の整備、改造、優秀船建造、自國船主義、國際船主會議等に依る世界海運の綜合的建て直しである。就中、國際船主會議は世界主要海運國十七ヶ國を集め、且世界總船舶の九十三%を網羅して船腹過剩を整理し、以て衰微した海運界の根本的復活の大目的を擁する大なるスケールなものであつた。本邦からも共同補償古船解體案が出された。然し乍ら、本案を初めとし全般的に各國の利害不一致の故を以て、終に實を結ぶに至らずして終了してしまつた。されど海運復活に對する諸方策は漸次に實行され、整備される傾向にあり、又貿易衰微の回復と相俟つて、最近未だ不況の域を完全に脫し切つては居らぬが、其の恢復速度は實に著しいものがある。

扨、かゝる情勢の內にあつて我が國の海運界は世界列强に伍して如何なる歩を進め來り、又如何なる地位を保持して來たであらうか?

大正三年世界大戰當時の、全般的活況に目覺ましき業績を殘して、一躍世界第三位の地位を獲得して以來、大正十

四年を唯一の例外として、逐年益々船腹增加の一途を辿つて來た我が海運界は、世界恐慌當時さしたる頽勢を示さなかつたとは言へ、其の不況は多少免るゝ能はず、昭和六年以降は船腹增勢を阻止せらるゝに至つてゐる。加之、昭和七年七月十日より實施の運びとなつた船質改善助成施設に依る古船の解體が進渉し、昭和九年七月には辛うじて四百萬噸を維持する狀態となつた。最近に至り、漸く振興し初めた貿易に依る需要激增と、政府の六百萬噸目標の海運國策とに依つて再び增加し、今後も尙一層增加の傾向にある。

次に立場を變へて貿易方面より考察するに、不況も峠を越えたる時、恰も昭和六年末の金輸出再禁が行はれ、玆に必然的に本邦爲替相場大幅の低落を招來して輸出貿易を大ならしめ、更に所謂、軍需インフレに依る輸入貿易の增加と相俟つて、需要の激增の結果を招來し、加ふるに世界貿易の不況も脫出の曙光を見得るに至るや、正に大戰當時に匹敵すべき活況を呈するに至つたのである。以上の如き世界大戰後の日本船舶趨勢を統計に表せば次の如くである。

年號	隻數	噸數	年號	隻數	噸數	年號	隻數	噸數
大正九年	一、六四四	二、九九五、九六六	大正十五年	二、〇〇三	四、〇一〇、三八二	昭和七年	一、九六〇	四、二五五、〇一四
十年	一、九五七	三、三五四、八〇六	昭和二年	二、〇三五	四、〇八三、五三六	八年	二、〇一九	四、三五八、一五九
十一年	二、〇三六	三、五八六、九一八	三年	二、〇四八	四、一三九、八一五	九年	一、九四九	四、〇七二、七〇七
十二年	二、〇一六	三、六〇四、一四七	四年	二、〇五九	四、一八六、六五三	十年	二、一四六	四、〇八五、六五〇
十三年	二、〇五五	三、八四三、七七〇	五年	二、〇六〇	四、三二六、八〇四	十一年	二、三六七	四、二二五、六九〇
十四年	一、八五四	三、七三〇、〇一六	六年	一、九六九	四、二七六、三四一	十二年	二、五六四	四、四七五、〇〇〇

而して、かゝる經歷を有する我が海運力を國際的に觀察すれば、現今如何なる地位にあるかと言ふに、唯單に數量一方的に斷定することは出來ない。即ち此を實質的に、活動情況の如何或ひは又將來の傾向等綜合的に考慮することが必要である。

先づ第一に、數量的に我が海運力を計れば英米に次ぐ世界第三位の海運國たるは疑の無い事實である。然し乍ら名は第三位とは言へ、實際に於ては、獨逸以下の各國を僅かに抑へて、辛くも第三位を占めてゐるに過ぎず、英米とは遙かに距つて及ぶ可くも無い。更に其の內容に至つて精しく調査する時、名實相伴はざる跛行的情況にあるのが判然としよう。今左に世界主要海運國の現有海運力を示すに左表の如くである。

（昭和十三年六月末日現在　ロイド船名錄（百總噸以上汽機船））

國別	隻數	總噸數	國別	隻數	總噸數
英國	九、〇六一	三〇、七一九、〇九〇	諾威	一、九六三	四、六一三、一七五
本國	六、八四三	一七、六七五、四〇四	獨逸	二、三三一	四、二三一、六五七
屬國	二、二一八	三、〇四三、六六六	伊太利	一、一五六	三、二五八、九九一
米國	二、八五七	一一、四〇三、八九五	和蘭	一、四七三	二、八五二、〇一二
除大湖船	二、三三八	八、九三六、四六五	其ノ他	八、四〇〇	三、三八〇、七三三
大湖船	五一九	二、四六七、四三〇			
日本	二、一七八	五、〇〇六、七一二	合計	二九、四〇九	六六、八七〇、一五一

第二に實質的に統計を中心として檢討すれば、海運國策に依つて相當改良されたとは言へ、諸外國の其れに比して如何に劣つてゐるかが理解出來る。其の一つは優秀巨船の極めて少きことである。現に我が國に建造中のものを除外するならば、二萬噸級の船舶は皆無と言ふ狀態にあり、帝國海運發展上憂慮すべきであらう。勿論海運自體が營利目的の商業である限り貨物、船客の數が歐米方面に比し小なる日本を中心とした地方では、其の必要性が少いのは事實だとは言へ、其れが皆無でないことに認識すべきである。

現在優秀船と稱せられてゐる世界の主要船舶を摘記すれば次の通りである。

船名	所屬國及建造年度	總噸數	長サ（呎）	速力（ノット）
クキーン・エリザベス	英 十四年春豫定	八五、〇〇〇	—	—
ノルマンディー	佛 一九三五	八三、四二三	一〇二九	二九
クキーン・メリー	英 一九三六	八一、二三五	一〇一八	三二
ブレーメン	獨 一九三〇	五一、七三一	八八七	二七
レックス	伊 一九三二	五〇、一〇〇	八八〇	二七
オイロパ	獨 一九三〇	四九、七四六	八八〇	二七
コンデ・ディサボイヤ	伊 一九三二	四八、五〇二	八一二	二七
秩父丸	日 一九三〇	一八、〇〇〇	五八三	二一
淺間丸	日 一九二八	一六、九七五	—	一九
龍田丸	日 一九二八	一六、九七五	—	一九

右表に於て明らかなる如く、我が代表船舶は他國に比すれば足許にも及んでゐない。兎も角航權の維持伸長は海運力構成の基本的機關たる、船舶の質的優良性を絶對的必須條件とする點から言つても、遠からぬ將來に於て優秀巨船の出現を多少共見ねばならぬ。

又其の一つとして、老朽不經濟船の多數存在してゐることである。然し最近では解體を要すべき古船が激減して、船質改善助成施設の必要さへ疑はれた程でさして悲觀すべき問題では無いとも言はれてゐる。若し其れが事實なりとしても、今日の狀勢からすれば、將來老朽船の激增すべきことは何等疑ふ餘地も無く、宜しく將來の政策を樹立すべきである。しかして統計の示してゐる船齢の割合は次の如くになつてゐる。

（昭和十一年）

船齢	隻數百分比	噸數百分比
五年未滿	二四・二五	一二・六〇
五年——十年	一〇・八五	一三・八九
十年——十五年	九・二五	九・〇一
十五年——二十年	三〇・二八	三八・六八
二十年——二十五年	七・三二	九・〇二
二十五年以上	一八・〇五	一六・七六

更に此れを主要海運國に比較する時、未だ曩如たるを許さぬ情勢にある。

以上の最大二弱點も今後の改善に依つては、近き將來に解消されるであらうが、かゝる中にも唯一の大きな强味を有してゐる。其れは經濟噸數と言はれる、四千噸内至八千噸級の手頃な大型船が、合計百四十萬八千噸即ち全船舶噸數の三割三分の多數を占めてゐることである。優秀汽船の點で各國に比し大いに劣つてゐるが、他方我が海運界の活動は實に目覺ましきものがあり、殊に昭和十年來急激に進出し、今や凡そ水の續く限り世界の果までも旭日旗を翻しつゝある。而も其の行く處として堂々と先進國を抑へ、最近喧しく稱へられた日英海運競爭を初めとして、花々しい競爭を演じて居る。統計の示す所に依れば、昭和十二年秋の海運不況のバロメーターと言はれてゐる各國繫船狀態は米國の二百四十萬噸、英國の九十六萬噸に達して居るに反し、獨り日本のみは一萬六千噸、所有船舶比率〇・五%のみで世界の何國よりも少量であつた。或ひは昭和十年以後の歐洲航路には五十五萬噸と言ふ出船振りを見せ、各國に非常な脅威を與へてゐる。斯くの如く驚異的活動力を有して居る邦船の運賃收入は、又厖大なるものがあり、此處に於て國際貸借改善上多大の貢獻をなして居る。由來我が國は漫性輸入超過國で、此の傾向を一轉して出超國たらしめんとするは、如何に努力した所で現下の產業及資源の狀態より觀て容易には望み得ぬものである。此の際、海運收入を主とする所謂貿易外收入の重要なることは、國家經濟政策上明瞭なることである。而して輸出產業としての海運は毎年綿織物、生糸に次いで第三位にあるが、綿織物、人絹、織物及機械等は其の原料を大部分輸入に仰ぐの實情を考慮すれば、海運收入は恐らく生糸に次いで第二位であらう。最近に於ては爲替安と貿易再振興の二大潮流に依つて益々收入を大ならしめてゐる。

近來各國は進んで自國船主義を採用し、國際海運戰の激しい折柄、貿易業者も自國船を愛護利用し、以て國際貸借改善に寄與する所あらねばならぬ。

玆に過去の收支と比較、表示すれば次の如き激增を示してゐる。

（單位千圓）

年次	收入	支出	純收入
昭和五年	一九四、四二〇	六九、〇八五	一二五、三三五
六年	一六六、九一一	六六、二七〇	一〇〇、六四一
七年	一八一、八四三	八二、一四二	九九、七〇一
八年	二三一、八一〇	一〇五、七四八	一二六、〇六二
九年	二五一、五二〇	一〇六、九〇六	一四四、六一四
十年	三〇三、一八〇	一二五、五二〇	一七七、六六〇
十一年	三三四、六一二	一四〇、七五〇	一九三、八六二

以上、我が海運力を數量、實質、活動等の諸點より觀察したが未だ〳〵行き詰つた譯ではなく唯將來の伸張を俟つのみである。

四、海運政策

旣述の如く海運は一國の經濟上竝びに國防上、極めて重要な使命を有し、積極的に國力進展にも關聯するものであるから、近年諸外國に於ても所謂海運政策なるものを樹立して、益々保護奬勵に努めてゐるのである。他方海運の盛衰を左右する貿易は輸入割當制、輸入許可制、アウタルキー等の管理統制を實施して餘り振はず、更に自國船主義に

依る他國船排斥等々、今や海運界進出阻止の波は滔々として其の停止する所を知らず、其れを乘り越えて、我が海運を更に進出せしめんとするには多大の困難が生ず可く、其處には實に政府の保護支援を必要とするのである。過去の歷史に示す如く、夙に政府は海運に對して多大の關心を有し、船舶建造支援、航路運營、船舶素質改善等時世に順應して各般の助長策を講じ來つたのであるが、殊に近年未曾有の苦境に沈淪せる我が海運界が世界各國に先立つて回復の緒に就いたのは、時宜に適せる政府の施設が與つて力あつたのは言ふを俟たぬ。

昭和十二年春議會通過を見たる海運國策の樹立は、從來の國策より一層根本的、積極的な政策であつた。全般的に其の主眼とする所を視るに

（一） 海運界及造船界に一脉の活氣を與へ

（二） 優秀船建造に對する奬勵保護を加へ

（三） 六百萬噸の大船腹陣を完成させ

（四） 更に其れが運用乃至は海運力確立を可及的迅速に導かんとする

にある。又其の內容に就いては左の如く四政策に分けて、當時の準戰時體制に相應させたのであつた。次に其の各々につき內容を檢討して見ることにする。

【一】 優秀船建造助成施設

遞信省に於て積極的海運國策として、昭和十二年以降四ヶ年繼續事業合計五千萬圓の國庫補助の計畫を基として、優秀船建造助成方策を樹立したのである。其の結果として一定助成金の支給に依り四ヶ年間に總噸數六千噸以上、速力十九節以上の貨客船及貨物船夫々十五萬噸を建造せしむる見込であつた。從來は新造船補助は古船解體を條件として居たが、其の後に於ける海運市場の船腹實需及び新國際情勢に直面して、本施設に依り新造船補助の場合は、古船

解體を中止し飽くまで新造一本槍で行く方針に變更したものである。而して此處に言ふ優秀船主義なるものは、必ずしも大型高速船主義を意味するものではなく、航路の實情に最適にして、競爭上有利なる經濟船を配船することを指すのである。本施設に依つて世界海運國に比し劣勢にある優秀船舶情況の好轉、延いては定期船の海外進出を促進せんとするのが其の主要眼目である。殊に今次事變の場合、國防上の建前から大なる意義を有してゐる筈であるが、實際に於ては政府をして反對の政策を執らしめて居る。

【二】 遠洋航海助成施設

我が商船隊の全般的活動を概觀するに、遠洋即ち歐洲、北米、南米、濠洲の各方面に出動して外國各港間の貨物運送に從事するものは極く稀であるが、我が國を中心とする貨客運送に就いては到底他國の追隨を許さぬものがある。即ち本邦輸出入貿易に對する內外國船の割合は、我が船舶の七割に比し外國船舶は僅かに三割を占むるに過ぎない。而して我が海運の對外進出、延いては對外航權の保持を圖る爲に、其の船舶輸送割合を急激に增大せしめんとする時は、さらぬだに烈しき海運競爭の激化を招來するが如き事態となるが故に、決して當を得たものとは言へぬ。外國との相互的自由主義を根幹として對外進出をなさんとするには、今後は寧ろ海外新市場を開拓することであるが、既に傳統的地位を有する新市場の外國海運と拮抗することは更に困難を伴ふ。此處に於て、政府の適切なる補助を俟つて斯かる航路經營を支援助長せしめ、漸次に地盤を擴大せしめるが如き方策を必要とする。本施設の有する使命と其の存在の所以とは實に此處に存するのである。

遞信省の企圖した要項は、昭和十二年以降五ヶ年に亙り、原則として六ヶ月を超ゆる遠洋航海をなす日本臣民組織の商事會社に對し、助成金を交附し、初年度十五萬噸、次年度より二十萬噸宛の遠洋配船をなさしめんとするものであつた。

固より遠洋航路進出は國際貨借改善の上からも政府の最も期待してゐる所であるが、現今の戰時體制下に於ける經濟事情の複雜さは、此處にも又右の期待に反する方策を執るに至り其の結果交附金は一時中止せられ、遠洋船腹の近海集中を促し、不定期船の遠洋出稼も全く犧牲的配船となるに至り各船會社も亦引上げを斷行するに至つてゐる。

【三】船舶金融施設

凡そ如何なる產業と雖も、資金供給の圓滑を前提とせずしては其の振興は不可能である。從つて完全なる金融施設の完備は產業伸展の根幹をなすものである。諸外國に於ては夙に海事金融施設の重要性を認識して種々の施設整備に努め、以て强力商船隊建設を期しつゝある。此に反し我が金融施設は甚だ立遲れ、躍進途上にある海運界に伴はざるものがある。即ち現今までの施設としては、昭和五年六月一日實施にかゝる造船資金貸附法があるのみである。當時貸附限度五百萬圓であつたのを、翌年に一千五百萬圓に、昭和十一年五月には更に參千萬圓に擴張されたとは言へ、これとて諸外國に比する時は、微々たるものである。一方、一般金融業者も經濟的衝擊を恐れて船舶金融を喜ばず、又貸附をなす場合には嚴重なる條件を附する爲に海運業者の要望に伴はない。斯かる狀態を維持することの憂慮すべきは勿論、近き將來六百萬噸の船舶を保有せんとする今日、資金供給の潤澤性は一層重大である。此處に於て大藏省に依り船舶金融施設の成文を處たのである。其の要項は、貸附總額一億圓、貸附利率年三分七厘、政府の補給率は年一分、右貸附に依る損失補償は百分の七十としたのである。

【四】船質改善助成施設

我が海運力が其の總噸數に於ては英米に次ぎ第三位を占めてゐる半面に於て、內容に於て著しく劣つて居ることは既に述べた所である。此れは主として大戰以來の發達が餘りにも急であつた爲と船質にまで手を及ぼす可くもなかつた爲とであつた。然し乍ら、斯かる狀態では世界海運國と對抗する上に、或は最近世界情勢に順應する上にも滿足でな

いとの意向を以つて、政府が昭和七年十月より實施するに至つたのが、本施設である。其の窮極の目的は、古船解體整理、優秀船建造增進にあり、內容の主要なるものを摘記すれば、同噸數の古船解體を條件として噸當り三十圓の船舶改善造船奬勵金を補助し、其れが爲、百五十萬圓の豫算を樹立すると言ふのであつた。其の結果として、同年十月一日よりの第一次改善施設に於て解體古船四十萬噸、建造船舶二十萬噸を算し、十年四月よりの第二次施設に於て、解體十萬噸、新建造五萬噸の成績を上げ、第三次施設と合計して、四十八隻、約三十萬噸の新優秀船（四千噸以上十三節半以上）が建造され、他方百十九隻五十萬噸の老朽船が解體されたのである。此の間第六十九帝國議會に於て時の賴母木遞相は其の抱懷する海運國策樹立の建て前から優秀船六百萬噸の必要を强調する一方、船質改善施設の第四次延長を畫さんとしたが、業界の實情は反つて其れに即して居らぬのみか、該施設を無用に近いものと觀らるゝに至つて居た。其の主なる理由を列擧すれば次の如くである。

（イ）第二次、第三次共新造五萬噸、解體五萬噸と言ふが如き小規模に變化した以上、實質的効果は全く名實伴はぬ現象を呈して居ること。

（ロ）特に解體を要すべき古船少く、新造船主も昨今の景氣に乘じて獨立して行ひ得ること。

（ハ）右施設の實益は一般中小船主に及ばず、殆んど大船主の獨占化して居ること。

玆に至つて海運界の一部では、禁止的な外國古船輸入を緩和する一方、船質改善施設に替る可き何等かの新方策を要望したのであつた。然し乍ら、政府の國策が本來優秀船主義に基くのに徵し、古船輸入問題の如きは其の條件を如何に決定した所で、該主義と脊馳するものであるは勿論で、當局としては片手に優秀船主義、片手に古船輸入主義を併用するが如き矛盾國策はなし得ぬ所である。支那事變の突發は必要上此の矛盾も行はれて居るのである。

【五】船員養成設備擴充

我が國民は古來海洋精神に於ても技倆に於ても、船員たる素質をよく具備し他國に比し優れこそすれ決して劣つては居ない。然し造船及船舶自身が六十數種の工業產品を使用する綜合工業であり、其の技術、艤裝の進歩研究は非常に優劣巧拙が重大な關係を有して居る關係上、此れに順應して多數の優良船員を養成し、從來の素質を益〻發揮することは目下の急務である。即ち此等のあらゆる試驗及研究の設備擴大せんとするものである。此れが爲、昭和十一年以降五ヶ年間に涉り普通海員養成機關に對し補助金を交附し、優良火水夫の養成に當らしむると同時に試驗水槽の延長及新設、汽罐、汽機、發動機試驗裝置の新設等各般の充實を圖ることゝしたのであつた。

【六】航路統制法の制定

海運界の不當競爭防止の目的を有し、全文十五ヶ條より成る。要するに遞信大臣に種々の權限を與へて、航路經營に關する協定及經營の禁止制限を命令することが出來得る樣にしたものである。同法に對して、日本郵船、大阪商船南洋海運等の定期船主は贊意を表明したのに反し、他の大小船主は活動分野を狹隘にするものとして反對したのであつた。斯かる反對にも不拘、昭和十一年特別議會で論議し盡されて無事通過、同年八月より施行されたが、從來傳家の寶刀として實際の發動を見るのは稀有のことゝされて居る。

以上の六項目に涉る海運國策は、要するに夫々緊密な關係と連絡とを保持しつゝ相當の業績を上げて來たが、勿論これで充分であるとは言へぬ。今後共世界海運狀勢に順應して、益々海運國策の樹立と其れが實現を圖らねばならない。

五、支那事變と海運界

近代歷史が明白に物語る如く、戰爭と海運との關係は餘りにも緊密で、殊に四面海の我國に於ては海運勢力の大小

は、戰爭の勝敗を支配すると言ふも過言ではない。即ち一度戰火が勃發するや膨大な軍隊、軍需品の急送、資源の大量輸入等を即座に必要とする。海運が海上兵力の一部と稱せられるのも、斯〻る極めて重大な役割を演ずるが故である。

今次事變はその重要性を更に一般に認識せしめると共に、今や世界有數の海運國たる日本海運の實力を遺憾なく發揮したものである。戰局益々擴大するに從ひ、官民の採れる諸政策は、總て今までの準戰時體制より完全なる戰時體制の海運へと移つたのである。

先づ政府の取れる諸政策を眺めるに次の如くである。

（イ）臨時船舶管理法公布

時局に鑑み我が國海運に適當なる統制、監督を加へ、一般交通運輸の調整を圖る目的を以て制定された法令である。其の骨子となるべき所は

一、日本船舶は命令を以て定むるものを除く外、讓渡、取得等に就き許可制度を設け、

二、政府は運航會社に對し、各國諸港に於ける運送を禁止又は制限し、

三、就航區域及運送すべき物及人を指定することが出來、

四、造船業者に對する運賃、船舶賃貸料、製造賣買價格等を命令する、

等各般の統制が加へられて居る。本法は支那事變終了後一ヶ年以內に廢止せらるべき暫定法で、臨時たる所以も亦茲に存する。此れに依り暫時にもせよ、我海運業も愈々一段の統制强化を見るに至つたのである。尙之が實施は勅令を以つて昭和十二年十月一日よりと決定され、運用機關として、政府及民間海運業者に依り組織された船舶管理委員會が設立されてゐる。

斯くする中に一時、同法第四條の外國船輸入緩和は當面の重大問題として相當論議され、成行きが重視された。當時、同條の設定は船腹不足の緩和、運賃、傭船料の昂騰抑制にあつたが、其の後斯くの如き必要は無く、反つてこれ有るが爲に種々の誤解矛盾を招來する結果となつたのである。故に當局では極力解決法の發見に苦しんだのであつたが、複雜な事態の前には何等對策の樹立方法無くして終つた樣である。

（ロ）事變に即應せる海運國策樹立

從來の海外進出に對する政策は、前述の如くであるが、更に既設航路補助の外に、支那事變關係航路、即ち支那沿岸航路、上海蕪湖航路、北支那航路等に對し事變推移に即應して、既定施設を變更し、必要の補助をなすことになつた。其の他に、支那海運事情調査、船舶試驗、檢査、及前述の船舶管理に要する費用六百七十七萬圓の計上等經費多端の中にも現下新情勢に鑑み必要の施設を講じてゐる。

他方、管船局長の名に依り、遞信省は對日本船主協會宛ての警告を發して、自發的統制を促した。其の要點は「市況の動搖に乘じ、運賃傭船料の昂騰を圖り、斯界の健全性を阻害するが如き行爲は極力抑制し、更に主要物產其の他公益的使命達成に最善の努力を傾注すべきこと。」と言ふにある。其の結果、一般海運業者は自治聯盟を結成し、協定運賃の決定等、專心國策の線に沿はんと努力したのである。

或は又「關東州置籍船舶及外國船舶の日本沿岸航路就航許可」を七月三十一日に公布し、從來の外國船就航の法律に依る禁制を破却したのであつた。

斯くて、戰時に即應する海運體制は整備されたが、嚴重なる輸入制限、爲替管理、遠洋航路補助金中止及對支貿易航路阻止とに依つて活動の大部分は抑制されて、政府の嘱望して居る海運收入は豫想額に比し激減の結果を示した。その他近海就航船の激增は著しきものがり、特殊船舶を考慮に入れても何等不足を示さないと言はれてゐる。然し現今に於ては、船腹不足は數量的に判然せぬが、多少あるは確實である。

六、結　言

今や日本海運は世界に獨歩的な好調を示して依然躍進しつゝあるが、從來の自由主義經濟下に發達して居た世界海運の潮流が鎖國主義に改變せられ、今後も進められるから、我が國としても安穩としては居られぬのである。

大陸への大陸への呼び聲の下に力づけるものは優秀船舶の活躍に俟つより外ない。而して我々は大陸に進出せねばならぬのである。十萬噸級の起重級船の出現は近き將來である。我が海國日本も大いに期する所あらねばならぬ。

日滿經濟ブロック

五〇　唐澤一雄

一、經濟ブロックの起りと各國の狀態

近世世界經濟に於て、列國のブロック政策の傾向は極めて顯著であるが、其の第一の原因は自給自足主義にある。大戰中の苦き經驗により、列國は戰後に於て物資を成る可く自國の勢力範圍内に於て自給せんとする方針に出で、互に關稅障壁を高くし、外國貨物の輸入を抑壓するに至つた。

即ち經濟的に他國に依存することを排除せんとするものであり、此の目的を達成せんがため、殖民地のある國はそれを糾合して、ブロックの基礎を固め、殖民地の不充分なる國は親交國と聯合して、ブロックの形成に努める樣になつた

又經濟ブロック出現の他の原因は、大戰後に於ける米國及びソ聯邦の勢力擡頭である。此の兩國は夫々一國とは云ひ乍ら、一大陸と云ふべき大國であつて、必要物資の大部分は國内で自給し得る國であり、一は貿易國營、一は高率關稅によつて外國品の輸入を抑壓し、その廣大なる土地に據る自給力を基礎にして、經濟的勢力を張り、延いてそれが國際政治勢力の背景となるのであるから、領土の狹き國は自ら弱小國に甘んぜざる限り、之と對抗するには他と提

携して經濟ブロックを造るより外はないのである。斯くて近年の國際競爭に於ける各主體は、從來の一國と云ふものよりも更に大規模な單位となつて了つたのである。現在經濟ブロックとして擧ぐべきは、米露兩國以外に英國及び其の殖民地の一團、佛國と小協商國の一團及び日滿の提携等がある。米國は自國及び其殖民地以外にメキシコ及び中南米を抑へて其勢力下に置いて居る。ソ聯邦は自國領土以外に外蒙古を完全に其勢力圈内に入れ、廣大なる領土を擁し國内の工業化に狂奔して居る。英國各自治領はオツタワ會議以來母國との間に特惠關稅協定を作り、斯くして大英帝國の經經ブロックの形成は、各國の貿易に大きな衝擊を與へて居る。佛國の小協商國との提携は現在の狀態では經濟と云はんより、寧ろ獨逸に對する政治的意味の强いものであるが、佛國が此等の國を引付けて居るのは其財政的援助によるのである。特に近年佛國は其保有金塊の激增につれて、財政的勢力を增し、上述以外にハンガリー、ブルガリア等をも政治的貸付によつて佛國の金融制覇の下に置く樣になつた。然しながら獨、伊兩國は所謂ローマ・ベルリンツコのズデーテン地方を併合して、ハンガリーを引付け、佛國の援助して居る小協商國とも親交を厚くしてフランスを孤立化せんとして居る。一方イタリアはエチオピアを征服して自給自足に力を入れて居る。

我が國の殖民地は總て隣接地方で、從來から我が本國と單一の經濟圈内に入つて居る。近年日滿經濟提携の改策が確立したが、他國のブロックに比すれば甚だ小規模で、或はブロックとまで言ひ得ないものかも知れない。併し米國やソ聯邦の如き大ブロックに挾まれて、國を樹てねばならぬ我が國の現狀に於ては、其の物資自給策を確立し、外國からの脅威を排する上に於て、日滿經濟ブロックの成立は必須の政策である。

特に近年我が國が列國より差別關稅、輸入制限を以て脅かされ、又滿洲國否認の憂き目を見、其國際生活への仲間入を拒否される以上、兩國のブロック形成は必須の勢である。

二、日本、滿洲の歴史的關係

我が齊明天皇の御代、阿部比羅夫が渡島の蝦夷を征し、進んで肅愼を伐つたことは國史に明記せられて居るが、その肅愼について詳しいことは分つて居ない。上古の滿蒙民族で我が國と密接な關係があつたのは、高勾麗と渤海である。

高勾麗は我が神功皇后の新羅征伐後入貢して以來、數百年に亙りその國人の入朝や歸化するものがあつて、百濟と共に大陸文化を我が國に傳へたところが少くなかつた。繼體天皇の御代、五經博士が來朝して醫術、易學、曆法等を傳へ、推古天皇の御代に僧曇徴が來朝して紙墨の製法を傳へ、法隆寺の壁畫を畫き、高勾麗の歸化僧惠慈は聖德太子に佛教の奥儀を傳へた。これ等は一端に過ぎないが、當時未だ支那の文化を直接輸入して居なかつた我が國に對し、重大な影響を與へたものであることが知られる。

渤海はその國を建てゝゐた約二百年を通じて、終始我が國に使を遣して朝貢し、親交の態度を變へなかつた。即ち聖武天皇の御代から醍醐天皇の御代まで國使の入朝が三十八回も記錄されて居り、その都度多くの隨行者を從へ、時には三百人以上の大きな團體が入朝したこともある。彼等はその國都、忽汗城を出て豆滿口附近その他の港から出帆し、大抵冬季の北西風を利用して日本海を横切り、裏日本の敦賀あたりに着いた後、導かれて都に上り、國書や物産を獻じた。我が國もこれに厚遇を與へ、その歸國の際には渤海使が彼國まで送つて行つたものである。

渤海國の日本に對する修好は主に通商上の利を得るのが目的であつた。彼の國からの貢獻品は虎、豹、羆等の毛皮、人蔘等の藥草、その他の原產物が多く、日本からは絹織物を主とし、その他の加工品及び海產物を持ち歸り、その關係は千數百年後の今日に於ける日滿貿易關係の樣式に似て居る。

三、滿洲の貿易

滿洲の貿易は一八六〇年、牛莊（現在の營口）の開埠に端を發し、その後、殊に日露戰役後に於ける我が國の資本及び技術による鐵道並びに港灣の完成は、商法に長けた山東、山西、直隸方面の滿民族の移入を伴ひ、こゝに加速度的進展を遂げるやうになつた。

この地に於ける貿易は、稅關の管轄及び地理區分の見地より南滿貿易（大連、安東、營口經由）北滿貿易（ハルビン、綏芬河、三姓、滿洲里、愛琿經由）東滿貿易（琿春、龍井村經由）の三つに大別することが出來る。この中南滿貿易は全滿貿易の約九割を占め、而も大連港のみにてもその七割近くを擔當して居るのに拘らず、北滿貿易及び東滿貿易は目下の所では總額の僅か一割强を占めるに過ぎない。これは東滿、北滿一帶の地が南滿に比して發達が遲れたこと、兵匪の出沒によつて、ともすれば物資の出廻りが妨げられがちであることに原因する。この方面の貿易は、多くは鐵道及び陸路によるのであるが、水路（松花江及び黑龍江）によるものも少しとせぬ。滿洲國の國力充實によつて、今日までとかく世界經濟界から隔離されて居た東滿、北滿も發達に向ふであらうし、諸般の施設、殊に交通機關の整備につれてこの方面の貿易の將來は望み多きものと豫想される。

次に東滿貿易は從來は朝鮮を主とするものであつたが、最近の敦圖線開通と、將來に於ける北鮮三港修築完成の上は、日本海を一大湖水として對裏日本、對裏朝鮮との貿易が盛んになり、非常な活氣を呈するものと期待されてゐる。今日までの所では、間島方面は朝鮮から移入する鮮人の增加で活氣を呈して居る位のもので、全滿貿易の上からは大して見るべきものはない。

その輸出品の主なるものは、大豆、豆粕、毛皮、木材で、輸入品としては綿布、砂糖、石油等が擧げられて居る。

しかし前にも述べた如く、これらの貿易額は寔に僅かなものである。若し北鮮三港及び東滿貿易を盛んにせんとするには、大連の如く取引所を作り、輸入したるものは盛に賣捌かねばならない。然らざれば東滿貿易は南滿貿易の如く盛んにはならぬであらう。

最後に北滿貿易に就いて觀るに、北滿市場に於ける輸出入の經路は、鐵道、陸路、水路の三方面に亙つて居る。即ち西は北滿鐵道による滿洲里、東は綏芬河、南は新京を主とし、松花江岸の三姓、黑龍江水路の愛琿が各々地方的中心をなし、ハルビンはその王座を占め、主として對蘇聯邦貿易であるが、最近蒙古文化の水準が高まりつゝある爲に、この方面の購買力を助長して居ることは注意すべきである。

滿洲國の獨立と共に呼蘭、海倫等北滿の倉穀をめぐる齊克線、海克線、呼海線の開通により、その發達が近き將來に約束せられて居る。

四、日滿最近の貿易統計

◎滿洲國貿易表（單位千圓）

	輸出	輸入	合計
康德三年（昭和十一年）	六〇二、七五八	六九一、八三〇	一、二九四、五八八
同四年	六四五、二九七	八八七、四四一	一、五三二、七〇八
五年上半期	三九二、四九一	五四三、五四七	九三六、〇三八

	輸出	輸入	合計
康德二年	一八三、五二二	四三四、二二八	六一七、七五〇
同三年	二三七、五〇八	五〇七、三二三	七四四、八三二
同四年	二七七、〇八七	六二七、二二九	九〇四、三一七

◎日滿貿易額……滿洲から日本への輸出額（單位千圓）

右の內對日輸出品の主なるものは康德四年度末に於て

◎對日貿易主要輸入品名及金額
康德四年度……（單位千圓）

大豆	七八、九三九	鐵及鋼	五五、三九六
大豆粕	四八、六五八	機械及工具	五一、九〇四
石炭	二六、三六三	漂白染色綿布	四三、五六一
鹽	六、六四四	車輛類	三八、二〇一
高粱	六、六二七	生綿布	三四、一一九
鐵鑛	五、六九二	絹織物	二九、〇五二
混合飼料	三、〇一九	捺染綿布	一三、八七五
油糟	二九、六六二	小麥類	一二、〇四〇
採油用原料	一九、二〇六		
小麥	一、九六一		
獸毛	一、五〇二		
皮料	一、〇三九		
木材	六六〇		

◎日滿ブロックの國際收支

滿洲國國際收支は日本を除いては出超となり、日本を含んだ全體の貿易額は入超である。日滿兩國は對外的に見て同一の經濟圏内にあるもので、隨つて國際收支も日滿一體に見る必要がある。

◎昭和十一年日滿國際收支（單位百萬圓）

	日本	滿洲	計
貿易外收支			
受取	一、五六六	七六三	二、三二九
支拂	一、六〇二	五九五	九、一二七
差引	△ 三六	一六八	一三二
貿易收支			
輸出	二、七九八	六〇三	二、四〇二
輸入	二、九二八	六九二	二、一九七
入超	△ 一三〇	△八九	△ 二一九
出超、金銀	二八	—	二八
差引	一三八	七九	△五九

◎資金關係

滿洲國建國以來累年左記の如く滿洲國へ投資が行はれ、昭和十三年上半期末に於て十七億五千餘萬圓の投資が行はれた。今それを年代順に見るに左記の如くである。

（單位千圓）

昭和七年	九七、二〇三	〃 十年 三七八、五九八
〃 八年	一五一、二四五	〃 十一年 二六二、九九五
〃 九年	二七一、六七五	〃 十二年 三四一、二七三
		計一、五〇二、九八九

なほ昭和十三年上半期對滿投資額十七億五千餘萬圓の使途は左記の通りである。

運輸事業	三〇・〇%	工業關係	九・二%
農林、鑛業關係	一六・二%	商業關係	六・七%
金融關係	一一・六%	其の他	二六・二%

五、重要産業五箇年計畫

滿洲國の産業は從來幼稚なもので、滿洲國内に存する諸種の資源も未開發のまゝのものが多かつたが、滿洲國建國以來我が國の資本及び技術の援助により急速度に發達し、康德四年國防上の要請に基づいて重要産業五箇年計畫が樹立せられ、日滿兩國を一體とした準戰時體制に入つたが、支那事變の勃發により本格的戰時體制に入り、右重要産業五箇年計畫の修正をせねばならなくなつた。修正五箇年計畫の内容は鐵、石炭、電力、液體燃料、自動車、飛行機等

に重點を置き、其の他の部門中交通通信部は他部門の計畫擴張に適應して修正擴充されることになつた。今主要品目につき修正前の開發目標と修正後の開發目標とを比較すれば次の如くである。

（品名）	（修正開發目標）	（修正前開發目標）
銑鐵	約　五〇〇萬瓲	二五三萬瓲
銅塊	〃　三五〇　〃	二〇〇　〃
鋼材	〃　二〇〇　〃	——
石炭	〃三、八〇〇　〃	二五五　〃
電力	二六〇萬kw	一四〇萬kw
バルブ	四〇萬瓲	一二萬瓲
鹽	一〇〇　〃	八七　〃
金（四ヶ年累計）	三億圓	（五ヶ年累計）二億圓

六、南滿三港

既に述べた如く一八五八年の天津條約により、營口が通商港として開港されたが、その後、露西亞の大連經營と東支南線の敷設があり、日露戰役後には我が國が關東州を租借し、引續いて大連港修築を完成し、更に安奉線の改修と鴨綠江の架橋竣成とは安東をも亦貿易港として發展せしむるに至つた。

以上は南滿三港と稱せられて居る。

【大連港】　大連港に於ける貿易の隆盛は實に驚異的のものであつて、その貿易額は神戸、横濱、大阪に次ぎ、支那

維新政府の開港場、又は臨時政府の諸開港場、廣東等と對立せしめても上海に次ぐ巨額を示してゐる。

これは滿洲の資源が日と共に開拓せられ、南滿に我が國の政治的、經濟的の地位が確立したことによると言ふことは言ふまでもないが、なほ港としての位置が絶好で、滿洲の表玄關に當り、水陸交通の要衝を占め、嚴寒にも結氷することなく、港灣設備が完備し、その上豐富なる背後地を控へ、取引金融の機關が完備して居る等の好條件を具備してゐる爲である。

即ち明治四十一年の輸出額僅かに七十二萬瓲であつたものが二十九年後の昭和十一年には九百五十二萬瓲に及び、其の增加割合は年々三十五萬瓲、而も今後益々增大すべき形勢にあるのである。現在の貿易額は約六億圓以上で、名實共に滿洲國第一位の開港場としてその盛名を恣にして居る。人口は七十萬を有し、各種商工業は盛んであつて、滿洲國の躍進と相俟つてその前途は實に洋々たるものがある。

【營口】　營口は遼河の河口に近い滿洲最古の開港場であり、以前は滿洲第一の港であつたが、大連港の隆盛と共に次第に商勢が殺がれ、今や南滿三港の中、貿易額の如きも最下位に落下せんとするの狀態である。

これは河口であるが爲に、遼河の流砂により港内が淺くなり、大汽船の遡航に不便があることゝ、滿鐵線によつて貨物は大連に奪はれがちであること、及び冬季は五ヶ月以上に亙る結氷があつて貿易が一時杜絶すること等、大港灣として發達し兼ねる理由があるからである。

然しながら、開港場としては奥地への最短距離にあり、輸送路として遼河、滿鐵線、奉山線等を有し、且近來行はれた埠頭の設備改善と相俟つて、鞍山の鐵や撫順の石炭等が輸出せられるので、沿岸貿易の要地として將來の發展は充分約束されて居る。

【安東】　安東は鴨綠江を遡ること二十五哩の右岸に在り、河を挾んで朝鮮の新義州と相對し、水陸交通の要衝に

る港であるが、流砂の堆積により汽船の航行區域が短く、その上四ヶ月にも結る結氷があり（鴨綠江の水の深さは鐵橋下の深い所で干潮十二呎、滿潮時二〇呎、三道浪頭までは千二百噸乃至千七百噸の汽船が入り得るが、これより上流は小蒸汽船か艀船によらねばならぬ）、更にその前後に於ける結氷がある（流氷の大なるものは長さ四〇〇米、幅二〇〇米に及ぶと云ふ）。併しながら朝鮮より滿洲へ入る第一の玄關口たる國境都市として特殊の位置にあるが爲、商工業、共に盛である。

七、重要移輸出入品

滿洲貿易の重要輸出品は原料品又は半製品で、例へば大豆、豆粕、豆油を始めとし、高粱、粟、木材の如きものであつて、輸移入品は殆んど全部綿布、綿絲、麥粉、麻袋、砂糖、藥品、石油等の如き製品又は半製品である。なほその輸出入の割合を觀るに、常に多額の輸出超過を續け、滿洲國獨立前には中華民國本國の大入超も例年滿洲の出超によつて緩和されてゐた程である。かゝることによつても、滿洲國が未だ原料生產地の域を脫せず、又一般住民の文化程度が低く、工業發達不充分な事が察知せられるであらう。

輸移出品の中、大豆、豆粕、豆油は全輸移出額の五割乃至六割を占め、特產物中の大宗をなすもので、普通に三品と稱せられ、此等の相場の高低は、直ちに滿洲の經濟界を動かすとさへ稱されて居る。綿布、綿絲は總輸移入額の二五％乃至三〇％に相當し、麥粉、麻袋と共に輸移入品取引上の重要品目である。

全滿洲貿易の國別輸出入の狀況を觀るに、その首位を占めるものは常に我が國である。我が國は總貿易額の五〇％を支配し、斷然他の國を壓してゐる。これは云ふまでもなく日滿兩國の地理的關係、經濟的關係が如何に密接不離のものであるかを如實に物語るものである。

八、貿易の將來

滿洲國は既に成立第七年を迎へ、帝制實施を見るに至つた。その進步發展によつて滿洲と云ふものゝ內容が如何に轉化して行くか、殊に經濟狀態が如何に活躍して行くか、恐らくは世界の全視聽を集めて居ることであらう。而して滿洲國當時者の熱意と我が國の誠意ある援助とは、着々として所期の目的に向つて進捗して居る。斯くて、今や全く兵匪その影を沒し、治安全く整備を見るに至つたのである。從つて各資源の經濟化の程度も擴大を來し、國民生活の向上と共に對外貿易に於て尙一層の精彩が加へられるであらう。

又、敦圖線開通により、雄基、羅新、淸津の三港が北滿、北鮮の門戶として日本海面に出現し、又奉山線による葫蘆島が將來熱河省の正門として渤海灣に榮え、いづれも大連港と相携へて貿易面の發展に大きな役割を演ずるであらう。

九、結論

前述の如く日滿の關係は古くより存し、日滿の提携は愈々緊密になりつつある。

我が國の對滿國策は全滿三千萬民衆を舊軍閥の桎梏より脫せしめ、匪賊群を掃蕩して治安を維持し、財力と智力とを注いで未開發の資源を開き、利用厚生によつて彼我共に榮え、文化の惠澤に浴せしめ、我が皇道と相伴ふ滿洲國建設の精神「王道樂土」を助け、依つて以つて東洋の平和を促進し人類文化に貢獻せんとする倫理的動機に基づく所にその重要性がある。

我が國は今や未曾有の非常時に直面し、不幸にも隣邦支那に對し斷乎膺懲の矛は向けられてゐるのである。彼の國

民政府は永い間抗日、侮日の政策を取り來り、我が國再三の勸告にも聞き入らず從來の政策を取り來つた爲に、我々は東洋永遠の平和の爲に戰つて居るのである。我々の敵とするものは支那の國民ではない、國民政府である。而して我が忠勇義烈なる皇軍一度起たんか、連戰連勝、今や廣東は陷落し、國民政府が最後の據點たる武漢三鎭も相續いて陷落し、國民政府は今や一地方政權にまで落ちてしまつたのである。然しながら國民政府が未だに抗日侮日の迷夢に醒めずんば、我々は斷乎長期膺懲あるのみ。

今や北支には臨時政府が樹立せられ、中支には又維新政府が樹立し、我々の理想とする東洋永遠の平和の爲に邁進して居るのである。我々は斯かる兩政府に對しては絶對に之を支持して、その業を助けなければならぬ。

我々が戰爭によつて此の如き大なる犧牲を拂ふのも、皆前述の如き精神に外ならないのである。

我々は日本民族の一員として、この光榮ある使命を達すべき大業に參加し、滿洲及び支那の地下に眠る我が精靈の忠節に對へなければならぬ。

こゝに於いて、我々は經濟、軍事、貿易等による日滿經濟ブロックを更に一層强めんが爲に、新支那を加へ此處に日滿支經濟ブロックが一日も早く出來ることを希望する次第である。我々はこの經濟ブロックを更に强化し、東洋永遠の平和の爲に大いに盡力し、又世界平和の爲に盡さねばならない義務があるのである。

我々はこの光榮なる仕事を世界各國の注視の中に、一日も早く達成せしめなければならない。

現下の石油問題に就いて

A組　毛塚芳正
D組　坂内信雄

一、序　說

我國の石油產地は北は樺太、北海道から本州の北西海岸なる秋田、新潟を經遠く臺灣に及び、著名なものに越後、西山、新津、東山、小千田油田等があり全面積は合計七億三千萬坪、鑛數千三百四十七である。此の中軍需方面に直接關係ある北樺太油田は北緯五十度五十分より五十三度五十分內外にあり、元北辰會に於て此等油田の試掘を行つたが、大正十五年北樺太石油會社が設立され、その產出額は一年百萬石に達し山口縣の海軍燃料廠に送られ我國海軍の動力となつてゐる。

我國石油の需要狀態は逐年激增の一途を辿り、特に揮發油、重油の增勢最も著しく二倍から三倍に及び機械油は六割五分の增加となつてゐる。言ふ迄もなく揮發油需要の增加は自動車、飛行機の增加が主因である。これに對し我國の原油產額は本年の一月——六月に於て一、二三〇、〇〇〇バーレルで前年同期に比し二%の減少を示してゐるのであつて、我國の原油產出額は大正四、五年を頂點として漸減してゐる。斯く本邦石油需要が激增の傾向あるに對し內地の產出高が增加せざる結果、需要の大半を海外からの輸入に仰がねばならないのである。

而して近年動力用燃料として石油の世界的需要が急激に高まるに伴ひ、各國に石油代用の液體燃料を得んとする研究が盛んに行はれつゝあり、既に研究期を過ぎ實行期に入つてゐるのである。即ち貢岩油・石炭低溫乾溜・石炭液化・瓦斯合成其他魚油・亞麻仁油・大豆油・石鹼・ステアリン・コレステリン・樟腦油・アセチレン等から石油を製造せんとするのが之である。石油資源の乏しい歐洲諸國に於ては勿論のこと世界の大産油國なる米國に於てすら石油代用品殊に石油貢岩工業に多大の努力が拂はれ相當の進展を見せて居り、石炭液化工業は獨逸と英國に特に盛んである。

二、石油資源維持、獲得の諸方策

(イ) ガソリンの切符制度

戰時經濟が最後の段階に入ると、軍用物資・國民生活品の一切は擧げて國家統制下に置かれる樣になる。特に物資の不足は價格統制のみを以てしては追付かなくなり、こゝに切符制度に依つて强制的な消費統制を行はねばならなくなつたのである。石油の軍需的意義の重大なるは論を俟たない。航空機・自動車・タンク等を縱横無盡に活躍させる原動力は揮發油であり、又最新式の軍艦がその燃料として重油を用ひてゐる事は周知の通りである。然るに國內產油は平時でさへ全需要量の一割をも充し得ざるが如き資源の乏しさであるから、夫の餘りにも有名なるクレマンソーの「石油の一滴は血液のそれに價する」は決して誇張ではないのである。

さて揮發油の用途を見れば其の九六%迄が自動車用であるから、自動車のガソリンの使ひ方によつて或る程度の燃料不足が緩和出來得る筈である。事更現在迄日本は頗る不經濟にガソリンを使用してゐたのであつて、一ケ年一臺當りのガソリン消費量を外國に比較して見るに、イタリー・フランスの四八〇ガロン、英國の七五〇ガロン、米國の七

五〇ガロンに對し日本は二二四〇ガロンを使つてゐるのである。何故斯かる甚しき相違を示すかと云ふに日本の自動車はその八割迄が營業用であり、その爲空軍運轉の多い事が最も大きな原因となつてゐるのである。東京市內のタクシー等は一日一臺平均六〇——八〇哩も空車運轉をなし、その爲四ガロン乃至五ガロンの揮發油を空費すると云ふ。從つて全國の營業用タクシー四萬臺が一月平均一ガロン宛節約すれば全國一ケ年の揮發油の五%が節約され得、又若し二ガロン宛節約すれば全體の一割が節約され得る事となるのである。

支那事變の勃發するや石油補給の確保・國際收支の適合の見地より逸早く第一次石油節約案が樹てられたが、事變が長期戰の段階に入ると共に其の節約は一層强化さるゝことゝなり、軍需の供給を確保し軍の作戰行動に遺憾なからしむると共に國際收支の適合にもかなひつゝ消費節約の目的を達成し、他面產業上交通上に及ぼす影響を出來得る限り少くするための適切なる處置は法制的に其の消費を規正するにありとなされ、こゝに切符制度が出現したのである。

斯かる重要な意義を持つ切符制度は本年五月一日より實施された。此の規定により石油の販賣業者及び精製業者は地方長官（東京にては警視總監）が發行する購買券と引換へでなければ揮發油及重油を賣渡す事が出來ず、又揮發油を購入しようとする者はそれを消費する月の前月の五日迄に所轄警察署長を經由して警視總監又は府縣知事に宛て購買券交付申請書を提出しなければならない事となつたのである。

交付申請書を受理した地方廳は之に基き管內の需要量を推定し商工大臣に對し割當の申請を行ふ。燃料局では各種の資料に基きその月に於て全國で消費さるべき揮發油、重油の數量が算出されて居り、その數量の中から少量の家庭使用其他二、三の購買券を要しない方面に消費されると思はれる揮發油と重油の數量を控除し殘餘を各地方廳に對し割當てるのである。石油の購買券は數量別には揮發油に於ては一ガロン券、五ガロン券、五立券、一八立券等八種、

重油に於ては十八立券、十竏券等の六種である。又色別には赤と青の二種で前者は海上用後者は陸上用であり兩者の流用は嚴禁されてゐる。

尙之に就いては罰則が設けられてゐる。即ち切符を所持せぬ者に販賣した時は一年以下の懲役又は五千圓以下の罰金に處せられる。又使用者は切符が餘つた際は之を警察に返さなければならず、又一旦交付を受ければ翌月の交付期日迄は購買券は交付されない。又販賣所に於ては引換へた購買券に引換と同時に直ちに販賣した場所及び引換年月日を書き入れなければならないのである。

例外として購買券の不用であるものは(イ)購入數量が揮發油一立以下重油五立以下の如き極く少量なる場合(ロ)御料品(ハ)官廳用品(ニ)軍用品(ホ)外國使臣用(ヘ)航空機用其他で商工省令第二條で規定してゐる。

勿論本制度の實施上に於ては產業上交通上重要なる揮發油及び重油が消費する方面の欲する丈充分に手に入らぬ事となる爲各方面に相當大きな影響を及ぼす事は言ふ迄もない。本年六月分の配給は自家用車三割、圓タク、トラックタクシー二割と言つた割一制限であつたが、事變の愈々長期體制を示すに伴ひ七月以降は更に一段と節減强化を要することになつたのである。即ち帝都のガソリン配給に於ても、トラックは各工場各市場の輸送用等緊切な軍民需要として特に大型約五分增小型約四分增が認められたが、自家用車は普通が約三割四分減、特殊が約四割減と大巾減量となり、バスは一割五、六分減、圓タクは新型一割五分減、舊型は二割五分減、ハイヤーは七、八分減となつてゐる。

(ロ) ガソリン混用品

ガソリンの消費を節約する意味に於て、ガソリン混用品として既に實用に供されてゐるものゝ一にアルコールがあり、ガソリンに無水アルコールを二割程混用して使用するのである。その二はベンゾールであり、飛行機用ガソリンには必ず混合する必要のあるものであるが自動車其他の使用に對しても混合して差支ない。然し兩者共其產額が少い

上にガソリン市價との開きが大なるため適切なる助成が必要とされる工業である。

無水アルコール工業に關しては最近特に軍民の關心が高められ政府も石油市價吊上げ、投資會社の設置を以て本格的に斯業の確立に乘出さんとしてゐる。即ち政府はアルコールを强制的に混用させる爲に第七十議會の協讃を經て揮發油及びアルコール混用法を昨年四月に公布し愈々本年七月から實施してゐる。アルコール强制混用に先だつて中央の各官廳では昨年の十一月から自動車全部に五%づゝの無水アルコールを混ぜてゐるが、七月一日より本年一杯の混用は差當り內燃機關用揮發油需要量の四分の一に對して五%と決定した。玆に於て無水アルコールの生產量を大規模に增加させ昭和十九年には約四十萬竏とし豫定の混用率二〇%に到達しようといふ豫想の下に昭和十二年度から七箇年計畫が實施された譯であつて、人造石油計畫と丁度並行して行く形にしてある。七月から十二月迄此の程度の混用なら先づ七千竏の無水アルコールがあれば間に合ふので現在製造量の方には少しも心配がないが、今後製造量を增加して行かうとする所に苦心が存するのである。原料の甘藷・馬鈴薯の蒐集に就いては農林省が各府縣へ連絡して十分供給出來るやうに活躍してゆくのであるが、國策を進めながら農村振興にもならうといふ點に無水アルコール混用の意義は一層深いのである。

現在製造に着手してゐる政府工場は千葉、石岡、肥後、大津、出水、高鍋の各工場で一工場當り年產三千六百竏、本年は之と同能力の政府工場が六箇所建設準備中と聞く。專賣局は直接工場の外に民間工場の製品も買上げてゐるので、昭和酒造會社は目下神奈川川崎工場で製造中であり熊本縣にも工場を計畫中、東亞酒精工業も群馬縣下に、東北興業も靑森縣下に工場建設の手配を進めてゐる。又內地丈でなく臺灣に於ては糖業聯合會が糖蜜を原料として製造する爲、島內製糖業者に生產割當を行ひ、南洋に於ては南洋興發、樺太に於ては王子製紙がパルプの廢液から相當量を造り上げる事となつてゐる。

強制混用の實施に於ては專賣局が石油會社に無水アルコールを拂渡し混用を行はせる事になるのであるが、何分現在の處、無水アルコールの生產費が高い爲、國家が損失を負擔するより手段はない。即ちガソリン一ガロンは市價六四錢であるに對し、無水アルコールを混用させるのには運搬費や混入費を計算に入れガロン當り五七錢で拂渡す事としてゐるが、無水アルコールの生產費は一ガロン一圓もするのであるから、ガロン當り四十三錢も損失となる。此の損失は專賣局が煙草に依る利益で埋合せる事となつてゐる。將來無水アルコール製造の技術が進んで現在より安價に製造出來る事となれば國の負擔もそれ丈少くて濟むやうになるであらう。內燃機關用のガソリンは航空機に使ふものは別として總需要量を三と一の割合に分け、一の方には必ず五%の無水アルコールを混入させようといふのが八月から行はれる强制混用である。揮發油アルコール混用法の第一條には揮發油の製造者輸入者はその工場が貯油所から揮發油を搬出する時又は工場が貯油所で揮發油を使用するか他の者に引渡す時には命令通りの無水アルコールを混用せよとされてある。即ち我國の强制混用は石油の製造會社や輸入業者に向つて混入の義務を負はせるものであつて政府から一定量の無水アルコールを購入する義務を負せるのではない。從つて混入の義務があるから否でも應でも專賣局からそれだけの無水アルコールは買はねばならぬと共に必ず混入を行はねばならぬ事としてある譯である。その代り總需要の四分の一の無水アルコール入りの揮發油が何處で賣られやうと勝手である。現在各國で行つてゐるアルコール混用制度は既に二十五箇國、その中七箇國が自由混用であり、こゝにも「持てる國と持たざる國」の相違が明確に表はれてゐる。

猶我國の混用用率は今の所內燃機關用需要量の四分の一に對して五%で、之は本年一杯であつて來年何うするかは未定であるが結局差當り混用率の五%を据置き混用の割合を四分の二か三とかいふ工合に增加して行き其後漸次二〇%迄混用率を引上げてゆく事と思はれる。

（八）其の他の積極的開發策

然し乍ら以上述べた如き消極的節約では完全に需要を充たす事は不可能である。こゝに能ふる限り國內石油資源の開發に對して積極的方策が採られる所以である。

第一に國內油田の開發である。政府は昭和二年以來試掘奬勵金を交付し開發を促進して來つた。而も產油狀況の思はしからぬのは奬勵金の過少なるにある。既開發礦區の深掘を遇めると共に試掘を盛んに行ひ新規油田の發見に努めれば相當增產の餘地ある事は疑ひないところである。

元來石油が油井を掘つて地上に汲み上げられる分量は全埋藏量の一割乃至二割に過ぎないのであり、又油井から油が噴出しなくなるのは地中に石油が盡きたのでなく石油を地上へ噴上げるだけのガスが無くなつたので地中には未だ澤山の石油所謂油層といふのがあり、その附近の土砂中に三〇%以上もの油が浸み込んでゐるとのことである。滿鐵では撫順のオイルシエーから重油をとつてゐるが、あの含有量は八%內外といふからこれを何等かの方法で掘り出せばよいのである。又我國の石油自給力が貧弱であつても決して油脈が無いわけではなく、越後邊りで昔は噴出したが今は廢坑になつてゐるものを深掘し、三十%も浸み込んでゐる土砂を掘出すのである。つまり掘り方が淺い爲に噴出が止まつてゐる處が尠くないやうであるから、之を米國の如く地下一萬米以上も掘つて行けば現在の何倍といふ產油を得るに違ひない。然し乍ら之には今後相當巨額の政府の補助費が必要とされる。三千米の井戸を試掘するにも百萬圓も要するのであるから現在の三ケ年に二千萬圓程度の奬勵金を以てしては增產は困難とされるのである。

次は海外油田の開發である。露領北樺太油田は北樺太石油會社の手で試掘が進められ、蘭領ボルネオ油田では芳和鑛業株式會社が試掘を行つて居り、其他滿洲、支那石油の開發も研究されてゐる。海外資源の調査開拓特に今後北支油田の開發は國內の開發さへ容易ならぬ事業である故、非常な難事業であるとは言へ、我國の實情より見て意義頗る

大なるものがあり且又本事變をして意義あらしむる上に於ても全力を傾倒すべきである。從つて國家は之に多大の援助を與へ事業の進展を期さねばならないのである。

三、代用燃料工業

我國の石油產額が民間需要の一割に過ぎず政府が增產を奬勵するも遲々として其の効果の上らぬ時、殘された唯一の途は代用燃料工業の確立である。その自給策の主なるものとしては(一)頁岩油(二)石炭低溫乾溜(三)石炭液化(四)瓦斯合成等がある。

(一) 頁岩油……撫順炭坑の油頁岩の乾溜事業は滿鐵に於て既に昭和四年十二月以來事業を開始し、年額百三十六萬噸の油母頁岩を處理し重油五萬五千噸、ガソリン一千噸、粗蠟一萬五千噸、骸炭四千噸、硫安一萬七千噸を產出したが、其後大擴張に依り十數萬噸の重油を採取してゐると言ふ。撫順の油母頁岩は埋藏量五十億噸に上り且頁岩油の利用如何に拘らず石炭露天掘に當つて是非採掘せねばならぬものであるから、頁岩油の製造に當つては特に採掘費を要せず副產物の利用と共に生產費は低廉であり前途ある工業である。

(二) 石炭低溫乾溜……石炭低溫乾溜法は石炭を攝氏五百乃至六百度迄にて乾溜すると一割位の低溫タールが得られ之を處理して輕質油を得るのである。最初この工業は代用燃料を目的とするものではなかつたが、當面の研究が實を結ぶに及んで本工業發達の機運を釀成した。

(三) 石炭液化……最近石炭の液化に就いて喧しく論ぜられ朝野の問題となつてゐるが、之は二百氣壓、四〇〇——四五〇度の溫度にて觸媒を用ひ石炭に水素を添加して石油を得るのであり、石炭三乃至四瓲より石油一瓲を產出し得ると言ふ。元來石炭液化の方法としては(a)アルコール合成法(b)膠質燃料製造法(c)ベンヂン合成法(d)フイ

ツシヤー法(e)乾溜法(f)直接液化法がありそれ〴〵一長一短を有してゐるが、日本にてその要求を滿し得べき方法はフイツシヤー法竝に直接液化法の二つであると云はれてゐる。此の事業は未だ十分に經濟的工業とは云ひ難いが、今後の技術進步・工業體系の合理化如何に依つて將來大規模に工業化されるものと思はれる。

液體燃料に關する日本の國情は獨逸に似るものあり、特に海軍當局に於ては艦船主燃料が重油である爲、本問題に對し特別なる關心を有し昭和三年以來德山燃料廠に於て撫順大山炭を原料とし研究の結果連續液化の實驗に成功し滿鐵撫順工場並に朝鮮窒素株式會社阿吾地工場を建設するに至つた。右に於ける滿鐵は昭和三年液體燃料自給自足の國策に共鳴し海軍に協力して活躍し更に同社中央試驗所に於ても鋭意研究し來たのであるが、昭和十年大規模企業が計畫せられて、同十一年松岡總裁の下に千四百萬圓を投じ一日石炭百噸を液化しつゝ燃料油年產二萬噸工場の建設が開始され、昭和十三年九月に試運轉が開始せられた。其後中央試驗所に於ける最近研究の結果を採り日本獨特の液化法が完成されるに至つてゐる。本會社は海軍の絕大なる支持の下に大成を急ぎつゝあり、之が完成の曉は我國產業國防上一大威力を增すものと頗る期待されてゐるのである。尙他方には滿洲油化會社が西安炭を低溫乾溜する方法で四平街に工場を建設中と云ふ事であり、此の三大會社が日本の石油饉饑を解消せしむるのも近き將來であることを切望して止まぬ次第である。現在我國で行はれてゐるフイシヤー法はフイツシヤー教授により研究せられたもの、近々十年間に今日の大工業化を遂げ得た事は驚くべき事である。

(四) 瓦斯合成……瓦斯合成は石炭、コークスを瓦斯化しその成分を水素瓦斯二、酸化炭素一の割合にしその混合瓦斯に壓力を加へ二百度の熱度に於て反應管の中を通過させ石油化するものである。三井鑛山が獨逸より特許權を買收し、三井、滿洲國、滿鐵の資本の下に續々新工場建設中と聞いてゐる。斯くて我國の液化事業は一大飛躍を遂げ實

驗期を脱せんとしてゐるのである。

四、石油事業の統制

(イ) 石油業法

石油は平時に必要なるのみならず、一朝有事の際石油が軍需品として不可缺のものであり國防上如何に重大な役割を果すかは論を俟たない。而も國内産油は僅かに全需要の一割に滿たず、その殆んど大部分は英米油に依存せねばならない狀態にある。此の實狀に鑑みれば石油國策の確立といふことは急務中の最急務でなければならない。斯る主張は玆十年來政府、軍部、民間當業者によつて頻りに高唱せられ來つたところである。

この要望の一部が漸く具體化されたのが第六十五議會の石油業法の制定である。商工省では石油業法に基き輸入業者及精製業者に對する販賣割當數量を定めてゐる。其の第一回は九年七月より同年十二月に至る半年分、次いで十年一月より十二月に至る一年分を決定通告したのであるが、十一年は年四回決定認可する事とし更に十二年度は半年分を一度に割當てる事に變更された。割當數量は十年の如き實需要より多く割當過剩による製品市價低落の弊があつたが、十一年から次第に改善せられ實需にピッタリして來てゐる。

各社は九月末日迄に翌年の事業計畫を商工省に提出する。商工省は之を基礎とし又石油需要の自然增加を考慮に加へて割當數量を査定し石油委員會に付議決定認可するのである。

業法の建前が一面に於て内地業者の保護助成にあるから内地精製業者は漸次割當を增加され、その我が石油市場に於ける立場を外油會社よりも益々有利化する傾向にあるは云ふ迄もない。個々の會社の割當は發表されぬが業法の趣旨からして内地産油の增加を實施した者に優先的に割當を增しそれから製油能力に過剩ある者に割當を增す方針が採られてゐる。石油業法の實施による販賣數量割當の實行に依り石油業確立の基礎が築かれたのであるが、爾來業者は

協力して販賣上の自力統制を進めて來た。

石油業法と共に生産會社側統制としては國産揮發油聯合會が設置され、九年六月所謂七社協定が成立して市場統制を確立したのであるが、之に引續き統制を强化すべく同年十月一日、日石・小倉・三菱商事の三社が國産揮發油聯合會を組織したのである。而して協定價格の嚴守に邁進し、更に積極的にガソリン市價の引上を企て商工省と折衝し十年一月からガロン三錢五厘の値上を實施したが、同年十一月に至りガソリン市價の更にガロン二錢五厘の引上げを行つた。聯合會の活動は市價引締め乃至引上げに止まらず、商工省の販賣クオータの範圍内で月々の各社のクオータを切り盛りするとか販賣地盤の不可侵を勵行するとか却々活潑であつた。更に市場統制を强化し販賣の合理化を圖る爲十一年三月、日石、小倉、三菱、早山、愛國、日ソ石油の七社が株主となつて石油聯合會社が創立され、ガソリン市價の引締めを進め十一年六月よりガロン五錢の値上を實施した。

又燈油の販賣統制に關しては燈油聯合會、輕油、機械油に對しては硬油、精製業聯合會があり、重油聯合會、アスファルト聯合會があり、斯の如く現在の石油業は統制が著しく强化せられるに至つてゐる。

次に石油業法は第五條に石油輸入業者及び精製業者に對し、一定量の石油保有の義務を負はしめてゐる。即ち平時國内に多量貯藏せしめ有事の際に軍用に供せん爲石油國策確立の一手段として各社に犧牲を負擔せしめたのである。保有すべき石油は輸入したる鑛物性の揮發油、重油又は原油とし保有數量は種別毎に一年間輸入した數量の二分の一以上となつてゐる。

(ロ) 石油資源增産法

次に政府は國内油田開發の爲め石油資源增産法を制定した。之は政府が試掘奬勵金制度を設け油井試掘奬勵金を交附する事とし昭和十一年より五ケ年間四百五十萬圓を計出してゐたのであるが、事變勃發と共に俄かに增産に迫られ

昭和十三年以降三ヶ年間に二千萬圓を支出する事に改められた。但し既述の如く到底斯くの如き少額の奬勵金では萬全は期し難いと思はれるのである。勿論民間會社に於ては政府の奬勵金を待つ迄もなく會社の生命である油田を獲得する爲、常に試掘を行ひ新しい油田の開發に努力してゐるのである。

（八）人造石油事業法及び帝國燃料興業株式會社法

油田の開發も勿論必要であるが現在の日本としては差當り人造石油工業の發展により多くの可能性が見出し得るのであつてこの結論が遂に昭和十二年八月九日公布の人造石油事業法及び帝國燃料興業株式會社法となつたのである。

人造石油事業法に依れば所得稅、營業收益稅は免除せられ、此の事業に使用する機械器具材料等も七年間輸入免除となり且人造石油に對しては奬勵金が交付せられる。又會社擴張或は社債發行の限度にも保護を受け得るのである。但し事業計畫或は其の變更等一々政府の許可を受け財產狀態の報告をなす義務を有し、又軍事上必要に應じて製造に關する特殊設備を命ぜられ政府の購入に對し拒絕し得ない義務を有する。

帝國燃料興業株式會社法は人造石油事業法の趣旨に基き代用燃料工業の積極的發展を企圖するもので、七ヶ年計畫に依り人造石油年產二百萬瓲を生產する爲、帝國燃料興業株式會社なる投資會社が諸代用燃料會社に資本的援助を與へんとするものである。同會社は資本金一億圓で內五千萬圓は政府出資半額は民間會社出資と言ふ半官半民の會社で存立期間は五十年である。投資會社を本分とするが政府の許可を得れば販賣をも爲し得る。勿論業務に關しては政府の命令に從はねばならぬが、政府以外の株式に對する配當金額が六分に達しない際は政府の株式に對し配當する必要がなく却つてその額に達する迄補給を受けるの特典を有してゐる。

現在政府では樺太に封鎖炭田推定約十億噸を所有してゐるがこれを開放するか否かは燃料問題の解決策として當然俎上に上り來り、政府及び民間關係方面では從前から之に就て研究論議してゐた所、今回燃料局參與會議席上で愈々

これを開放する事に決定した。而してその開發は帝國燃料會社に依つて行はれる事となり產出された石炭は總て液化に使用される事となつた。此の爲帝燃ではガソリン年產廿萬噸を目標として三億五千萬圓程度の子會社が創立されるものと見られ、其の具體的方法に關しては目下準備中といふ事である。斯くて此の會社は國策の線に沿つて雄々しく其の第一歩を踏み出したのである。

今次事變が文字通りの長期戰となり我が國力の總てを傾倒して東洋永遠の平和を目指す聖戰に邁進しつゝあるとき外にあつてはソ聯・英・米・佛諸國の對蔣援助は益々露骨化せんとしてゐる。

石油需要の九割三分を外油乃至外國原油の輸入精製に俟ち特に英米油に依存すること大なる我國現狀を之と併せ考察するとき、內外油田の開發に代用燃料工業の確立に、その供給に完璧を期し得る日の一日も速かならんことを切望して止まぬ次第である。

捕鯨業に就いて

五B　鈴木康郎

はしがき

地球表面積の三分の二を占める海に於ては、陸と異り海岸を距る數浬を除いた海洋を公海と稱し、世界何れの國民たるを問はず自由に航海し、自由に漁業を行ひ得る。而して其の渺々たる海區は、上中層に無數の獸魚類游泳し、海底には貝藻の類生育して實に莫大な資源を藏してゐる。

然し乍ら之を利用しその恩惠に浴し得るものは、海に繞らされた國土に住み、海を好む勇敢な國民でなくてはならぬ。我が國民は東海は浮ぶ島國に住み、自ら海國男子と稱へて、勇猛果敢海を征せんとする氣風に燃えてゐた。唯過去二百二十年に亙つた鎖國政策の爲一時此の精神は抑壓せられてゐたが、明治維新と共に復活し、更にその卓絶せる漁撈採藻の技は歐米新知識の吸收と科學の應用により益々冴へ、斯くて今や年產四億圓、水產日本は世界獨歩の地位を占むるに至つたのである。其の一つとしての工船漁業は日本人獨特の創意になれる新漁法で、蟹工船、母船式鮭鱒漁法は既に輝かしき隆盛を示してゐる。而して斯かる漁法に依り最近非常な勢で勃興し、英・諸等の先進國の脅威となつてゐるのが今こゝに述べる捕鯨業である。鯨は數多ある海の幸の中最も豪華なもの、之を逐つて海外に進出する捕鯨業の姿こそ海國日本のシンボルではなからうか。

一、捕鯨業發達史

1　歐米捕鯨史

世界の捕鯨は可成り古くから行はれてゐたものゝ如く、古代バビロニヤに創まると云はれてゐる。然し乍ら之は寧ろ傳說に屬するものであり、その他は九世紀頃の北歐の海洋及びフランダアス沖に於ける捕鯨記錄、それからノルマン人の侵入以前、英國海峽で行はれたと云ふ記錄が文獻中に散見される程度である。而して一般的に認められてゐるのはバスク人に依つてなされたビスケー灣の捕鯨であつて、之が愈々企業として登場したのは十二世紀、當時イギリス政府は鯨油の有利を見込み捕鯨課稅をしたと云ふ。斯くて漁場は沿岸から沖合へ更に遠洋へと移つて、十六世紀にはスピツツベルゲン諸島附近の黃金時代を現出した。當時の出漁船は實に二百隻の多きに達したが、漁場も更にアイスランド方面に擴張し、アメリカが覺醒するに及び遂に全世界に擴がるに至つた。然し乍ら當時は專ら帆船を用ひて居たので獲物は絕命後沈まざる抹香・背美の類に限られて居たのである。

ところが西曆一八六八年ノルウエー人、スウエンド・フオイン氏が捕鯨銃を發明するに及んで漁法に一大改革を齎した。之即ちノルウエー式捕鯨船の出現であり汽船捕鯨時代の發足である。此の方法は船首に大砲を据付けた二、三百噸の汽船で出漁し、漁場にて鯨を發見するや大形の爆發銛を鯨體に打込んで捕獲し、捕獲した鯨は船側に曳航して根據地に歸り陸揚處理を行ふものである。之は帆船に依る場合より總ての點に有利な爲、十年の後には三十五隻の此式捕鯨船を數ふる盛況を示したのである。

然し乍ら北洋方面は永年の濫獲で産額著るしく減じるに至り遂に一九〇四年ノルウエー政府は今後十年間沿岸捕鯨を禁止する旨の命令を出した程である。玆に於て業者は早くも此の方面に見切をつけ、新漁場を求めて南下、やがて南極圏にその姿を現はすに至つた。即ち一九〇四年ランセン氏はアルゼンチン漁業會社を創立して南ジョルジヤ島に於て捕鯨を開始した。而して其の成績の良好なるに漸く各國の視線を集め、サンデフヨルドヂア捕鯨會社・トンスベルグ捕鯨會社等が續出したのであるが、それとても殆んど諸威人の業績であつた。

然るに此の情勢を觀て心良からず思つた英國は是等捕鯨業を壓迫せんとする意向の下に、南ジョルジヤ島に於ける根據地の制限を發表するに至つた。元來ノルウエー式捕鯨はその作業船が小形汽船である爲、出漁區域も百浬乃至二百浬に限られ且陸上に獲物處理をなす一定の根據地が必要であるから、之が支配をする國の掣肘を受けねばならなかつたのである。其後英國の壓迫は更に南フオークランド・南オーク・ニー等に延びるに及んだので、發展途上の諸威捕鯨業はこゝに一策を案じてロツス海出漁を發表した。即ち中古貨客船に貯油設備をなし陸上根據地に替へ、その舷側で處理するものであつて、工船捕鯨と言はれるのが之である。然し乍ら此の方法も鯨を海上に置く爲處理能率惡く折角の獲物も僅かの中に腐敗する有樣で且その作業には靜かな港灣を要する爲、依然英國の掣肘を受ける結果に終つたである。

玆に於て諸威人は更に研究を重ね、遂に大正十五年に至つて工船内に鯨を引込む裝置をなし、果敢にも根據地を公海に移した。之は諸威人メンソム氏の計畫で工船ランシング號によつて始めて試みられ、現在の母船式捕鯨法の濫腸をなすものである。而してその經營が見事成功するや公海捕鯨業を營むものが續出し、ロツス海にも此の種英國の許可を受けぬ工船が忽ち五隻を數ふるに至つたのである。船體も始めは中古貨客船を用ひてゐたが、後には優秀な專門の母船が建造されるやうになり、その最初のものがコスモス號（諸・二萬二千噸）である。

以來遠洋捕鯨業は此の方法に依り世界的規模の下に發展し、特に南氷洋に出漁の母船は益々その數を增し、今日では南氷洋黃金時代を現出してゐる。

メンソムの發明以來の發達經過を示すと次の通りである。

年別	工船	捕鯨船	捕獲數（頭）	鯨油生産高（噸）
一九二六——二七年	一七	八〇	一二、六六五	一四五、三九四
一九二七——二八年	一八	八四	一三、七七五	一七二、八九九
一九二八——二九年	二六	一一一	二〇、三四一	二七一、八九〇
一九二九——三〇年	三八	一九四	三〇、一六七	四二四、四六〇
一九三〇——三一年	四一	二三二	四〇、二〇一	六〇一、三九一
一九三一——三二年	五	四五	九、五七二	一三四、七六〇
一九三二——三三年	一七	一一八	二四、三二七	四〇九、四一〇
一九三三——三四年	一九	一二六	二六、〇八七	三九九、二五七
一九三四——三五年	二三	一五三	三一、八〇八	四〇九、〇〇〇
一九三五——三六年	二四	一七五	三〇、九九一	四〇六、〇二六
一九三六——三七年	三〇	一八五	三四、五七九	四四三、〇三一

2 日本捕鯨業史

歐米捕鯨業の沿革は大體以上の通りであるが我が國では如何であつたらうか。

鯨は古來「勇魚」と呼ばれ神武天皇御東征の砌熊野地方沿岸の住民が鯨を捕獲した事實があると傳へられ、又日本書記や萬葉集に伊佐儺（いさな）或は文知良（くちら）等と記載されてゐる。それはさて置き捕鯨と云ふことがはつきり記錄に殘つてゐるのは今から約七百五十年程前鎌倉時代であつて、當時紀州太地浦が捕鯨場として開かれたと云ふことである。此の頃の捕鯨は歐米の如き帆船ではなくして單なる和船であつた。而して捕鯨の方法も長柄の槍、或は銛樣のもので突殺し、肉を食料とし、油を燃料に自給するに留つてゐたが、之に營利的色彩の加味せられたのは今から約三百五十年前豐臣時代からである。

それから又百年近くも經て江戸時代の延實年間にはこの原始的な漁法が稍進歩して網代式捕鯨法に移つた。此の方法は地形を利用し網を以て鯨を搦取るものであつて日本捕鯨事業の一進歩となつた譯である。その後文化・天保・嘉永と此の漁法は殷賑を極めて全國三十九ヶ所の根據地を算し、特に黑潮に突出した紀伊・土佐更に肥前等が中心をなしてゐたのである。然るに文化二年頃米國の捕鯨船は日本近海に鯨の棲息の多き事を探知し、鎖國の爲我が業者の出漁しなかつた沖合に於て擅に跋扈した。當時小笠原諸島は米國捕鯨船の根據地となり數十隻が常に集合して居たと云ふ。又露國も極東に進出し、明治維新前後朝鮮や九州沿海に來つて捕鯨に從事したので近海の鯨は激減し殊に背美鯨は殆んど絶滅に近くなつた。網代式は明治三十五年頃迄續いたが、之等外國船の長年に亙る濫獲と近海の鯨の次第に遠ざかる傾向から日本捕鯨界はすつかり衰退して仕舞つたのである。

我國が外國の漁法を取入れた最初のものは米國式銛突殺法で明治二十七年頃の事であつた。之は百噸内外の帆船を母船となし、之に積載した多數の捕鯨艇を以て鯨體に爆發銛を打込み捕獲するものである。然し此の式捕鯨は相當の

危險を伴ひ目左程有利でもなかつたので餘り發達しなかつた。

所が明治二十八年露國のカンゼリング伯の率ゐる露國太平洋漁業會社は政府保護の下にノルウエー式捕鯨船二隻を日本海に浮べ、浦鹽を中心に朝鮮沿岸に斯業を營み、巨額の鯨油・鯨肉が長崎に流入したのである。然るに此事業は單に貿易上のみでなく、當時の情勢から必然的に來る軍事上の意味も多分に含まれてゐたのである。

之に對し我が國捕鯨業は前述の如き狀態にあつた關係から大飛躍を必要とし、こゝに先覺者は敢然ノルウエー式捕鯨法を輸入したのである。即ち山口縣人岡十郎氏の首唱で明治三十二年日本遠洋漁業會社（資本金十萬圓）が設立された。此の擧は當時沈滯しきつてゐた我が業界に活を入れたものであつたが、何分同社は業務に經驗がなかつた上災厄頻りに至り將に解散の運命を辿らんとした。ところが幸にも三十四、五年に於て遠洋漁業奬勵法に依り一萬八千圓を下附せられ、更に刻苦經營の結果辛うじて挽回し漸く成績の向上を見るに至つた。後資本金を五十萬圓に增加して東洋捕鯨會社と改稱、五割から八割の配當を續ける程の好調であつた。

日露戰爭の結果ロシヤ捕鯨船は我が有に歸し、之に戰後の事業熱も手傳つて戰前十隻の捕鯨船が一躍三十隻、就業會社十三を數ふる大發展をなした。之が爲、各社共漁場の爭奪漁獲の競走果ては販路を爭ふ結果となり、販賣價格は平衡を失つて共倒れの窮地に陷つた。こゝに於て捕鯨業合同の議が起り幾多商議の結果、遂に明治四十二年大多數の會社は東洋捕鯨に合併せらるゝに至つた。一方政府に於ても鯨の繁殖保護並びに捕鯨業の將來の爲、同年十月鯨漁取締規則を發布して捕鯨汽船を三十隻以内に制限、同時に遠洋漁業奬勵金の下附を廢した。爾後二十一年間此の狀態の儘順調な經過を辿つたのであつたが、昭和五年に至り世界的不景氣に鯨油の生産激增が加はり鯨油市價は大暴落、四年間に亙り無配當を繰返した。其の後現今迄はその恢復時代で、昭和九年には許可隻數を二十五隻に減じたが、沿岸捕鯨は既に行詰り狀態を示しこゝに外洋への進出が問題となつた。

そこで業者が着目したのが當時好調の波に乘つてゐた母船式捕鯨である。元來この捕鯨法は既に昭和四年企業に着手せんとして舊東洋捕鯨會社が英國汽船ベルタナ號を買收したことがある。然し偶々前述の不況で到底收支の見込が立たなくなつた爲、遂に起業を見送り、その汽船を處分した。その後同社が日本捕鯨に成立するや、工船企業は急速に具體化し、昭和九年ノルウエー工船アンタークチツク號（南極の意）及び附屬捕鯨船三隻が一括購入された。而して之を「圖南丸」と命名し本邦へ回航の途次試驗的に出漁し、白瀬中尉以來二十五年にして再び南氷洋上に日の丸が翻つた。その結果捕獲頭數二一三、鯨油生產二千噸と云ふ好成績を收めたので翌十年から正式に出漁するに至つたのである。

その後日本最初の國產母船日新丸が世界驚異の短時日で完成して威力を副へ、以後幾何ならざる今日既に先進國の水準に達したのである。

◎沿岸汽船捕鯨漁業統計

年度	内地 頭數（頭）	内地 金額（千圓）	外地 頭數（頭）	外地 金額（千圓）
大正五年	一、四二五	一、〇一五	三六六	三五〇
六年	一、一二七	一、〇四六	四〇七	六二一
七年	一、七六八	一、八二八	三七六	八八〇
八年	一、三六五	一、七六八	三一一	九三七

年				
九年	九九六	一、六二三	二八三	一、〇一四
十年	一、一〇〇	一、二九二	三八七	七五四
十一年	一、二〇五	一、二二四	三〇一	六九三
十二年	一、一六六	一、四一六	二五六	六二九
十三年	一、三三〇	一、七二五	一九三	四二三
十四年	一、三四八	一、三五三	二四〇	五八〇
十五年	一、六一四	一、五三五	二五一	五八一
昭和二年	一、一七七	一、三〇七	三六九	七八〇
三年	一、一一八	一、四五三	三三二	一八三
四年	一、二二〇	一、四七三	二五五	五五八
五年	一、三六八	一、二四六	三四九	一一二
六年	一、〇〇四	七六六	二一一	三七五
七年	一、一一二	八五〇	二〇六	三四六
八年	一、一五六	一、一四二	二〇二	四三三
九年	一、三五六	一、九九一	一二三	四二九
十年	一、五九八	二、四六六	一七三	六四七
十一年	一、六四一	二、五七七	一七三	七五四

二、捕鯨業の現狀

1 日本

(イ) 沿岸捕鯨

斯くて我が捕鯨業の中心は南氷洋に移つたが、沿岸捕鯨とても決して見逃すべきものでなく世界に於ても五指の一つに數へられる漁場である。沿岸捕鯨の範圍は北緯五十三度より南緯四十度の範圍であるが日本近海には四時に亙つて鯨の洄游がある。即ち長須鯨は毎年十一月頃から翌年三月、白長須は十二月から翌年六月、抹香は七月から翌年一、二月、鰯鯨は二月から五月、更に脊美鯨は九月から翌年五月にかけてが漁期である。

我が國沿岸には至るところ鯨が洄游し特に金華山・紀州・肥前沖等は昔から有名であつたが、現在でも一番好調なのは依然三陸沖で、之に次ぐものは北海道・小笠原・朝鮮・西南地區等である。沿海には昭和十一年度現在で四十四の根據地があり、之が其の時季〳〵により順次開かれるので、牡鹿半島尖端の鮎川港の如きは四時鯨漁のあることで世界捕鯨界の白眉となつてゐる。

主たる根據地に於ける昭和十一年一ヶ年の捕獲高は次の通りである。

國名	頭數(頭)	金額(圓)	國名	頭數(頭)	金額(圓)
霧多布	齒	一三〇、〇五七	單冠	九一	一〇五、〇八二
斜古丹	二八	八六、七〇〇	厚厚	二六	四四、〇〇〇

藥取	一五	三二、五〇〇	大河內	五	七、六一〇
紗那	三二六	五七八、二八一	大黑山島	三〇	一五三、二七〇
鮎川	八九七	一、〇四六、四〇六	蔚山	六七	三二六、九四三
大島	四七	七七、七九五	濟州島	三八	一七八、九七八
小笠原	一三四	二九九、六二七	大板持	三〇	六八、四五五
呼子	八	七、六三四	札塔	一八	三七、六七七

現在沿岸捕鯨は大部分ノルウェー式汽船捕鯨により次の四會社が之に當つてゐるが、之は長須・抹香等の大型鯨を目的としてゐて、此の外に千葉・和歌山邊の本業とせざる漁民が磯・樋頭等の小型鯨をも捕獲してゐる。

	創立年月日	許可船數	根據地	資本金
日本水産捕鯨部	昭和十一年九月	一九	三〇	九千三百圓
土佐捕鯨	大正六年十月	四	九	五十萬圓
遠雄捕鯨	昭和五年十一月	一	四	二十萬圓
鮎川捕鯨	大正十四年七月	一	一	三十萬圓

右の中日本水産は資本金九千三百萬圓を擁し世界有數の漁業會社であつて、捕鯨部は昭和九年日本捕鯨（四百萬圓）が創立され舊東洋捕鯨の事業一切を讓受け操業してゐたものが、昭和十一年九月に至つて共同漁業（日本水産に

改稱）に合併された結果その一部として今日に及んだものである。現在本社で沿岸捕鯨船の七割六分と云ふ壓倒的勢力を占めてゐるが、又本邦母船式捕鯨の創始者でもあつて本邦捕鯨業を牛耳つてゐる。土佐捕鯨は殆んど全部が林兼商店の持株であり遠洋捕鯨又林兼系統である。

日本の捕鯨業は昭和六七年を底に再び向上し本年度も殊の外豊漁の由であるが、鯨油生産高も之に伴ひ近時急激な增加を示してゐる。然るに鯨油の輸出は頗る不振で數量的には減退傾向を示し、爲に内地市場は滯貨壓迫で相場も軟調を呈してゐる。

（ロ）南氷洋捕鯨

我國の母船捕鯨は前述の如く昭和九年日本捕鯨の第一圖南丸が南氷洋に試漁したのを嚆矢とするが、翌十年度には同船に五隻の捕鯨船を配して出漁、更に翌年度には大洋捕鯨の國產新造母船日新丸が之に加つたので成績は一躍倍加した。昨年度日本水產・大洋捕鯨兩社に夫々第二圖南丸、第二日進丸を追加計四隻は九月下旬事變に湧立つ内地を後に國際捕鯨戰場に向つたのである。

而して十一月漁場に到着以來濃霧怒濤と戰ふこと四ヶ月、六萬噸を突破する鯨油を得、大いに海國日本の意氣を發揚したのである。日本の參加以來の成績は左の通りである。

出漁年度	母船	捕鯨船	捕鯨頭數（頭）	鯨油採取量（噸）
昭和九年——十年	一	三	二一三	二、〇〇六
十年——十一年	一	五	六三九	七、三五八
十一年——十二年	二	一三	一、九七八	二六、一二二
十二年——十三年	四	三〇	五、五六五	六五、一一三

南氷洋の漁場は本土を離れること六千五百浬、南極を中心に南緯六十二度から六十五度——周海一萬浬である。現在の活躍舞臺は五、六千浬であつて日本は主として濠洲南方で操業してゐる。

漁期は十一月から翌年三月に亙るもので、我が捕鯨船隊は九月下旬から十月上旬本國を出帆し一路南下す。フリマントル港にて最後の準備をなし、更に南に向へば、行手はよるべなき大海原猛烈な暴風圈濃霧圈を突破したところ、波は却つて靜かになり、やがて巨大なる氷山の出現を見るに至る。船は之より晝間のみ進航し氷原の尖端沖合に至つて愈々操業を開始する。南氷洋は三千——四千米の深海である爲漂泊の外なく、捕鯨船は母船の周圍五十浬を限度に縱横に鯨を追ふのである。

ところで先づ南氷洋に何故斯く鯨が居るかと云ふ問題であるが、漁期の十一月——三月は丁度南氷洋の春夏であつて、此の時分になると氷原の一部が融けて氷山として流出する。氷は雨雪の凍つたもので淡水であり、之と低氣壓（七百ミリ七百二十ミリ）を利用して海上一面に浮游生物が繁殖し爲に之を餌とするアミが群生するのである。此のアミが又鯨にとつては大の好物故印度洋・太平洋・大西洋の鯨群は一齊に此の方面に蝟集するものである。

南氷洋の鯨は長須鯨・白長須鯨・座頭鯨・抹香鯨で白長須・長須が最も多く座頭は前者に比し甚だ價値が落ちる爲捕獲せぬこともある。抹香鯨の油は昨年度に於て二千八百二十九噸の採取があつたが、油の種類が異る爲日本の如く設備なき母船では緩衝物として用ひるのみである。

捕鯨船は二百三十噸から三百噸で乘組員は二十名前後、船首の口徑三吋半砲より發射する銛は全長六呎二吋で六百六十尋の綱が船を繫いでゐる。游泳する鯨を發見するや直に逐跡十五米乃至二十米に追ひつめ此の銛を射出する。銛の尖端は十吋の圓筒形で銛が鯨體に命中すれば三秒間に炸裂し銛爪は開いて拔けなくなる。之は心臟部で炸裂するを理想とするが、外れた場合には第二發、第三發を必要とし甚だ慘酷である故、一發で簡單に殺す方法が考案された。

即ち銛が鯨に命中すると同時に電流を送つて(電殺送つて)電殺する方法で獨逸人ウェーヴァ教授の發明にかゝるものは未だ多少の難點はあるが今後大いに發展しやう。

さて一日の捕鯨が終ると射止めた鯨を航側に母船に歸り、獲物は漸次船尾の斜路から上甲板に引上げられて解剖、採油が行はれる、皮・肉・骨は種類別に一尺――一尺五寸の細邊として甲板下のボイラーに投じ、搾つた油はセバレーターで水分や不純分を分離船底のタンクに貯臓する。鯨一頭の處理には一時間――一時間半を要するので一日二十五、六頭等と云ふ大漁が續くと獲物は腐敗し放棄の止むなきに至ると云ふ。

斯くて鯨と氷山に日は流れ、十二月の夏至を過ぎ一月に入ると英・諸の仲積船が來り洋上に鯨油の積渡しが行はれ一方捕鯨は最高潮に達し晝夜の別なく操業が行はれ、やがて三月に入れば美しい極光が極地の冬近づくを示し、氣溫は〇・六、七、八度と低下、鯨も一部の越年鯨を殘して北上する。こゝに南氷洋捕鯨戰は終幕を遂げ各船隊はそれ〴〵故國への歸還を急ぐのである。

我が國の南氷洋捕鯨は歴史が直ちに現勢となる程新しいにも拘らず、毎年倍數的に增して今日では押しも押されもせぬ基礎を固めてきたのであるが、之を國際的に見るならば未だ劣勢をまぬかれぬのである。

即ち次表に見る如く日本は英・諸・獨に次ぎ第四位にあるとは云へ、其の差甚だ大で出漁船は八分の一、鯨油生産一割一分と云ふ狀態で今後一層進出の餘地を殘してゐる。故に政府に於ても積極的保護策を講じ先づ十隻十七萬噸の母船と附屬船八十六隻を許可してゐる。本年度は既に操業中の母船四隻、捕鯨船三十隻の外極洋捕鯨の極洋丸、日本水産の第三圖南丸及び附屬船十八隻が竣工し計六船隊四十八隻が堂々の陣で出漁した。

現在母船事業を營んで居る會社は三つであるが、會社間には砲手の引拔禁止や船員への報酬等に付き互に連絡をとつてゐる。

◎昭和十三年度南氷洋國別成績

國別	母船	捕鯨船	鯨油(バーレル1/6噸)	頭數
日本	四	三〇	三八四、二六七	五、五六五
諸威	九	六九	九七六、二二〇	一二、八〇一
英國	一〇	八三	一、一一三、四三四	一五、二八〇
獨逸(未確定)	五	三六	四七一、〇一三	六、三八七
パナマ國	一	八	六九、〇〇〇	―
米國	九	九	一一六、五〇〇	一、五二七
		九	一一四、〇〇〇	一、五六〇

日本水産捕鯨部　日本水産は沿岸捕鯨に於て斷然他を押へてゐるが母船式捕鯨に於ても其の開祖として今尙優勢で許可母船數四隻の内既に完成したものは三隻である。即ち昨年出漁したのは圖南丸(九八三八噸)第二圖南丸(一九二六二噸)と附屬船十五隻で、今年度は姉妹船第三圖南丸(一九二六二噸)捕鯨船十隻が完成し他社に優位を示すに至つたのである。

大洋捕鯨株式會社(資本金一千五百萬圓)　林兼商店の傍系會社の一つではあるが、當社は寧ろ其の主流事業と云ふべきもので林兼商店、土佐捕鯨、沖取漁業三社にかゝるものである。許可母船は三隻で、昨年度は第一日新丸(一六七六四噸)第二日新丸(一七五八三噸)が捕鯨船十六隻と共に出漁し捕獲頭數二、八八九頭採油量三四、六五八

噸の成果を收めた。

極洋捕鯨株式會社　スマトラ拓殖に依り昨年九月創立された資本金貳千萬圓の會社で本年十月完成の極洋丸（約一八〇〇〇噸）と附屬捕鯨船九隻で南氷洋へ乘出すに至つた。尙鐘紡では現在の石巻事業の一助として捕鯨事業に進出することになりスマトラ拓殖所有の當社株十萬株の讓渡を受けたと云ふ。

大日本遠洋捕鯨株式會社　資本金五千萬圓で母船二萬噸級二隻捕鯨船十隻が昨年認可されたもので、昭和十五年より操業する豫定である。

又捕鯨業關係者の團體としては日本捕鯨業水産組合と云ふのがある。之は明治四十二年一月、日露戰爭後の會社亂立を統制せん爲東洋捕鯨・長崎捕鯨等を中心に創立されたものである。當時餘り顯著な効果を表さなかつたが其後幾多の變遷を經て日本水産・大洋捕鯨・土佐捕鯨等內外地一圓の業者を網羅し政府への答申交渉等に當つてゐる。

捕鯨關係規則には明治四十二年に公布された鯨漁取締規則の外に母船漁業取締規則中に母船捕鯨に關する條項あり、區域・期間の制限・捕獲禁止鯨が指定され、又鯨の利用や事業報告書類の提出が定められてゐる。因みに右は今回の國際捕鯨協定加入決定に伴ひ六月八日改正公布されたものである。

以上で大體現在行はれてゐる地方に就いて述べたが更に眼を北に轉じて北太平洋・カムチヤツカ・ベーリング海・北氷洋方面は如何と云ふに此の方面は全くソ聯の獨壇場となつてゐる。即ち昭和八年よりロシヤ母船アレウト號外三隻の捕鯨船が毎夏期を期して操業してゐるもので一九三三年二百四頭、四年三百三十九頭、五年四百八十九頭、六年五百一頭と公表してゐる。我が政府に於ても國策的見地から日本水産・林兼兩業者に出漁を勸奬し既で昨年調査船が出てゐることだから早晩進出するものと見られてゐる。

然らば世界に於ては如何なる情勢であらう。古來鯨は洋の東西暖寒を問はず世界各洋に洄游せざるところなかつたが、永年の濫獲によつて、北太西洋既に衰へ、現在漁場は赤道以南アフリカ・南氷洋に移つたの感がある。殊に南氷洋は世界の約七十パーセントを占め斷然他を壓し一九三一年度の如きは九三・八パーセントと云ふ驚くべき數字を示してゐる。南氷洋に次ぐ漁場たるアフリカ・日本近海でさへ捕獲高はその十分の一そこ〳〵で今日は全くの南氷洋時代と云ふべく、各國はその勢力を此の方面に集中して居る。然し他地方とても決して眠つて居るわけでなく、常に新漁場の開發が行はれて居るので、マダカスカル沖・ペルー沖・西オーストラリヤ等は其の優たるものである。

世界捕鯨業の過去を尋ねると、其の成績は常に向上を示し、一九三一年度の如き異常な增加をも此の二三年遙かに突破して居るのである。之は勿論南氷洋捕鯨の依然たる增加に依るが他の地方がより好調であることも其の一因をなして居るので、南氷洋捕鯨が一九三一年度より劣る今日、世界總捕獲高に於ては過去の成績を遙に凌駕して居ることは此の間の事情を物語るものではなからうか。

◎世界捕鯨高

年度	世界總額	南氷洋	北極洋	アフリカ	北太平洋	日本	カムチヤツカ	其ノ他
一九一九——二〇年	一一、三六九	五、四一	一、四五六	一、三一〇	一、七六三	一、二七九	—	一三〇
一九二〇——二一年	一三、一七四	八、四四八	三一〇	一、一六三	一二九	一、四八七	—	五三七
一九二一——二二年	一三、九四〇	七、〇三三	九一八	二、三三五	一、三五六	一、五〇六	—	八〇三
一九二二——二三年	一八、二一〇	九、九二〇	一、二〇四	三、一〇五	一、三六三	一、四三三	—	一、一一六

一九二三——二四年	一六、八三九	七、二七一	一、六六七	三、六四九	一、一〇二	一、五二六	—	一、六二四
一九二四——二五年	二三、三五三	一〇、四八八	一、五三三	四、三八四	一、八九二	一、八七五	—	三、〇九一
一九二五——二六年	二八、一九三	一四、二一九	一、五八八	四、六四六	一、八〇四	二、一四八	—	三、七八八
一九二六——二七年	二四、一七五	一二、六六五	一、四〇三	四、一四四	二、〇六四	一、五四六	—	二、三五三
一九二七——二八年	二三、五三四	一三、七五五	一、五六一	三、八三五	一、四一二	一、六〇七	—	一、三三四
一九二八——二九年	二七、八九六	二〇、二四一	一、一五九	三、三六二	一、二四一	一、四六三	—	三三〇
一九二九——三〇年	三七、六七四	三〇、一六七	一、四七二	三、四九八	九七五	一、三一二	—	二五〇
一九三〇——三一年	四二、八七四	四〇、一〇一	七〇三	八二三	—	一、一四七	—	—
一九三一——三二年	一三、七九七	九、五七二	八二七	一、〇四三	三一九	一、〇三六	—	—
一九三二——三三年	二八、六六八	二四、三二七	一、〇〇四	一、一六八	五九一	一、一二	二〇三	二五三
一九三三——三四年	三三、一六七	二六、〇八七	五八三	二、三九二	一、〇一九	一、四二六	三三九	三一一
一九三四——三五年	三九、二五四	三一、八〇八	五六八	三、〇〇四	八五五	一、七八七	四八七	七四五
一九三五——三六年	四四、七八二	三〇、九九一	七〇五	三、七六八	八五七	一、八四〇	五〇一	六、一二〇
一九三六——三七年	五一、二五六	三四、五七九	一、八四三	三、九六六	七三〇	二、〇六六	四一八	七、六五四

斯くて一九三六——三七年度のシーズンに於て南氷洋を除く他地方の總捕獲高は全體の三十二・五%を占めて居るが、鯨油生産高となると未だ十七・二%に過ぎず甚だ奇異の感に堪へぬ。之は其の捕鯨組織が異つて居る爲であつ

て南氷洋の如き寒地方の鯨が暖地の鯨より種類上鯨油の生産量が大であること、及び日本の如く採油を專門とせざる方のあることに原因してゐるのである。

◎一九三六——三七の各地捕鯨成績

地方別	捕獲頭數	鯨油生産高（バーレル）	根據地	母船	捕鯨船
サウスジョルジヤ	一、七五八	八二、六三九	二	—	一三
南氷洋其ノ他（母船式）	三三、八三一	二、五七六、四七九	—	三〇	一八四
アフリカ					
ナタール	一、六三九	六七、九七九	二	—	一六
ケープ植民地	七八二	三四、五一五	一	—	一三
コンゴー	二九八	一三、七七八	—	一	四
南マダカスカル	一、二五七	五二、五〇〇	—	一	六
北氷洋大西洋					
ポルトガル	二八八	—	—	—	—
ノルウエー	三四三	九、四六七	四	—	一三
フ・エル諸島	一〇八	三、一九九	一	—	三

國別	捕獲頭數(頭)	鯨油生産高(ポンド)	根據地	母船	捕鯨船
ノルウェー	二、三二	一、二五、九四	八	一五	一四六
ソビエット聯邦	一五、九四	一、一九、七二	四	一六	一〇二
ポルトガル	一六八	一九、〇二	八	二	三七
ドイツ	一六八	一八、四九	一	二	一三
アルゼンチン	二、六九	一五〇、四三	二	三	二二
デンマーク	一、〇二	七七、三六	一	一	九
英領コロンビヤ	一、〇四	四七、三七	一	一	六
カルフオルニヤ	九二〇	六一、九二	一	一	六
日本及朝鮮	四一八	一六、四八〇	一	一	三
チリ	一六八	五、九二五	二	一	三
ムルマンスク	二、九五二	九五、八二一	一	三	二二
カナダ	一六八	一、〇〇二	一	一	二
計	五一、二六六	三、二一〇、六七一	二七	四一	二四九

◎一九三六年——三七年度國別成績

國別	捕獲頭數(頭)	鯨油生産高(ポンド)	根據地	母船	捕鯨船
北氷洋、北大西洋(母船式)					
ニユーフアンドランド	四八三	一九、〇五五	二	—	五
西ゲ・イ	一七	—	—	—	一
スコーランド	一六	二、八六二	一	—	二
南アフリカ	二四	九、八六二	—	一	四
太平洋					
デンマーク海峡	二五〇	二二、五二二	—	一	七
英領コロンビヤ	三二七	四七、二九	二	—	六
カルフオルニヤ	三六六	一七、六六八	二	—	六
北氷洋、北大西洋(母船式)					
ニユーフアンドランド	四八三	一九、〇五五	二	—	五
西ゲ・イ	一七	—	—	—	一
スコーランド	一六	二、八六二	一	—	二
計	五一、二六六	三、二一〇、六七一	二七	四一	二四九

イギリスは右圖に見るが如く四割二分を占めて第一位にあるが、母船十五隻中一〇隻を派する外其の廣大な版圖を利して各漁場に捕鯨船を配備し、他國たるペルーに迄三隻の母船が出漁してゐる點、流石に大英帝國の力を示して居る。

ノルウエーは一九三一年頃迄は世界總捕獲の六割を占め世界捕鯨界に君臨して居たが、其の後覇を英に讓り、今日主力を南氷洋に一部を北大西洋コンゴー方面に出漁せしめ三割の捕獲高を有して居る。然し此處に注目すべきは諸威人としての世界的勢力である。元來諸威は國土が急峻で陸上生産物が少ない爲、早くより海に進出し殊に捕鯨技術に就いては近代捕鯨の元祖だけに斷然他を壓してゐる。古くより諸威人を雇はゞしては企業の遂行が不可能で現今各國の捕鯨漁獲は殆んど此の國人の手に成ると云はれてゐる。此のことに就いては多少事情もあるので、即ち各國は立役者たる砲手が未熟な爲、熟練せる諸威人砲手を技術者聯盟より雇傭する場合、行懸上他の技術にも諸威人を採用すると云ふ譯で必ずしも諸威人の特殊技能のみではない。唯其の經歷上多少各國人に勝ることは事實で嘗てドイツは自國のみで操業したが、其の結果は著しく不良であつたと云ふ。ところで日本は技術の國として其の進出を怖れられて居人るが、其の現狀は如何、次に昨年度に於ける各國代表母船の成績を示すが、之は見れば直ちに分明する。

母船名	捕獲頭數	鯨油生産（バーレル）	白長須換算	一頭當捕鯨船	操業日數	捕鯨船一日一隻頭數
日本（計平均）	五、五六五	三八四、一六七	三、九三一・二	九七・八	三〇	一・〇五
日新丸	一、五八六	一二一、二四〇	一、〇九五・三	一〇一・六	八	一・〇一
第二圖南丸	一、八三三	一二〇、五一〇	一、三一〇・二	九八・八	一二八	一・一〇
諸威人（計平均）	一三、八〇一	九六六、三一〇	八、一三三・九	一一五・八	六九	九八	一・二一
ロス	一、八三三	一三五、九〇〇	一、一七五・一	一一四・五	九	九八	一・三三
コスモス	一、七八九	一四八、〇〇〇	一、二一三・〇	一二一・四	九	九八	一・三五
英國（計平均）	一四、一九一	一、〇三六、一九四	九、〇三九・三	一一三・一	七七	九八	一・二〇
サルベストリヤ	一、八一八	一三一、〇七四	一、〇八五・三	一一九・三	八	九八	一・三八
サザンエンプレス	一、四〇七	一〇五、九五三	一、〇三五・八	一〇二・六	七	九八	一・五〇
獨逸（計平均）	六、三八七	四七一、〇一三	四、三六〇・九	一〇八・七	三六	九八	一・二一
ワルテルロー	一、六九八	一二一、三三〇	一、〇三六・九	一〇七・一	八	九八	一・三〇
ウニタス	一、七一五	一二八、四三一	一、二五九・七	九三・七	八	九八	一・六一

（白長須換算　1白＝2長＝2½座頭）

之は船の大小・設備の如何にもよるが、日本の技術が如何に劣るかを示して居る。而も我國は從前の沿岸捕鯨船制限が二十五隻であつた爲、母船捕鯨の此の急激な發展に砲手が著しく不足で諸威人の援助を受けてゐる狀態である。然し日本人には三千年來鍛へ來つた漁撈術忍耐力有り、近き將來必ず日本人のみで立派な成績を擧げ得べく、其の人件費の安價なることも伴ひ、强力な膨脹力を藏して居る。如斯技術の點各國未だ諸威に一歩を讓つて居り英國は之と資本的に結託して世界捕鯨界をリードして居るのが現狀である。

ところが近年に至り我が世の春の英・諾に對し彗星的に強敵が出現し其の地位を脅かして居る。即ち消費の國ドイツと技術の國日本の進出である。ドイツは最近油脂工業が大躍進して一年の鯨油使用は十六、七萬噸より二十萬噸に達し世界第一位にある。之を從來は全部輸入に仰いで居たがナチス政策の進むところ之が自給に乘出すは當然で、爲に英・諾はその生產鯨油の重要な賣捌口を失ふ結果となる。本年の夏あたり國際捕鯨協定加入の問題が喧しかつたが、其の原因の一は是等新進國を抑へんとする英・諾の策動である。

三、鯨の經濟

1、戰時代品用としての鯨

今次支那事變の勃發より物資總動員の進捗に伴ひ世は擧げて代用品時代と化した。鯨も又その流れに投じて鯨肉のスキ燒・鯨皮の靴等時代の脚光を浴びる花形役者である。

鯨皮　ガソリン・鐵・銅と釣瓶打に重要物資の使用制限を斷行した商工省の鋒先は遂に皮革に向けられ、七月一日より實施されてゐる。

元來肉食主義でない我國は皮革原料に乏しい爲需要の八割・四千萬圓餘を輸入してゐる現狀であるから、戰時ともなれば當然代用品の問題が起つて來るわけである。ところで牧畜皮革の代用品としては種々あらうが、最適當なるものは水產皮革であつて、鯨皮も又その一つとして俄に重要視さるゝに至つたのである。然し乍ら鯨皮とても今日此頃飛出した新興產業ではなく數年前より研究し來つたのであるがそれは水產皮革に共通な難點を藏して居る爲大體完成されてゐながら工業化が後れたのである。難點とは即ち漁獲や豊凶にむらがあり牧畜皮革の如く需要に應じた製造が困難であること、生產場が海上遙かの沖合なので運搬技術に難點あり爲に生產コストが高くなること等で

ある。ところがこゝに支那事變が起るに及び絕對的需要は遂に之等の難點を克服し、世界にさきがけ工業化が實現した次第で、現在共立水產工業で六月始めより一日一頭の目標で商品化されてゐる。

鯨皮は牛皮等とはその性質を異にして居る爲その皮革化には特殊の技術を要し、最も難關とされてゐるのは膨大な厚さの原皮を適當に分割する粗漉機械の設計及び作業と原皮に含まれてゐる脂肪の完全な脫除法の研究であつて皮質の本質上攝氏四十度以下の低溫で行ふを要し且安價にする工夫が大切である。

現在用ひられるのは抹香鯨・鰮鯨・白長須鯨で中白長須の質が最大であるが、未だ脂肪分の少い抹香以外研究の餘地をのこしてゐる。

鯨革は之を七層にはがすを得、上の三層を軍需に四層以下は民間に拂下げる計畫となつてゐるが何れにせよ相當優秀な底革となり、判も他に比し非常に大なる爲ベルトの如き工業用品にも適する。又內側の皮を薄く剝離して鞣せば鞄・ハンドバツク其の他の袋物用にも供せられる。

抹香鯨一頭より生產される皮革は優に牛二百頭分に匹敵すると云ふから、將來現在の近海物千三百頭、南氷洋物五千五百頭を全部工業化し得るとせば少くとも牛百萬頭分の皮革となり、需要の三倍にも達することになる。唯現在のところ工業化の初步であつて、技術設備上內地物一五萬頭分、南氷洋物三萬頭分程しか供給し得ず、又牛馬皮革と一率の制限を受けてゐて企業上に於ても苦しい立場にある爲百パーセントの期待は尙早である。然し今後牧畜皮革を壓倒することは明らかで其の前途は洋々たるものがある。

尙內臟の皮膜も相當丈夫で適當の處理を施せば立派な代用皮革が得られ將來此の方面の工業化も期待される。

鯨肉　赤肉其の他が我々の食料として十分なることは前述の如くなるも、其の利用は牛肉・豚肉等に壓倒され從來蔭の肉として牛肉の代用に食堂・辯當屋に渡つてゐたのである。然るに支那事變の勃發は濠洲・支那方面よりの輸入

肉が杜絶となり、こゝに代用品として堂々長期戰上に浮び出たものである。歐洲大戰當時アメリカでさへ鯨肉を罐詰として戰線へ送る必要に迫られたと云ふ程で、畜産資源に乏しい日本が牛肉を鯨肉に代用したとて何の不思議があらう。むしろ今迄放置して居たこその感がある。

背美鯨・白長須鯨等は一頭の肉量よく牛百三十頭分に匹敵するから、今迄内地産鯨肉の保獲の爲輸入が禁止されてゐた南氷洋物を輸入するに至れば、年々十二萬噸の消費には十分の供給が出來るのである。從來鯨肉はその臭味が厭はれてゐたが、今はその脱臭法も完成してゐるから今後我が國民が其の價値を認めて之に親しむなら、年一千萬圓にも達する牛肉の防遏が實現し、我が國食料配給に一大光明をもたらすであらう。

人造羊毛　イタリーに於ては既にガゼイン、又日本では滿洲産大豆の蛋白質より人造纖維を製造してゐる今日、同樣の意味で鯨肉魚肉に着目するも又當然である。此の研究は既に三、四年前より始められてゐるが、之又戰時代用品の波に乘り、鯨肉利用の纖維工業が實現せんとしてゐる。即ち前述の共立水産工業では水産皮革の專門工場と共に水産纖維の特殊工場を建て、鐘紡研究所に於ても右工業化を鋭意研究中である。

方法は眞皮の内面、脂肪層に近き粗質なフェルト層を剝離、之をほぐして羊毛代用品を製造するものである。性質其の他に就いては未だ研究發表がないが、大體保溫耐久等他の動物性纖維と異ならぬと言はれ、又紡績も可能であるから所謂フイツシュウールも實現し鯨服時代が到來せんとしてゐる。然し乍ら此の事業については未だ試驗時代を脱してゐないが、ドイツでは既に捕鯨船中で鯨の蛋白質をヴイスコースの紡糸に姿を變へ工場に運搬さるゝ迄に進歩してゐると云ふ。

今年の南氷洋の鯨油生産を十萬噸と豫測すれば之等より二萬噸の蛋白質纖維原料を得べく、歩留五パーセントを除いても我が輸入羊毛八萬八千噸に對し一割以上に相當することになる。將來母船捕鯨の擴張と共にその割合を增し

國策纖維の一つとして成長するであらう。

如斯鯨の利用は事變以來急激に膨脹した結果從來の如き設備では到底其の需要を滿し得ず其の供給は現下の問題となつてゐる。今日のところでは取敢へず沿岸捕獲鯨を擧げて之に當らせることにはなつて居るものゝ其の數量は僅少で頼むに足らず、問題は主として南氷洋の莫大なる鯨皮・肉を如何にして日本に持歸るかと云ふことに集中されてゐる。本年度は六船隊が昨年度の倍額一萬頭、鯨油十二萬二千噸を目指して活動することになつて居るが、現在の母船は總て鯨油本位に設計されてゐる爲精々四十噸止りの輸送力しかなく、さりとて中積船等で腐敗し易い肉や皮を冷凍又は鹽漬けにして赤道直下を一ヶ月に亙つて運送することは技術的にも採算的にも無謀に近い。勿論將來に備へて内地各根據地の施設擴充と共に母船設備を着々改善するのであるが、軍需品としても出來得る限り多量に送らねばならぬ今日如斯き事を期待して居られぬのである。そこで從來の仲積船を急遽冷凍船に改造することが考へられたが、總ゆる方面に於て船腹の不足せる今日其の實現も困難で、こゝに南洋物の大量輸入は足踏の態となつた。然し幸にも北洋漁業に用ふる鮭鱒用冷凍船は漁期が正反對で南氷洋捕鯨の最盛時たる十二月から翌年三月頃の休業時をねらつて使用し得るのである。こゝに於て大洋捕鯨は日魯の播州丸を日本水産は長光丸をそれ〴〵傭船して、最盛時に數回回航じて急送にあてんとしてゐる。勿論之だけで十分の成果は期待出來ぬが鯨油賣上二千五百萬圓と共に戰時體制下の我が經濟界に益するところ大なるものがあらう。

3、捕鯨業經營

前述の如く鯨は其體に比例して尨大な利用價値を有し然も化學の進歩に依り將來益々其の範圍が擴張するものと見られるが、之に關聯して最近捕鯨業の多角經營と云ふことが唱へられて來た。元來捕鯨業殊に母船捕鯨は頗る大規模な事業であつて一船隊の建造費は約九百萬圓で、之に運轉資金を加算すると千二、三百萬圓を要し、從業員も五百名

に達するのである。ところが世界の捕鯨業に於て之に配する生産物は從來鯨油一本槍であつて、鯨油の騰落は其の經營を左右するものであつた。鯨油の價格は前四十――六十磅の高値で大戰直後の一九一九年には九十磅にも達したが、其後次第に下落歩調を辿り、一九三四年度の如きは十磅十志――八磅と云ふ未曾有の大暴落をなした。近年幾分保直して昨年は二十二磅二志と最近の高値を示したが、今年は又々十三磅と三割五分方の下落を演じ再び捕鯨界に暗影を投じた。之は主にアメリカ産綿實油・滿洲大豆油・日本産魚油等競爭商品の增産に伴ふ鯨油需要の減退と世界經濟界の不況とに原因するのである。斯くの如き有樣で世界業界は常に不安に驅られ、こゝに鯨油以外にも手を延ばして利益の確立を計らんとするに至つたのである。即ち今迄採油の後癈物として顧みなかつた赤肉から鯨粉・人造羊毛を製造する、鯨皮を鞣す、骨より膠・内臓より藥品と製油を本業に之等を副業として經營するので、斯くする事により往年の隆盛は回得されるのである。

現に我國の捕鯨會社は鯨油市價の大巾下落に拘らず鯨皮・鯨肉の供給で好成績を擧げてゐる。此の多角經營は企業として大切な許りでなく國によつては見逃すべからざる事業でもある。日本の鯨皮・鯨肉は長期戰下の國民生活に糧となり、ドイツの鯨粉は家畜の飼料・肥料として國産資源の培養に大なる働をなす。尤も日本は古來肉と油の二本立であることは今更改めて言ふ迄もないが、非常時局により此の傾向が著しく助長されたのである。鯨油の價格が下落傾向にあること前述の通りであるが、之は又我が國の會社間に鯨油の國内消費策を熱心に考へさせてゐる。現在世界鯨油の大部分は歐洲で消費されるが、其の市價については英國の Unilever なる油脂コンツエルンが牛耳つて居て各國業者は齊しく其の鼻息を窺ふ狀態にある。隨つて生産鯨油の大部を歐洲に賣る日本もロンドン市場に支配され甚だ不利な爲こゝに歐洲依存の風習を清算せんとするのである。

然し其の方法であるが、第一は硬化油方面である。即ち歐洲では大部分が此の方面に用ひられてゐると述べたが、

現在の日本硬化油工業は十分に發達して需要少く然も我國特産の魚油保護上鯨油の此の方面への進出が阻止せられてゐる。故に强いて此の方面に活路を求むるなら先づ硬化油の販路を見出さねばならぬのだが、現在の如き戰時には脂肪酸グリセリン原料として十分に消化され、平和には食料油脂・石鹼に需要がある。殊に人造バターは逐年其の需要を增して居るが未だ頼るに足らず、一部は石鹼原料とせねばならぬ有樣である。

第二はオレイン酸の製造であるが之は紡織工業上不可缺のものでありながら、その大部分を外國に仰いで居る。故に鯨油を此の方面に振り向ければ年四五十萬圓に達する輸入を防遏し得る。其の他保革油・鞣革油・機械油・燒入れ油等として進路があるが、殊に帝大航空研究所で飛行機用高級潤滑油の製造研究が行はれて居り、大なる期待を以て其の完成が待たれて居る。又鯨油を石油に轉還することが昨年あたり發明されたやうである。

斯く考へると鯨油の内地消費も易いやうだが是等の研究は唯机上のみの理論で、偖之を企業として行つて行く場合にはさう簡單に行かぬのである。其上多量の鯨油を内地に輸入することはどうしても、魚油延いて漁村壓迫となり、製品の輸出を行はんとしてもこゝには關稅障壁あり思ふ如くにはならぬのである。それより多少の不利はあつても從來通り積極的に原油の儘賣渡して多額の外貨を一時に獲得することが得策となるわけで、鯨油の國内消費は未だ前途遼遠である。

四、國際捕鯨會議と捕鯨業の將來

1、國際捕鯨會議

鯨は如斯價値ある動物で往年の最盛時は大部分の捕鯨會社が十割配當を行つた程であり、各國とも競つて此の有利な事業に從事し、爲に鯨は甚だその數を減じ目下大量的に獲り得るのは南氷洋のみとなるに至つた。然し之とて無限

にあらず、此の儘に放任せば早晩鯨は地球上より姿を消すやも計り難い狀態となつた。然も濫獲は鯨油の生産過剰を來し、延いては市價の値下りに拍車をかける有樣、一九三一年の如きは諸威の捕鯨船は全部就業を中止せねばならぬ程であつた。その後諸威政府は自國の業者に對し生産割當を行ふ政策を採る等捕鯨關係國は漸く世界捕鯨業統制の必要を痛感するやうになつた。

偶々國際聯盟に於ても國際法典編纂委員會が海産物採取規則中に捕鯨取締に關する規定を作ることになり、一九三〇年四月各國專門委員は伯林に會合して國際捕鯨取締條約を制定した。當時我國は北太平洋に於ける脊美鯨の捕獲禁止についてソ聯邦の不參加を楯に反對し遂に同條約には加入しなかつたものである。此の條約の骨子を採り新しい統制條項を盛つたのが昨年六月ロンドン國際會議に於ける鯨漁取締協定であつて、右協定には日本を除く世界の捕鯨關係國たる英・米・獨・諸・濠・南阿聯邦・愛蘭・北愛蘭・新西蘭・亞の十ケ國が加入してゐる。その協定內容は次の通りである。

一、目的　捕鯨業の隆盛確立及び鯨族の保獲

二、捕獲禁止　克鯨・脊美鯨並びに稚鯨及び乳呑鯨

三、捕鯨體長の制限　白長須（七十呎）長須（五十五呎）座頭（三十五呎）抹香（三十五呎）

四、期間の制限　十二年八月乃至翌年三月七日（但し本漁期は三月十五日迄の延長を認む）

五、禁止區域

イ、南緯四十度以北の大西洋を中心とする區域

ロ、南緯四十度・北緯三十五度の東部太平洋

ハ、南緯四十度・北緯二十度間の西部太平洋

ニ、南緯四十度以北の印度洋

六、有効期間一九三八年七月末日限り、但し延長を妨げず

協定の骨子は以上の如きものであつたが、我が遠洋捕鯨は漸く搖籃時代を脱せんとする段階にあるため、準備不十分の理由を以て協定參加を拒絶し唯仔鯨・母鯨の捕獲を自制する協定に對しモーラルサポートを與へるに留めた。即ち鯨油値下りの今日、早晩協定加入の必要はあるが、追付き追越す迄はと云ふのが業界の腹であつた。然し乍ら英・諸としては自國が十年もかゝつて開拓した南氷洋に新參者の日本が物凄い勢で進出し、殊にアウトサイダーとしての自由な立場にあることは、大なる脅威であるから何とか日本を協定に加入せしめて拘束せんと計つた。本年四月諸・英・獨はオスロに捕鯨會議を開催し此の席上にても日本が問題となり、今年度の議會には是非加入を强ひ、場合に依らば鯨油の不買同盟を提議しかねまじき狀勢になつた。帝國は始め單にオブザーバー派遣に留むる意向であつたが、此の險惡な狀勢と鯨油の暴落を考慮し、此の際除外例を提げ積極的に參加することになつた。會議は六月十四日倫敦で開催され我が代表は種々運動を重ねた結果、昨年度の規定及び新提案中我に支障あるものは或は除去され緩和されたので、遂に明年度より正式に協定に參加する準備をなす旨聲明した。會議に於て決定された主要事項は

一、南緯四十度以南に於ける座頭鯨の捕獲禁止

二、母船式捕鯨に關する新禁止區域の設定

イ、南緯四十度以南、西經七十度及西經百六十度間

ロ、北緯六十六度以北の水域但し東經百五十度及西經百四十度の間に於ては北緯七十二度以北の水域

三、操業期間制限規定の抹香鯨に對する除外

四、食用鯨の體長制限緩和

右の内新禁止區域（ロ）の但書三、四は特に日本捕鯨業の事情を考慮して規定を緩和したものである。

元來國際捕鯨協定は或意味の國際捕鯨カルテルで何らかの方法で生産制限を行はんとするものであるが、日本・獨逸の如く今發展途上にある國が含まれてゐる爲その實行が甚だ困難なのである。今度の會議に於ても工船隻數の制限が相當論議されたが遂に決定に到らなかつたのである。

1、我國捕鯨業の前途

斯くして我が國は來年より國際捕鯨協定に參加、鯨種體長の制限は勿論期間も甚だしく短縮されることゝなつたが今後如何なる推移を辿るであらうか。

第一に沿岸捕鯨に就いて見るにその將來には少なからぬ問題があると言はざるを得ない。勿論茲十年二十年の間に近海の鯨族が絶滅するわけではないが、長年に亘る操業の結果漸次回游路が沖合となり捕鯨に要する時間や經費等から見て以前の如き有利な計算は出來ぬ。又無統制な漁獲は發展はおろか早晩行詰りを來すこと明らかなので、政府は捕鯨船を制限などして捕鯨業の保護に努め、更に今回の協定加入は一段と統制の强化を見るに至つた。業者も大規模の母船式捕鯨に活路を求めると共に自肅自戒以て沿岸捕鯨の確立に努めたのである。此の結果近年の捕獲高は大體平均し多少の增加さへ見るに至り漁業としての理想的狀態になり、將來此の統制を持續すれば相當年月に亙り良好な成績を擧げ得べく、あながち悲觀すべきものではない。

次に今世人の注目の最眞中にある南氷洋捕鯨であるが、之に就いても往々その將來を危ぶむ向きがあるが、其の漁場甚だ廣大で現在の二倍の捕鯨船が出漁しても狹きを感ぜず、又年々こゝに集る鯨の總數は大約二百八十萬頭、中八分の一が雌と云ふから子鯨の繁殖を合すれば年五萬頭として向ふ六十年間は確かである。殊に捕鯨協定で種々の保護制限が行はれて居る以上將來人力は減るとも生産が減ずるが如きことは先づないと見て良い。即ち協定は捕鯨業の恒

久的操業を願ふ意味で締結されたので之を以て前途を危惧するのは當らないのである。唯我が勢力を之以上伸張することに就いては些か問題がある。現在の日本は列國に比すれば著しく劣勢で、未だ母船の制限等の行はれぬ中になんとか英・諸の水準に達したいであらうが、何分にも鯨の價値の低下した今日各社共擴張の意志なく制限數十隻に達することは當分望めない。

又最近北氷洋への進出が期待されてゐるが、漁期が短かくして經濟的價値が南氷洋に比し劣ること、南氷洋へ出漁の母船を北氷洋に迄遠征させることは休養準備修理等の關係から不可能なることの二點より、現在の鯨油市價から見て明日にもと言ふ譯には行かぬのである。然し又南氷洋より近距離にあること、及び流氷少なく且淺海の爲作業が容易であると云ふ好條件もある。殊にアレウト號の如き老朽船でさへ年七八千噸の收獲がある程で相當豐富な資源なることを示してゐる。されば我國が國際會議に於てベーリング海峽附近の除外を主張したのも此の有利を見越してのことであり、今日直ちに開けずと雖も一旦業界が好況になれば當然此の方面に多數の船隊が派遣せらるべく、それ迄此の大事な漁場を保有して置くのである。

3、海國日本と捕鯨業

最後に捕鯨業の國家的意義であるが、殊に現今の捕鯨業の特色たる南氷洋遠征に於て濃厚である。その第一は國家經濟に及ぼす影響である。昨年度に於ける南氷洋の鯨油生産額は約一千五百萬圓であつて、日本總漁獲高四億圓に比すれば甚だ微々たる存在であるが、此處に注目すべきは是等が全部歐洲各地に直送、一時に多額の外貨が獲得されることであり、此の貿易上の一異彩である。然も綿・ゴム製品の如く輸入に基調を置かぬ爲、一部の支拂を差引いた實上高の大部分が受取勘定となるわけであつて、此の點我が國々際貸借に貢獻する所甚だ大なるものがある。之恰も赤道遙かの極洋に地金を得ると異ならず水産經國の眞面目を示してゐる。

第二に捕鯨船が國防艦としても使用し得る點である。古き網取漁時代に於ても各藩は從業員の勇敢且操舟に秀でてゐるのに着眼し、いざ鎌倉の時には彼等を以て水軍を組織せんと大いに捕鯨業を保護助長したと云ふ。

現在の捕鯨船は萬里の波濤を蹴つて操業する爲著しく凌波性に富み、此の性質こそ一旦緩急の場合國防の第一線に立つ所以であつて、海軍が大いに力瘤を入れて居るのも理である。

又南氷洋遠征は取も直さず三千名にも達する從業員の海外出稼と見るべく、國民に職場を與へ併せて海外發展の精神を培ふこと大なるものがある。

我が國は今次事變を契機として支那大陸に大飛躍せんとしつゝあり、此際の大陸經營こそは今後に課せられた國民の最重要事なのである。我國民は宜しく萬難を排してその貫徹を期さねばならぬのである。然し日本は海國であり、國民は徒に大陸に心を奪はるゝ事なく又海にも着目すべきである。世界に日沒する時なしと誇る英國は良く海を治めた國民であり、「海を制するものは世界を制す」の良き例である。然るに海外に發展するには軍備・通商・水産業の三路があり、その內他國の制肘少なくして且充分なる進出をなし得るのは産業方面殊に水産業であつて、又陸地資源に乏しい國が天賦の資源獲得の方途でもある。されば大戰終了後英國が逸早く南氷洋の鯨資源を精査して開發に努め戰敗國のドイツさへ巡洋艦を南西洋に派して資源を求めたではないか。近年我が國に於ても南氷洋漁業調査會の如きものが出來たと傳へられるが、捕鯨業こそは我が南進策の尖兵としてその持つ意義は益々重且大となりつゝある。我々國民は世界の海を我が領土と心得、大いに開發に努め併せて海外勇飛せねばならぬ。

本年度の母船六隻は十月十七日の第二日新丸を殿りに全部壯途に就いたのであるが、國民擧つてその成功を祈らう。

販賣豫算に關する一考察

——百貨店最近の業績と景氣變動との關係——

五B　永田武男
五C　今枝新一

はしがき

○科學的經營

「凡そ商業は杓子定規的に處理することは出來ない。千變萬化機に臨み變に應じて處置して行くことが必要である。之には何はともあれ勘と機智で行かなければ駄目である。永年の經驗と天分とより成る勘、胸方寸より湧出する機智……」等と勘と機智一點張の從來の經營方法は大規模化し競爭激甚を極めて複雜化した現今の營業に於ける王道とは云ひ得ない。人間の生活は全般に亘つて次第に科學化して來てゐる。「都をば霞と共に立しかど秋風ぞ吹く白河の關」の時代から東京を朝出發すれば天津、北京の夕飯を味ふことが出來、航研機が無着陸一萬二千粁を飛翔する時代となつた。商業經營に於ても舊態依然として取り殘さる可き筈はない。科學的方法が必要である。「經驗＋科學的研究」こそ經營の金科玉條でなければならない。

○豫　算　統　制

科學的經營の趨勢に伴つてクローズ・アップされて來たものに市場分析、原價計算、商品回轉率の研究、販賣心理の研究等々があり、而して豫算統制の必要は今更吟味する迄もない。競技が新記錄を目指して精進される如く經營の活動は豫算の遂行を目指す努力により能率は擧がるのであり、複雜にして危險を極める鐵道が精密なダイヤにより整然と運行される如く、大規模な事業も豫算に統制されて各部の調和が保たれて行くのである。營業の指標となる豫算には販賣豫算、仕入豫算、手持豫算、經費豫算等種類は多いゝが其の中心は販賣豫算である。仕入高も手持高も賣上高により定まり、經費は賣上高と對照して決定さる可きものであるからである。從つて販賣豫算の編成の適否が全體の成績を左右するものと云つても差支ないであらう。

○販賣豫算の編成材料

豫算は全て實行能力を著しく離れたものでは效果がない。餘り高い標準に對しては戰はずして既に意氣沮喪し、低きに過ぎる豫算は何等刺戟とならないから豫算を編成しないと同樣である。即ち實行し得る最高限度を科學的に研究して決定することが豫算編成の要點である。然らば販賣豫算に於ける販賣豫定高は何を材料として算出し得るであらうか。之には營業內部に起因する材料と外部的材料との二種類がある。

內部的材料には次の如きものがある。

（イ）過去の販賣能力　販賣統計として表される。從來の販賣能力は最も主要なる材料であつて、他の材料にして變化がなければ前年度の賣上實績が今年度の豫算となるものである。

（ロ）營業政策　營業の現狀に滿足して保守主義を採る時と、大いに販賣成績の向上を圖り積極主義を遂行せんとする時とでは自ら豫算も異らざるを得ない。

（ハ）資金狀況　賣上の增加は手持品の增加を來し、資金の增大を來す。從つて何等かの原因により運轉資金缺乏した時は一時賣上をも減少せしめて立直しを圖る必要がある。

（ニ）店舗設備の改造　之が賣上に影響を及ぼすことは明かである。

外部的材料としては次の如きものが考へられる。

（イ）競爭者の狀況　（ロ）顧客の變動　（ハ）交通機關の變化　（ニ）景氣の變動

之等は何れも豫算の編成に大なる影響を及ぼす材料であつて從來の變化のみならず將來に對する見通しを付けて如何なる程度に之を採用するかを愼重に考へねばならない。

○景氣變動に關する一考察

以下販賣豫算編成材料の一たる景氣狀態と營業成績の關係につき比較的資料の得易い百貨店を選び昭和三年以來の實際の數字を調べて考察して見よう。統計的材料は三菱經濟研究所發行「本邦事業成績分析」及びダイヤモンド社發行「經濟統計年鑑」に依り、尙種々の點に關し三菱經濟研究所及三越本店に御示敎を頂いた。此處に改めて厚く御禮申上げる次第である。

第一　景氣變動と經濟現象

吾々の經濟生活は恰も天候に晴臺雨雪のある如く、又人間の健康に病魔のつきまとふ如く景氣、不景氣が交互に繰返すものである。如何に經營に努力するも結局この景氣の變動に逆ふことは出來ない。景氣變動に適當な對策を講じ之を巧に乘切ることこそ最良の方法である。然らば先づ景氣變動は如何なる過程を經過するものであらうか。大體に於て沈滯、恢復、好況、衰頽の四期から成るものと云へる。

一、沈滯期　之は商品のストックが増加して物價は低落し、銀行は貸出を警戒するを以て生産者は資金回收の爲賣急ぎ、事業不振による各方面の收入の減少は消費節約となり、益々物價が低落する時期である。即ち不景氣の爲生産、消費ともに萎縮した時期であつて各事業は極力經營の合理化を圖つて辛じて破産を逃れる狀態である。

二、恢復期　沈滯期の末頃にはストックは減少して供給は不足し、次第に物價は騰貴して來る。事業家は先を見越して事業を擴張し、銀行も貸出を緩和する。此所に生産界は活氣を帶び世間は活氣附いて來る。之が恢復期である。

三、好況期　經濟界一般に活況を呈して工場よりは黑煙濛々と立昇り、商店には顧客が押掛ける。此の狀況を見て工場も商店も其の他の事業も益々擴張され濫設される。物價は騰貴を續け金融は逼迫に近づく。之が好況期であり、人間全て樂觀し、吾が世の春を謳歌するのである。

四、衰頽期　好況期も何時までも續くものではない。その内に反動が襲來する。生産の過剩と消費の萎縮によるストックの增加は金融の逼迫と共に運轉資金を缺乏せしめ破産する會社が現れて來る。信用經濟の現今に於ては之が忽ち四方に響く。斯くて急激に不景氣となり沈滯期に入るのである。

以上の變動を具體的に知る爲、東洋經濟新報社作成の昭和元年以降の指標につき眺めて見やう。

第一表　本邦事業活動指數（東洋經濟新報社調）

種別	昭和元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
綿糸生産高	一〇九	一〇三	九五	一〇五	九四	九一	九七	一〇三	一一三	一一四	一一〇
石油供給高	九四	九八	一〇四	一〇五	九八	九九	一一〇	九六	九九	一一三	一一三

種別	昭和元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年
石炭消費高	一〇五	一〇八	一〇七	一〇九	九六	八九	八八	一〇三	一一九	一一三	一一三
電力消費高	一〇九	一一三	一一三	一〇七	九八	八六	九一	八八	一〇四	八一	一一四
セメント消費高	一〇七	一一三	一一七	一一三	九三	八一	八三	一〇三	一〇一	一〇六	一〇〇
鋼材供給高	九九	一一〇	一一七	一一五	九六	七四	八七	一〇八	一一三	一一七	一一七
洋紙販賣高	一〇六	一〇七	一一三	一〇七	九五	八五	八三	七六	七一	七三	七八
羊毛輸入高	九四	一〇六	一〇五	八一	七〇	一〇〇	一〇四	一〇三	八五	八五	八五
輸出絹檢査高	一一〇	一一三	一一三	一〇二	九三	八七	八八	一一三	一一八	一〇四	八五
鐵道貨物發送高	一〇四	一一一	一一三	一〇九	九五	八三	八〇	八九	九六	一〇〇	一〇三
總平均（加重式）	一〇五	一〇七	一〇六	一〇七	九五	八七	八一	九七	一〇三	一〇四	一〇六

右表に於ける十種の指數は皆特殊の形狀をなして變化してゐるが、之等を綜合した時現はれる線が景氣即ち沈滯恢復、好況、衰頽の變動に外ならないのである。各指數の平均は表中に出てゐるが、尙念の爲之等の共通點を探して最高最低の年度を拔き出して見れば左表の通りである。

種別	最高	次高	三高	最低	次低	三低
綿糸生産高	一〇	九	二	六	五	三
石油供給高	二	一〇	七	一	八	九

本邦重要經濟統計（ダイヤモンド經濟統計年鑑より）

種別	生産數量（百萬圓單位）洋紙	綜合年度	綜合回數	鐵道貨物發送高	輸出絹檢査高	羊毛輸入高	洋紙販賣高	鋼材供給高	セメント消費高	電力消費高	石炭消費高
元昭年和	一九	昭和2	2								
同一年	二六	3	4								
同三年	二四	9	1								
同四年	二五	10	1	三	九	二	三	二	三	二・三	二
同五年	二六	11	3								
同六年	二九	昭和1	1								
同七年	二六	4	4								
同八年	三〇	2	2								
同九年	三九	8	1								
同十年	三三	9	1								
		10	3	一	二・三・八	三	二・四	一〇	二・四	一	一〇
		昭和1	1								
		5	1								
		6	3								
		7	2								
		10	1								
		11	3	七	二	五	一〇・二	六	六	二	七
		昭和4	1								
		5	1								
		6	3								
		7	2								
		8	1								
		9	1								
		10	1	六	六	四	九	七	七	一〇	六
				八	七	九・一〇	八	五	五	九	五

我が國の景氣は歐洲大戰中及戰後即ち大正四年から九年二月迄の間空前絶後の好況を示したが、大正八年初頃より

不渡手形（單位百萬圓）	同交換高（單位十億圓）	全國手形交換發行高（單位百萬圓）	銀行貸出高（單位百萬圓）	東京小賣物價	全國十二都市卸賣物價	物價（昭和四年基準數）	組物業	機械製造業	紡績業（大正十五年基準）	勞働者指數	米（〃）	棉花（單位千俵）	セメント（全國需要者倉庫保管殘高一月平均單位百萬圓）
四・三	八・一	一・五七	五七・七	一九・九	九三	一〇八	—	—	—	—	三、七〇〇	一四四	五〇六
三・六	六三・六	一・六八	八三・三	一八・九	八六	一〇二	—	—	—	—	四、八〇〇	三三〇	五二一
二・九	六六・六	一・七四	八四・九	一八四	八六	一〇三	—	—	—	九〇	六、八〇〇	三三七	五〇〇
三・七	三三・三	一・六四	六八〇	一八一	八六	一〇〇	八〇	一一三	八一	九一	六、八〇〇	一四三	四九七
三・九	五一・四	一・四四	七五四	一五五	七〇	八二	七五	一〇七	七〇	八二	四、一〇〇	一〇三	四八三
三・三	六四・一	一・三三	六九五	一三六	五九	七〇	七四	一〇〇	六二	七四	一〇、四〇〇	八三	四三五
二・六	五三・七	一・四三	七七二	一三七	五六	七五	七三	一一一	六三	七五	一〇、〇〇〇	一四二	五一一
一・六	六六・八	一・三二	八六六	一四六	七五	八二	八一	一四四	六八	八二	一四、四〇〇	三六八	五七八
一・六	四・二	一・六三	八七六	一四九	七七	八一	八九	一二一	六三	九一	八、六〇〇	三六三	七二九
二・一	六三・八	一・七七	八四四	一三五	七六	八四	八四	一〇〇	六四	一〇〇	九、七〇〇	一二七	六四六

次第に行詰りを生じ、大正三年より七年迄續いた出超は八年には入超と化し大正九年に入つては銀行も貸出を警戒して金融は逼迫を來し、遂に九年二月を端として大反動を來し不況期に入つて來たのである。

而し尙好況時の餘波を受け、政府の救濟策も效があつて辛じて最不況を逃れて昭和に入つた。昭和二年には遂に支へ切れず全國的の取付があり財界は大混亂に陷つたが、經濟界一般は未だ比較的好況を保つことが出來た。然るに昭和五年に至れば國內にては金解禁が斷行され緊縮政策が採られると共に世界中に不景氣の風は吹きまくり、遂に不況深化し、昭和六七年と全くの沈滯期が續いた。昭和八年には昭和六年十二月の金輸再出禁止による爲替下落を大なる原因とする輸出貿易の躍進、滿洲事變による軍事關係事業の繁榮、匡救費の增大等景氣好轉資料相重つて景氣は回復に向ひ、昭和九・十年と此の傾向は續いてきたのである。前記二表は大體昭和に入つてからの之等の事情を示してゐる。

扨次には重要なる經濟現象の二、三を拾ひその個々の動きと全體の景氣變動との關係の大體を調べて見やう。

〔1〕 生 產 數 量

セメントと洋紙を比較すれば何れも昭和四年まで平行して急增してゐるものが、その後はセメントは洋紙よりも急激に下落し、洋紙は未だ下落を續けてゐる昭和六年より早くも上向となつてゐる。即ちセメントは洋紙よりも景氣變動に鋭敏であることが分る。

〔2〕 倉庫保管殘高

昭和六年が最低である。その後景氣上昇期に於ける保管殘高の激增が目立つてゐる。

〔3〕 勞 働 者 數

昭和六、七年を最低としてゐる。業種別に見れば機械製造業は昭和六年を最低とし昭和十年には昭和六年の二倍以

上であるが、組物織物業は昭和七年が最低であり昭和十年には昭和七年の三割增に過ぎない。即ち機械製造業の方が景氣變動に鋭敏である。

〔4〕 物 價

昭和六年を最低として、七年には微騰してゐる。卸賣物價と小賣物價との間には差異は認められないが品種別に見れば機械等の生產材は鋭敏であり、消費材の內食料品は景氣變動の影響少く衣類等は鋭敏である。

〔5〕 金 利

金利は統制の爲景氣と無關係に動き、當然騰貴すべき昭和九、十年に却つて低下してゐる。

〔6〕 株 價

株價は景氣變動に頗る鋭敏であつて、不況の底に達する以前に上昇を始め好況の絕頂に先立つて低落を始める。

〔7〕 銀 行 貸 出 高

景氣の變動と關係がある筈であるが、實際に於ては特別の關係を見出すことは出來ない。

〔8〕 兌換券發行高

昭和八年を最低とし昭和六年は次低である。即ち兌換券發行高のみより直接景氣との關係を見出すことは六ケ敷い。

〔9〕 手 形 交 換 高

昭和六年を最低とし、昭和五、七年が之に次いでゐる。即ち景氣變動と同一の變化を示してゐる。不渡手形の金額は昭和元年に次いで、昭和五年が第二位となり矢張り不況期には增加してゐる。

〔10〕 鐵 道 運 輸 量

昭和七年に最少となつてゐる。之に次ぐものは昭和六、八年であつて大體景氣の變動に遲れて變化するものゝ樣に見える。

第二　百貨店最近の營業成績

(1) 百貨店の沿革

以上が最近十ヶ年間に於ける景氣の變動狀態である。では此等の荒い波を百貨店なる大船は、どう櫂を取つて乘り切つて來たであらうか、如何に影響されて來たであらうか。

先づ日本に於ける百貨店發達の狀況を調べて見やう。百貨店が存在する爲には人口の集中、生活程度の向上、交通機關の發達が必要であつて我が國に於ても之等の條件が漸次備はつて來た明治三十七年頃から三越、白木屋、松屋等相次いで百貨店としての形態を備へて來たのである。

その後、明治から大正にかけて我が國經濟界は急激な進展を示し、殊に歐洲大戰は我國商工業の異常なる發展を促した。各種の生產事業は頓みに活氣を呈し、各人の消費力も之に從つて甚しく膨脹した。從つて百貨店も亦時代の波を看取して積極的に資本の增加を斷行し、外は建築の擴大、設備の改善を行ひ、內は從業員のサービス、商品の選擇に意を用ひ、或は特賣、娛樂催物、正札、現金賣等營業方針の大衆化を計つて劃期的な進步をなした。實に大正八、九年こそ百貨店の膨脹期であり多くの百貨店はこの時期に基礎を確立したのである。

三越は大正八年末資本金を從來の三倍即ち千二百萬圓に增資し、鐵筋造の五階建の新裝店舗を建築し、白木屋も亦大正八年に從來の個人企業を五百萬圓に增資をなし、松屋吳服店も相次で九年には百萬圓の株式組織とした。其他關西方面にても續々と株式組織化するものが出て來た。而も會社の營業成績は累年小賣商店を壓して賣上高を一歩々々

增加するの傾向を見せ、大正九年の世界大戰後の景氣反動以後に於ても賣上高はさしたる減少をも見せずその小賣業界に於ける地位は堅實鞏固なものとなつた。大正十二年九月の關東大震災に於ては帝都に主力を有してゐた各百貨店は悉く烏有に歸し大打擊を受けたが、之等百貨店は一般小賣業者が强烈なるこの打擊に速急に再起出來なかつたに反し、その大資本の威力により直ちに臨時店舗を急設して物資の配給をなし小賣業者の起ち上る暇もない內に大多數の消費者を完全に集中し、一方新店舗の落成に夫々震災前とは全く面目一新した宏大な建物、合理的なる施設を施して將に復興以上の發展振りを施して將に復興以上の發展振りを示した。之以來百貨店は從來の方針を變へて大衆的なものとして一般消費者に呼びかけ此處に各百貨店は何れも過去に於ける營業成績より一段と向上してゝの傾向を昭和四年の頃まで持續したのである。

(2) 百貨店最近の營業成績

扨、斯樣に發展を重ねて來た百貨店の營業成績は昭和以後如何に變遷したであらうか。これを知る爲、株式會社組織百貨店と、その大宗たる三越本支店合併の純利益金を擧げやう。

株式會社組織百貨店最近十ヶ年間純利益金（單位千圓）

昭和3年	9,757
4年	10,175
5年	9,400
6年	7,802
7年	7,805
8年	8,451
9年	9,360
10年	11,467
11年	11,612
計	85,830
平均	9,537

三越本支店合併利益金（單位千圓）

昭和3年	上半期	1,960	
	下半期	1,991	
4年	上半期	1,789	
	下半期	1,731	
5年	上半期	1,377	
	下半期	1,406	
6年	上半期	1,302	
	下半期	1,447	
7年	上半期	984	
	下半期	1,627	
8年	上半期	1,336	
	下半期	1,649	
9年	上半期	1,638	
	下半期	1,728	
10年	上半期	1,722	
	下半期	1,920	
11年	上半期	1,891	
	下半期	2,392	
12年	上半期	2,348	
	下半期	2,452	
計			34,692
平均			1,735

全百貨店に於てもその業績は昭和三、四年はまあ良い方であつて平均以上であるが、五、六年に到るや遂に平均以下となり、更に六、七年と、不成績のどん底を示し、八、九年になりやつと上向いて恢復したが、未だ平均以下だつた。十年に於て斷然反發し、それ以來十一、十二年……と益々その成績を向上させてきてゐる。以上の百貨店營業成績につきその原因、事情を今少し研究して見やう。

昭和に入つて財界が一般に下り坂となつて來たが、顧客は前よりの貯蓄を出し收入の不足を補つてまあどうやら生計の維持をなす爲か、購買力は未だそれ程劣へず、百貨店としては大して惡化した傾向もなく二、三、四年とその威力を示して來たが、昭和四年を最後として五年頃より次第に低下し始めた。これは不況に依る實質的な購買力の減退と、緊縮政策に依る購買欲の抑壓にあつたと云へる。

次で昭和六年十二月金の輸出再禁止が斷行せられるや爲替の下落と物價の騰貴とにより一般經濟界は景氣好轉の徵候を見せ始めた。而し消費者は購買力が增加しても今迄の不景氣時代の苦しい經驗から之を貯蓄に振向け購買欲としては直ちに現はれない爲、百貨店の販賣高は增加せずその上激烈な百貨店間の競爭は依然として續き、無乘車券による顧客の集中、無料配達區域の擴張等々により營業費は嵩む一方であつて、純益は不相變最低を續けてゐた。而し昭和八年ともなれば競爭の結果必然的に內部よりの倒壞となり、こゝに關東地方に於ける百貨店は一齊に協定して無料配達區域の縮夕、無料送迎の廢止等行つて經費の節減を圖り、賣上も漸增して次第に純益の增加を來し昭和十年に至り昭和頭初の成績に回復し得たのである。此所で長年苦勞の營業部長の顏にも「やれ〳〵」と綻びが見えたわけである。其後も今迄の苦心を水泡にしてはとの不斷の精進と經濟界の一般の活況により一路成績を擧げて十二年に至つた。

昭和十二年に入るや、時恰も統制經濟の機運熟し、鐵鋼、セメント、窒素肥料等重要產業の統制を始めとして、經濟界全般に涉り統制の網は幾重にも敷かれた。斯かるうちに七月七日に於ける蘆溝橋事件は最初の我が國の不擴大方針にも不拘、支那の積極的攻勢に依り戰禍は支那全土に擴がり、今や長期戰の態勢を取らざるを得ないことゝなつた。之に對應する爲、政府は必然的に國家總動員法を發令し、完全に國民の物心統一に成功し、只管聖戰の目的成就に邁進しつゝある。此の戰時經濟に於て、百貨店は國產奬勵の立場から、極力代用品國產品を以て補給をなし、又經費節約の意味に於て公衆の利益の爲、國產品奬勵展覽會、代用品宣傳展覽會を始め、世界に於ける各種新國民知識展覽會等を以て、從來の客足を繁くする目的の催物、娛樂に代へ、無暗に購買欲を唆る新聞雜誌廣告等は當分遠慮することにした。斯樣に消極的政策をとつた結果は如何？　從來の主要なお客樣であつた俸給生活者及普通商人はこの經濟狀態の下に、物價騰貴と貯蓄奬勵の爲尠なからず購買力が減少した。然し此處にこの戰時經濟に依り大變活氣を呈したものがある。即ち重工業その他軍事關係の全事業である。一躍大增收となつた軍需事業關係者は如何に貯蓄第一としたとは云へ「まあ今迄何年何十年の間大した好況にも惠まれず一生懸命働いて來たのである、此處で一つ家族をも喜ばしてやらう。」といふ考も起り、極度に節約しても尙購買力の增加はあるものであり此處に木綿ばかりでなく銘仙ぐ

らいは、外用着に洋服の一着ぐらいはと云ふ風になる。從つて百貨店の買手は一轉廻を來し、現今に於ける百貨店の普通顧客はこの事業關係者を以て第一位となすに至つた。以上の樣に顧客內容は變化して來たが賣上高は不相變漸增して昭和十三年を迎へたのである。

第三　百貨店の成績と景氣變動との關係

以上の如く最近に於ける一般經濟界の景氣變動と百貨店の營業成績とを調べて、その關係を推察して見れば大體に於て後者は前者に追隨してゐることが分る。即ち生產高、滯貨、物價、手形交換高その他大多數は昭和三年或は四年を頂上とし、四年より五年の間に急落して居るに對し百貨店の純益は四年を頂上とするが、五年に至る落勢は緩やかあり、昭和六年度に於て急落してゐる。又不景氣の底は昭和六年であり昭和七年度にては恢復の兆明がなるに對し百貨店にあつては昭和八年度に至り漸く成績の上昇を始めてゐる。

經濟界の好況が購買力を增進するものであつて見れば、此の事實は統計の力を籍りる迄もなく明かであらうが、販賣豫算の資料として景氣變動を考慮する場合に甚だ好都合な現象である。

然らば販賣豫算の資料として如何なる指數を利用すればよいであらうか。勿論一般景氣指數を利用すればよいが、之に先廻りするものに前に述べた株價指數がある。又實際の指數を眺めれば綿糸の生產高、手形交換高等は何れも百貨店の利益等と全く同型にして一年宛先行してゐるから之等を利用すれば適當と思はれる。

新宿商店街の分析

五〇　井坂　清
五〇　竹澤　義弘

はしがき

東京の商店街は？盛り場は？と言へば異口同音に銀座・淺草と躊躇なく答へるであらう。實に銀座と淺草の歷史は古く今尙益々繁榮して大東京五百萬市民の購買の中心地となり、慰安の源泉となつて居るは勿論地方より帝都見物に上京した人々、外國の日本觀光客の一度は必ず足を向ける東京名所の主要なるものとなつてゐる。然るに大震災後急激に發展し僅か十年足らずして銀座淺草に次ぐ商店街となり盛り場となつたものに新宿がある。歷史が淺いだけに新宿は粗雜であるが、又一面生氣潑溂として今尙發展途上にある。

以下驚異的發展を遂げた新宿商店街に關し少しく考察して見たい。

一、新宿商店街の構成

商店街はその依存する消費者に依つて三つの種類に分つことが出來る。その一は直接周圍に居住する消費者により

成立するもの（直接商域を有する商店街）、その二は交通機關を利用して買物に出掛けて來る消費者により成立するもの（後背商域を有する商店街）、その三は學校社寺官衙、交通の要衝等特殊の動機により集る消費者により成立するもの（特殊商域を有する商店街）である。

食料品、雜貨、煙草、藥類等の日用品は平生絶えず購入し、長期に亙つて使用するものでなく、且趣味嗜好により左右されることが少い爲、買手は住居の近邊にて求めることを欲するが呉服物、裝身具、家具等贅澤品に類する商品は夫々個性を持ち、高價なものであるから、之を購入する時は多數の商店を視察渉獵し、値段、品質或は模樣意匠等を充分比較研究した後、最も意に適つた優良なものを選擇せんとする。此の場合には遠方に出掛ける時間と費用を意としないのみならず却つて斯樣に購買に出掛けることを樂しみにするのである。

前者の商品は最寄品と呼ばれるものであつて、その取扱商店は周圍に消費者を控へて居る限り必ずしも商店群を形成する必要はないが、複雜化した今日の我々の生活に於ては日々購買する商品の種類も多く一品のみ買ひに出ることは少くして、出掛けたついでに種々の商品を購めるから自然多種類の商店が集り商店通りを形成することが有利である。而し之は未だ商店街とはならない。

後者の商品は買廻品及び專門品と稱されるものである。此の種の商品は相當なる購買力を有する消費者を必要とし到底一小地區のみの消費者を相手としては經營不可能であるから廣い地區の消費者が集るに便利な地點に商店群を形成するを要し買手は又斯る商店通りを求めて買物に集るから相關連して益々繁榮を來たす。此所に所謂商店街が形成されるのである。

扨直周商域を有する商店街は最寄品中比較的個性のあるもの及び買廻品、專門品中大衆的なものを販賣するものであつて、買手は相當選擇を欲するも交通機關を利用するには費用も時間も少し惜しい場合である。從つて住居より徒

歩距離即ち約一粁以内の地に商店街が存在することが要求せられる。即ち直周商域を有する商店街は半徑約一粁の圓の中心近くに成立し、從つて又大都市に於ては約二粁を距てゝ各地に存在することになる。

今東京市に於ける此の種の商店街の主なるものを擧げて見れば次の樣なものがある。

本郷三丁目　四谷鹽町　三田通　赤坂見附　富岡町（深川）　白山柳町（本郷）　山吹町　日陰町　石原町（本所）　門前仲町（深川）　成子坂　蒲田　大森　動坂（本郷）　巣鴨　大塚　大井三股（品川）　霞町　餌差町（小石川）　三ノ橋通（本所）　高圓寺　五反田　池袋　高橋通（深川）　阿佐谷　初音坂下（下谷）　三河島五本辻　高田馬場　鍋屋横町（中野）　千住　惠比壽　三軒茶屋　小松川春日町　平井　玉の井　中野　兩國鈴蘭通　洲崎

即ち舊市内に於て密に、新市内に於て粗なる傾向はあるが大體二粁を距てたことになつてゐる。此の内昔より特に繁榮して居る商店街として知られてゐるものに四谷鹽町・麻布十番等がある。

後背商域を有する商店街では主として買廻品・專門品が販賣せられ、デパートや毛皮・ネクタイ・カステラ等の專門店が見られ、八百屋雜貨店等は姿を消してしまふ。大都市では二三ヶ所中都市では一ヶ所の割合にて直周商域を有する諸商店街の中央部に成立し、小都市には存在しない。

特殊商域を有する商店街は夫々主體とする消費者の需要を滿たす商品を取扱ふが例へば新開地の停車場附近の如く、次第に居住者が殖えれば之が直周商域となつて商店街も發達し、時に依つては後背商域を持つ第一流の商店街になることもある。

商店街は以上三種類に大別することが出來るが新宿は何れに相當するであらうか。之には商店街を形成する各商店の營業品目の比率が答へてくれるであらう。左に東京市内の主要商店街の比率を比較し、尙京都の四條通りの比率をも附記して見やう。

第一表　東京市内主要商店街商店營業種別（東京商工會議所　昭和十年十二月調査）

種目	銀座	新宿	上野	浅草	神樂坂	澁谷	人形町	小川町	佐竹本通	十條	巣鴨	高圓寺	武藏小山	蒲田	龜戸	春日町	京都四條通
總店數	一六一	一六七	五三	二九一	一七	一三四	七七	一三三	一一六	一五二	二〇二	一三五	三三五	八〇	一八五	九五	一六六
衣料品	六一	七〇	二一	一三八	五九	五八	四四	七八	六三	五五	八一	四八	一〇三	四六	七五	三二	六七
織物・被服	一九	三三	八	四七	一七	二九	一七	四五	三	三三	三六	一七	四一	三三	三四	一三	三三
小間物・洋品	三五	一四	六	六五	二	一七	一九	一一	二八	一七	二	一七	三四	一三	三三	九	一九
毛皮・皮革製品	五	八	三	二	四	〇	一	三	〇	一	二	〇	一	一	三	〇	三
食料品	二四	三八	一八	五五	四六	三三	一三	一三	一四	五九	六六	三七	五四	一四	四四	三六	三三
穀類・粉類	一	〇	〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	三	三	三	三	〇	二	一	〇
菓子・パン	一〇	二一	一三	三五	一八	一三	一〇	八	六	三	二八	一五	一七	六	一五	九	一五
住料品	一三	一四	三	三三	一五	一一	七	四	一一	一六	二〇	一三	一八	七	二五	一一	二二
家具	四	五	〇	一三	二	五	一	一	三	一	三	五	七	四	一〇	四	九
燃料品	〇	一	〇	二	一	〇	〇	〇	〇	一	一	〇	〇	〇	一	〇	〇
文化品	五五	四一	一一	一〇	五三	三一	一三	三六	一八	一九	三三	四五	四二	一三	三三	一三	六七
玩具・運動具	四	三	一	二八	四	二	〇	二	三	四	三	二	五	一	三	〇	七
時計・貴金屬	一五	一〇	二	五	九	六	五	五	四	二	四	五	七	三	五	二	一五
圖書	三	二	〇	八	七	四	二	九	二	三	二	五	三	二	四	〇	〇
小賣市場	〇	〇	一	〇	三	一	〇	一	一	〇	二	一	三	一	二	一	〇
補助業者	一〇	七	二	一	七	四	一	六	〇	〇	三	二	二	六	四	一	一八
飲食店	四三	三三	三	一〇四	三〇	一九	八	九	五	一五	二八	一五	三三	一一	二一	五	一八

即ち文化品販賣店の全小賣業に對する比率大なる程高級商店街であると云はれて居り、銀座は三四%神樂坂は三〇%を示してゐるが新宿は未だ二五%である、而し之は歴史の淺い爲であつて、毛革皮革製品販賣店の多く、穀類粉類店を含まざる點その他より矢張り後背周域を有する第一流の商店街たることは明かである。

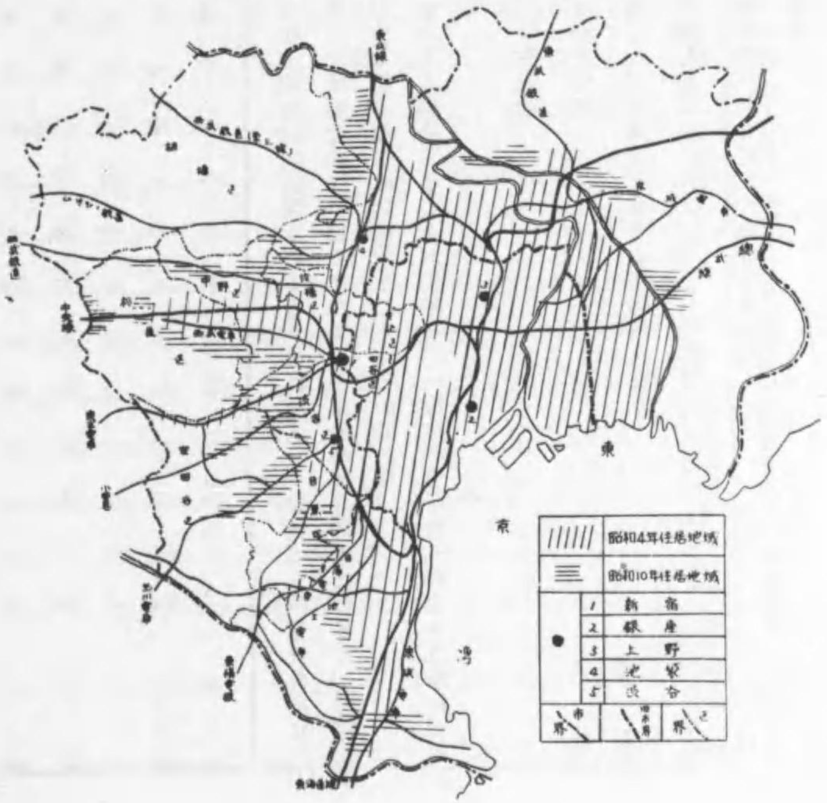
商店街の發達狀況は又その商店街の歩行者數よりも判斷することが出來る。一般に平日午後八時より九時に至る一時間の歩行者數により次の如く云はれてゐる。

1、五〇〇以下ならば商店街の未完成期又は衰退記
2、五〇〇——一、〇〇〇ならば商店街は漸次完成
3、一、〇〇〇——二、〇〇〇ならば完成した直周商域を有する商店街となり
4、二、〇〇〇——三、〇〇〇ならば盛り場として確立する
5、三、〇〇〇——七、〇〇〇　後背商域を有する中心的の商店街となる
6、七、〇〇〇以上ならば觀光の對象となる

而して新宿の歩行者數は左の統計の如くであるから其の第一流たることは明かであらう。

◎商店街客足調べ（昭和十一年十一月晴天通常日　午前十一時より午後九時まで）（東京市產業局調査單位千人）

商店街	歩行者	交通機關乘降客
銀座	二三八	二二三
上野廣小路	一二二	一四一
新宿	二〇八	一六九
神樂坂	六二	二一
道玄坂	一二二	一三二
高圓寺	五一	二〇



二、新宿商店街の發達

商店街の初期に於ては商店の間に普通の住宅銀行會社官衙等が混つてゐるが　商店街として發展するに從つて之等は横丁又は裏通りに引込み賣買業のみとなる。之は商店街の純化傾向と云はれ、新宿に於ても現在の三越の敷地は郵便局であつた。又現在の市電車庫は新宿商店街の大障害であるが既に移轉に決し、既にその準備も整つた樣である。

商店街が純化するに從つて同業者間の競爭は激化し、之を乘切る方策として一種類の商品に主力を注ぐ樣になり、呉服店はモスリン、銘仙、浴衣地等の專門店に、文房具店は萬年筆、繪葉書、筆墨等の專門店に分化する等次第に專門店化して來る。而し此の傾向には限度があり、直周商域のみに依存する場合は特に限定されるのであらう。銀座と新宿を比較する時新宿は今の處、此の點に於て遙かに劣ることを認めざるを得ない。

商店街が專門店化すると同時に市民の散歩街となる傾向がある。即ち毎日機械的で無味乾燥な仕事を終日重くるしいビルディングの室内や工場に於て營み、家庭に歸つても充分な空地もなく狹い家の中に押込められ勝な今日の吾々の生活に於てはその日の疲れを回復し、翌日活動するに充分な英氣を養ふ爲慰安が必要である。而して趣味品・高級品を販賣する商店街には購買欲を唆るショウ・ウインドウに鑑賞價値充分なる商品が陳列してあるから此所に出掛ければ品物を購買せずとも之を眺め且鑑賞するのみにて心を樂しまされ適度の運動にもなる。而も商店街には多數の通行客があつて、之に仲間入する事は「寄り合ひ」を樂しむ人間の社交的性質をも滿足せしめられる。斯くて一日の業務を終へた歸途友人と連立ち或は夕食後家族と一緒に商店街を散歩的にブラ〳〵歩きする事が非常に盛んとなつて來た。尙又デパートに食堂のある如く商店街にも購買に疲れた足や胃を醫す爲の飲食店があつて之も散策の休憩所となつて益々好都合である。之が商店街の遊歩街化の傾向であるが斯樣に「素見」（ヒヤカシ）の客が殖えると之に購買欲を

起さしめんとする努力が拂はれ、且販賣商品が日用店でなく近代的商品である關係上ショウ・ウインドウ、看板等店舗の外觀は瀟洒となり商品の陳列は一層工夫研究されて通行人の注意を惹き購買欲を起さしめる樣近代化されて來る。

近代化の傾向と遊歩街化の傾向は相關連し、進展して商店街は完成されて行くがその内に散策客を目當てに興業物が附近に出來、飲食店は一層增加して盛り場としての性質をも兼ねるに至るのである。

銀座商店街が順序正しく專門店化・近代化・遊歩街化と發展して、商店街として完成した後最近有樂街の發展等盛り場としての性質が現れて來たに對し、新宿商店街は商店街と盛り場が平行して發展し、商店街として未だ完成せざるに娯樂方面では各映畫會社の一流封切館全部揃ひ飲食店も多く盛り場としては淺草と並び稱される樣になつた。之を數字に見るも第一表の示す如く小賣商店對娯樂機關、小賣商店對飲食店の比率は共に他の商店街を遙に拔いて居り新宿に勝るものは僅に淺草、上野、銀座のみである。

三、新宿商店街の商域

商店街の發展を左右するものは一にその商域の量と質とである。先づ新宿商店街の量の方面を調べて見ることにする。

商店街の直周商域は徒歩半徑を以て畫いた圓周を主として之に鐵道線路、大公園、學校その他の特別の障害物を考慮に入れゝばよいが、後背商域は之に對立する他の商店街及交通機關の狀態によつて決定される。然らば新宿商店街の商域は如何なる範圍に亙つて居るであらうか、前圖に於て判斷して見やう。

一、小田急・京王電車・西武電車新宿線沿線

新宿を起點とするものであるから東京市中央部に出掛けるには必ず通過するを要し、又沿線には特別繁華な商店街

も見られないから確實なる商域と見ることが出來る。

二、中央線沿線

各驛前に夫々商店街を有するが何れも第一流商店街とはなつてゐないから自然新宿の後背商域となるは間違ひなくその人口の多い點より新宿の最大なる商域である。

三、山手線池袋方面

豐島池袋方面は嘗ては上野商店街の後背商域を形成して居たが新宿の發達と共に之に吸收され上野に少なからぬ打擊を與へたものであつた。然るに最近は池袋商店街の發展目覺ましきものあり遂に半ば獨立したものと見ることが出來る。從つて此の方面に於ては大體高田馬場及之に接續する西武電車沿線が商域となる。

四、山手線澁谷方面

嘗ては澁谷及その後背地たる東横電鐵・玉川電車沿線を總て新宿の商域となし得たが、澁谷近來の發展を見ては全く斷念しなければならなくなるのも遠い將來ではあるまい。即ち此の方面の商域は甚だ狹く僅かに代々木以北であらう。

五、市内方面

市電により連絡される市内方面に於ける商域は一層漠然としてゐるが牛込方面は神樂坂商店街により限られ、四谷方面に於ては神宮外苑外濠が境界を爲すものと見れば大差あるまい。

六、新宿に出入するバス沿線

市バス、青バス、關東バス、甲州街道バス等あつて商域の形成に役立つてゐるが大體上記何れかと同一方面に通じ

その商域を補強する程度である。

斯様に眺めて來れば新宿の商域は實に廣い。放射狀に發達してゐる新市域の中心を占めてゐるのであるから地の利は絶好と云はざるを得ない。之を區別にすれば中野・杉並・淀橋の全部と牛込・四谷・世田谷・澁谷の一部に亘りその含む人口は第二表の通り極く大略に見て八十萬人である。而も此の人口が急激に增加しつゝあることも第二表により明かである。年々百萬人宛增加しつゝある日本に於ては各都市も人口の增加しつゝあることは當然のことゝ考へられるが福岡縣飯塚、沖繩首里は減少の傾向にあり、長崎・豐橋・松山・上田・高田等は減少こそしないが增加率の甚だ少ない都市である。昭和五年及び十年國勢調査の結果を比較して斯樣な都市は他にも少くない。東京市に於ても舊市の各區は現狀維持である。

發展の止まつた商域を持つ商店街の沈滯することも明らかである。從つて商店街の發展するには商域の人口增加が絶對必要である。大體一年の純增加が二%以上の都市ならば先づ有望とされてゐるが新宿の商域の如く五乃至八%以上もの增加があれば全く申分がなし。勿論率のみより云へば荏原・目黑等が勝るが、之は基數が貧弱なのであるから當然であつて問題とするには足らない。

斯樣に數の上より見た新宿商店街の商域は甚だ有望な條件を備へてゐるのである。

尙商店街の商域の量を實證するものには交通調査が必要である。之に關しては今春東京鐵道局主催の下に行はれた交通調査は有用なる資料を與へてくれる筈であるが未だその資料を入手出來ないことは殘念である。

第二表　東京市人口統計　（單位千人）

區名	人口實數 大正九年	大正九年人口ヲ100トセル指數 十四年	昭和五年	十年	十二年
全市	3,858	122	149	176	188
舊市部	2,173	92	95	103	107
新市部	1,185	179	246	308	334
牛込	126	103	102	103	104
四谷	70	107	107	109	110
淀橋	94	143	163	180	187
中野	29	292	459	611	679
杉並	18	365	743	1,051	1,303
世田谷	40	220	374	527	590
澁谷	137	139	156	171	178

四、新宿商店街の商域分析

商域の質として考慮す可きはその消費者の生活慣習と購買力である。

生活慣習を左右する最大の要素は職業である。今内閣統計局調査の家計費調査を見れば斯る生活慣習の相違が明瞭とは云へないが數字となつて表はれて居る。即ち公務自由業は家族數が勞働者に比し少いに拘らず飲食物費は少く住居費光熱費に多額の支出をなし、生活必需品以外の其の他の項目に於ても勞働者の二八%に對し三十一%を占めて居る。從つて生活必需以外の支出の多い官公吏會社員等が趣味品を多く購賣する爲商店街に對しよりよき顧客であることになる譯である。(第三表)

東京市居住者の職業分布狀態は大體次の如き特徴あるものと云はれてゐる。

商業地區　日本橋、京橋、神田、下谷、本所

工業地區　本所、荒川、向島、王子、小石川、芝、品川

上流居住地　麴町、赤坂、芝、麻布、澁谷

中流居住地　本郷、牛込、中野、大森

之は昭和五年國勢調査の結果に依つても判斷することが出來る(第四表)　即ち工業人口多きは向島(六〇・〇%)を筆頭に城東(五四・二%)本所、荒川、品川等各區であり商業人口の多きは日本橋(六六・七%)を始め京橋(四二・四%)下谷、四谷、本郷、荒川等各區である。之に對し勤人たる公務自由業多きは杉並(三三・三)中野(二八・七%)牛込、澁谷、淀橋等主として西部及西北部の新市域である。唯麴町區に於て三四・五%を示すは特別である。即ち新宿の商域は大體東京市の勤人住宅地域であることが分る。

第五表、第六表に見る建物の使用別統計も亦斯る事實を示して居る。

尙之を間接證明するものに東京市聯合青年團員數がある。青年團員を構成するものは現在に於ては主として商工業從事者であつて勤人は關係が薄い。而して中野を始め新宿の商域を成す各區は第五表の示す通り何れも他區に比し遙

かに少數である。

又內務省都市計畫課の東京市都市計畫により乍ら將來益々新宿の商域は住宅地域としての發展が豫想される。

第三表　家計費(自昭和10年9月　至11年8月)　內閣統計局調査

	一世帶平均人數	實收入	實支出	飲食物費	住居費	光熱費	被服費	其ノ他
官吏	4.0	93.12	83.92	35.2%	17.0%	5.2%	11.8%	30.8%
會社員	3.9	102.00	86.92	34.2%	18.3%	5.0%	11.5%	31.0%
教職員	3.7	92.45	83.99	33.0%	19.0%	5.5%	11.5%	31.0%
總數	3.9	97.64	86.89	34.4%	17.9%	5.1%	11.6%	31.0%
工場勞働者	4.3	87.47	76.84	39.7%	16.0%	4.9%	11.3%	28.1%
交通勞働者	4.1	84.53	75.70	38.6%	16.2%	4.9%	12.0%	28.3%
總數	4.2	86.99	76.65	39.5%	16.2%	4.9%	11.2%	28.2%

第四表　各區職業別人口(男子)(昭和五年十月一日現在)(單位千人)

	總數	工業	商業	交通業	公務自由業		總數	工業	商業	交通業	公務自由業
日本橋	49.9	8.3	33.3	3.5	3.7	澁谷	62.4	20.3	17.6	5.5	14.8
京橋	54.7	18.2	23.2	6.7	4.5	淀橋	45.1	14.7	13.4	3.2	11.1
四谷	24.6	7.6	9.4	1.4	4.5	中野	39.4	12.4	10.0	3.0	17.6
牛込	41.0	13.5	12.0	2.3	11.1	杉並	36.5	9.1	9.1	2.5	11.6
下谷	64.1	27.3	24.6	4.0	7.3	大森	44.0	15.3	12.5	2.8	9.0
淺草	91.9	40.0	37.3	6.2	7.3	荒川	93.1	46.4	25.6	7.9	7.7
世田谷	43.4	11.6	8.7	2.8	12.4	王子	38.5	16.0	8.2	4.0	7.2

第五表　建物用途別　（昭和十一年末現在）（單位面積千平方米）

	住宅 棟數	住宅 面積	店舗數	工場倉庫棟數
京橋	7,708	596	6,740	1,341
日本橋	5,965	584	7,648	1,001
赤坂	6,306	669	2,090	473
四谷	6,638	711	3,389	1,145
牛込	15,591	1,903	3,898	820
淺草	16,830	1,554	13,991	526
本所	12,195	701	12,787	4,209
蒲田	17,471	1,106	11,657	617
世田谷	44,518	3,303	3,280	1,283
澁谷	28,731	2,511	8,910	1,237
淀橋	21,266	1,835	4,098	4,546
中野	26,155	1,981	6,133	398
杉並	32,001	2,507	3,397	306
荒川	30,247	2,363	6,482	4,891
王子	25,711	1,460	4,726	1,884
城東	18,479	1,357	3,289	2,955

第六表　新築家屋用途別統計表　（昭和十一年）

	總數	住宅向	商業向	工業向
京橋	376	146	115	84
日本橋	255	64	121	57
赤坂	317	222	70	16
四谷	396	241	142	6
牛込	522	310	155	23
淺草	805	299	277	179
本所	795	345	203	182
蒲田	2,494	2,033	168	232
世田谷	3,038	2,410	362	90
澁谷	1,455	1,084	207	112
淀橋	1,262	853	280	105
中野	1,936	1,457	323	95
杉並	2,849	2,390	297	55
荒川	2,103	822	417	750
王子	2,061	1,288	303	371
城東	1,497	896	202	388

第七表　東京市聯合青年團員數　（昭和十二年三月三十一日現在）　單位百人

總數	90.5	澁谷	2.7
舊市部	47.6	淀橋	1.5
新市部	42.9	中野	1.3
世田谷	2.8	杉並	1.4

次に新宿の商域の購買力如何、各種の資料より推察して見やう。

一、租稅負擔額

購買力は收入より生ずるものであるから之を調べることが出來れば好都合であるが、之は出來ない相談である。而し租稅は收入に比例して徵收されるものであるから、その負擔額を調べることは間接ながら比較的正確に收入を見ることになる。

扨都市全體としての一般的購買力を見るには直接國稅市稅或は一世帶當り市稅を比較すればよいが之には法人の稅額を多分に含むを以て商店街商域の購買力は第三種所得稅を見るのが一番近いであらう。然るに之に關する資料は稅務署出張所別のものの他（第十二表）入手出來ず殘念ながら有益な結果は求められなかつたが參考迄に掲げて見やう。

所得稅附加稅調査額（第八表の續き）

	件數	稅額		件數	稅額		件數	稅額		件數	稅額
總數	694	8,057	牛込	23	366	澁谷	40	504	王子	13	60
京橋	23	267	淺草	25	155	淀橋	27	214	城東	9	42
日本橋	26	691	本所	19	93	中野	26	142			
赤坂	14	332	蒲田	14	50	杉並	38	137			
四谷	14	125	世田谷	32	153	荒川	14	67			

第八表　租税負擔額其の一（區別）（昭和十一年度）
（單位金額千圓　件數千件）

	直接國税	市税	一世帶當り市税
總額	142,203	41,717	33.74
京橋	8,420	2,572	88.70
日本橋	28,752	3,769	202.65
赤坂	3,279	970	86.83
四谷	1,002	758	48.61
牛込	2,221	1,190	47.39
淺草	1,640	1,850	32.98
本所	1,870	1,325	23.53
蒲田	634	684	19.07
世田谷	1,000	810	18.13
澁谷	3,787	1,678	34.39
淀橋	1,421	1,079	30.64
中野	880	752	19.63
杉並	848	772	18.73
荒川	703	966	13.53
王子	1,743	614	15.67
城東	1,169	727	20.13

第九表　租税負擔額其の二（税務出張所別）
（昭和十一年度單位千人）

	第一種所得税		第三種所得税	
	人員	税額（千圓）	人員	税額（千圓）
全管	16,051	61,700	276,343	43,709
東京市	10,763	55,860	174,502	36,051
神田橋	1,583	25,904	8,611	3,667
日本橋	1,037	12,852	6,469	2,645
京橋	847	4,306	5,634	1,027
幸橋	683	3,202	11,805	6,740
四谷	438	512	12,929	3,662
水道橋	502	197	11,330	4,890
厩橋	1,119	234	11,211	1,233
兩國橋	1,119	1,186	7,644	779
品川	833	2,028	22,550	3,497
澁谷	338	2,634	23,229	3,738
淀橋	468	111	23,327	2,399
板橋	423	213	13,426	1,392
荒川	725	1,215	8,577	639
麹戸	648	1,265	7,700	545

二、郵便貯金狀況

貯蓄額は購買力を左右する大なる要素である。貯蓄は金錢信託又は定期預金の形をとることが多いが、之が地域別統計は無いから代りに郵便貯金を調べて見やう。而し郵便貯金は最高限度が僅か二千圓であつて少額の貯蓄に利用されてゐるに過ぎない。從つて各區に於けるその額の多少は購買力の大小を示すよりも却つて居住者數に比例する傾向があり、その增加率（昭和十年より十一年に至る）の如きも新市部は大部分一割以上なるに舊市部に於ては一割以下を示してゐる。即ち郵便貯金狀況は新宿の商域に對しては參考となる結果は得られなかつたが都市全體の購買力を見る場合、或は都市の一部分を見る場合には有力な資料となるであらう。例へば中野區内に於ても中野局は一人平均貯金額一〇三圓七五錢に對し、中野昭和通局は五三圓一三であつて、前者は大體に於て購買力多き地域であることを示してゐる。

第十表　郵便貯金　（單位　人數千人　金額千圓）

	昭和10年	昭和11年 人員	昭和11年 金額		昭和10年	昭年11年 人員	昭年11年 金額		昭和10年	昭和11年 人員	昭和11年 金額
總數	334,661	4,484	370,094	淺草	16,803	230	18,256	中野	8,551	117	9,501
京橋	10,880	169	12,188	本所	13,875	228	15,345	杉並	8,119	99	9,486
日本橋	9,236	159	10,258	蒲田	6,128	90	7,309	荒川	12,651	182	14,140
赤坂	7,238	79	7,635	世田谷	8,733	110	11,005	王子	9,104	113	10,482
四谷	6,135	69	6,457	澁谷	15,675	175	17,062	城東	5,952	104	6,890
牛込	10,601	124	11,351	淀橋	12,551	144	13,322				

三、煙草賣上高

購買力の實際に現れた狀態の一として商品の賣行きを分析することは購買力を見るに甚だ有効であり、殊に商域の購買力を見るには大切なことであるが資料が甚だ得難いのである。幸ひ煙草は專賣品である爲比較的正確な資料が得られるから之を以て新宿商店街商域の購買を調べて見やう。

先づ東京地方專賣局全管區の賣上狀況を示せば第十一表の通りである。之を見れば

1　口附に於ては東京府・神奈川縣では敷島〔20〕が響の二割以上なるに他の三縣では一割二・三分以下であることが目立つて居り、東京市に於ては敷島〔100〕が非常に多く賣れて居る。

2　兩切の部を見れば東京、神奈川はチェリーが光よりも多く他の三縣では光がチェリーよりも多く賣れて居り、又前者はバットはボーブの二十五倍以下なるに對し後者は百倍から百七十倍であつて高級品ボーブが如何に都市に多く賣れて居るかを示して居る。

3　刻み煙草の部に於ては東京、神奈川に於て白梅の非常によく賣れてゐるのを知る事が出來る。

以上の特徴と照合しつゝ東京市内配給所別賣上狀況を見れば最も購買力あるは日本橋、神田、牛込、芝の各配給所々屬地域であり、之に次ぐものは杉並、世田谷、荏原、大森、瀧野川所屬地區である。小松川、北千住等は千葉、埼玉と殆ど同じ狀態を示して居ることは面白い。

斯樣に煙草賣上を通して見た新宿の商域は大體中等以上の購賣力を持つて居るものと考へることが出來る。

煙草賣上狀況　1、兩切の部　（東京地方專賣局資料）（昭和十二年度　單位千個）

品名	本數	東京市	府下	神奈川縣	千葉縣	埼玉縣	山梨縣	本郷配給所	深川	日本橋	神田
コハク（金口）	一〇	五五	〇	六	一	一	〇	三	二	一三	七
チェリー（1）	五〇	五九五	一六	一四六	一八	八	一三	一五	一一	五一	三三
チェリー（2）	一〇	四七、七四五	六二	八、四五八	一、三九	七三七	二、五九	一、六二七	一三、九〇三	五、五一三	二、五八五
光（3）	一〇	二六、〇七一	七六三	五、一二六	一、九二三	一、六二九	二六五	一、二四七	一、〇九一	三、〇〇四	一、八〇一
バット（4）	一〇	三八三、五一六	一九、六六三	一〇五、一〇〇	五五、一一八	三一、六四〇	一七、四七〇	三五、八八〇	二四、二四五	四三、〇三五	四七、三三九
ボーブ（5）	一〇	二二三八	三三	四一五	四一	二九	一	八五	五七	八四四	三三一
（2）＋（3）		二	一	二	一	一	一	二	一	二	二
（4）＋（5）		一七三	八五五	三五三	一、二四九	一、〇九一	一七、四七〇	四二三	四二五	五一	二二四

品名	本數	牛込配給所	芝	小松川	北千住	瀧野川	板橋	杉並	世田ケ谷	荏原	大森
コハク（金口）	一〇	八	八	〇	一	三	〇	二	二	二	四
チェリー（1）	五〇	一〇二	六九	四	一〇	二八	六	四〇	四六	三三	二、三八五
チェリー（2）	一〇	六、四七一	五、九五九	三九	一、一三三	二、一五三	八六〇	二、四一四	二、一六九	一、七九五	一、三四一
光（3）	一〇	二、二七三	二、八六一	五六八	一、〇八九	一四九	八七四	一、二四四	一、二一三	一、三四一	一、八〇一
バット（4）	一〇	三六、六七一	三八、三七六	七、五八八	二七〇	三、〇三四	一二、九〇四	一八、五四五	一七、九三三	二〇、三二九	二三、四五四
ボーブ（5）	一〇	二四九	二七九	六	二六	七一	二四	八七	七三	九六	一〇九
（2）＋（3）		三	二	一	一	一四	一	二	一〇	一	一
（4）＋（5）		一四七	一三八	一、二六五	一、〇四三	四三	五三八	二一三	二四六	二一〇	二一五

2、口附の部

品名	本數	本郷配給所	深川	日本橋	神田	牛込	芝	小松川	北千住	瀧野川	板橋
敷島(1)	二〇	三六三	二〇一	五九一	五八三	三六四	四四七	八六	一九〇	三一七	一一八
敷島(2)	一〇〇	四	三	七	七	六	七	一	二	五	二
朝日(3)	二〇	三、三九	一、九六三	五、二八六	五、〇四六	三、二九三	三、四四〇	五四	一、五三〇	二、一六八	九一三
響(4)	二〇	一、一二六	七四九	一、三一〇	一、七〇七	一、一二五	一、〇四八	二五七	八四七	七一七	三五〇
(1)＋(2)		一〇	一〇	八六	八三	六一	六六	八六	九五	六一	五九
(3)＋(4)		三	三	四	三	三	三	〇	二	三	三

品名	本數	杉並	世田谷	荏原	大森	東京市	府下	神奈川縣	千葉縣	埼玉縣	山梨縣
敷島(1)	二〇	一七〇	一六七	一〇八	二四一	四、〇四五	一〇三	六九〇	三八七	二四五	五七
敷島(2)	一〇〇	三	三	三	二	五四	一	三	一	二	〇
朝日(3)	二〇	一、四一六	一、四九六	一、三二四	二、〇七五	三、七一六	九六三	五、六四四	二、九二一	二、一七一	五六九
響(4)	二〇	六〇五	四六四	五五〇	六〇三	二、四六七	一、二〇三	三、一〇七	三、一〇八	二、三二二	一、三四〇
(1)＋(2)		五七	五六	三六	一三	七五	一〇三	二三〇	三八七	一三三	〇
(3)＋(4)		二	三	二	三	三	一	二	一	一	〇

3、刻み煙草の部

品名	白梅(1)	白梅(2)	あやめ(3)	なでしこ(4)	なでしこ(5)	(4)＋(1)	(3)＋(2)
匁	一五〇	一五〇	一五	一五〇	一五〇	一	一
牛込配給所	六	四五	二、七九四	一、四八三	一、〇四七	三	八
芝	六	一	一〇四	四四一	四四一	四四一	一〇
小松川	一	九	六四四	七七四	三、〇七九	八六	九
北千住	二	五	五四六	一、一四三	三、六四一	二三八	九
瀧野川	三	二	一七八	一、〇三八	二、三七〇	五一九	七
板橋	一	二	六二	一、〇四七	一、二九六	五二四	六
杉並	三	三	三四三	一三一	九九七	四四	一四
世田谷	三	二	一九五	一一一	九三六	五六	一〇
荏原	三	五	一五五	六八	三五一	一四	四
大森	三	五	三三三	九八	七三五	二〇	七
東京市	一五〇	一五	一五	一五〇	一五	一	一
府下	六	一二九	三三九	一二九	九八八	三	六
神奈川縣	七	一七	二四三	一〇四	八三三	一七	七
千葉縣	一一	六三	七三	六三	三八〇	六三	九
埼玉縣	二	一六二	二八	一六二	一四三	八一	一〇
山梨縣	三	一七五	二四五	一七五	一、五一九	五八	一〇
本郷配給所	二	一一	一三	九八	五五五	九八	一一
深川	三	三	二四	七七	五五一	二六	七
日本橋	三	三	二四	三〇	七三	三〇	六
神田	三	一一	一四七	八九	七三	二六	八
牛込	三	一〇	一五一	一〇〇	五三一	三三	八

四、省線發賣各驛定期券種別

通勤に利用する定期券の種別により購買力の如何を判斷することは無理かも知れないが、その一端を示す材料とはなるであらう。

一ヶ月、三ヶ月、六ヶ月の三種の定期券に於いて長期になるに從ひ割引率が非常に大であつて三ヶ月は一ヶ月の二割引六ヶ月は三割六分引となつてゐる爲購買力の許す限り長期のものを購入する傾向がある。即ち東京市の總數に於て之を見れば三ヶ月が一〇・七%なるに對し六ヶ月定期が却つて多く一六・九%である。而し主として支出の蓄む爲か矢張一ヶ月のものが絶對多數にて六八%を占めて居る。

扨て東京市内の驛全體につき六ヶ月定期券が發賣定期券全體の二〇%以上のものを抜き出せば新宿以西の中央線各驛・西北部山手線の主要驛・東京市中央部の主要驛であつてその他に於ては僅かに北千住、小岩、下十條あるのみである。斯る點より見た東京西北部の買買力は先づ上々である。

第十二表　發賣定期券種別（單位千枚）

	發賣枚數				發賣延月數	他驛發賣當該驛着	
	總枚數	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月	延月數	總枚數	延月數
有樂町	74.9	61.6	3.6	9.1	6.6	134.0	92.3	252.6
新橋	50.2	37.6	3.7	7.8	1.1	108.6	65.9	185.8
田町	134.0	123.9	4.1	4.2	1.8	183.5	47.7	161.6

大井町	61.4	44.3	4.6	10.7	1.7	143.2	56.8	89.9
大森	69.7	49.9	5.7	10.0	3.1	170.2	32.6	62.0
蒲田	69.6	51.0	4.3	10.7	3.5	170.6	52.1	98.7
新宿	69.0	40.0	10.4	14.8	4.1	209.4	107.2	274.5
池袋	51.6	30.0	6.7	12.4	2.7	157.0	40.7	97.1
渋谷	37.1	19.3	6.3	7.9	3.5	128.2	53.9	181.1
東中野	26.9	14.9	4.6	5.8	1.6	82.9	16.9	44.6
高圓寺	29.7	15.3	4.6	8.1	1.8	99.0	17.9	41.9
阿佐ヶ谷	22.0	10.6	3.5	6.7	1.8	82.9	11.9	32.3
神田	48.6	35.2	4.1	8.1	1.1	109.6	77.2	246.5
御茶水	46.0	25.4	11.1	6.5	3.0	133.8	65.6	218.7
總數	1,773.5	1,209.2	190.2	299.9	74.2	45,000.0	1,757.0	4,638.1

五、簡易保險及郵便年金狀況

普通の生命保險加入狀況を調べることは商域の質を見るに絶好の材料であるが、之を手に入れることは全く不可能である。簡易保險は掛金が月割であり、而も一ヶ月二圓以下の僅少額である爲甚だ大衆性を持ち、その普及率の如きも東京市に於ては大體人口千人に對し四割乃至五割に及んでゐる。從つて郵便貯金と同樣人口に比例する傾向があり購買力の多少を示すものとして見ることは六ヶ敷し。

第十三表　簡易生命保險及郵便年金（昭和十一年度）（單位千圓）

	簡易生命保險		郵便年金			簡易生命保險		郵便年金	
	件數	保險金	件數	掛金額		件數	保險金	件數	掛金額
全市	302,650	64,643	5,150	2,737	浦田	7,046	1,583	105	55
舊市	145,649	82,600	2,508	1,600	世田谷	8,070	983	153	71
新市	157,001	32,044	2,642	1,137	澁谷	10,372	2,172	197	116
京橋	10,105	2,298	151	137	淀橋	6,553	1,442	150	142
日本橋	9,225	2,054	173	126	中野	7,996	1,707	161	44
赤坂	8,154	1,646	165	113	杉並	6,175	1,377	148	87
四谷	3,309	722	73	69	荒川	12,684	2,663	259	121
牛込	6,540	1,433	123	84	王子	10,185	2,111	193	44
淺草	12,298	2,624	185	133	足立	7,241	1,555	115	34
本所	16,188	3,427	179	117					

六、自家用自動車數

自家用自動車を所有する程の家庭は購買力大なりと見ることが出來る。此の點より見れば流石に麴町、芝、麻布、赤坂、澁谷等は優れてゐるが上流の居住者は購買力の大なるにまかせて、距離、交通費等には關心を持たず第一流の專門店即ち有名なる老舗を求めて或は銀座、或は室町、或は上野等と必要に應じて出掛けるから却つて一般商店街に對しては有難くない顧客である。從つて自家用乘用自動車數多きことは必ずしも好ましくないが餘り少いことも考へるものである。中位にある新宿の商域は丁度よい所かも知れない。

自家用自動車臺數（昭和十二年度）

麴町	374	布川	212	石田	145	赤坂	137	小石川	109
麻布	94	牛込	113	品川	200	澁谷	80	世田谷	63
淀橋	34	中野	36	杉並	7	荒川	4	王子	2
足立	4	葛飾	4	江戸川	2				

七、瓦斯消費狀況

購買力の現れの一に家庭に於ける瓦斯、電燈消費狀況がある。之に就ては充分なる資料が集らなかつたが、瓦斯の熱量別使用狀況の一部を揭げて見やう。

何れの區に於ても「五——一〇」熱位使用の戸數最も多きも、第二位は目黑區は五熱位まで、他の四區は「一〇——二〇」熱位の戸數である。後者が望ましき條件であることは云ふまでもない。三〇熱位以上は特殊の目的に使用されるものではないかと思はれる。

第十五表　瓦斯消費狀況（東京瓦斯株式會社調　昭和13年3月分）

	5熱位迄	10〃	20〃	30〃	100〃	100熱位以上
目黑	8,154	11,751	7,622	1,441	1,430	227
世田谷	9,003	13,197	10,058	2,006	1,668	152
澁谷	10,018	15,000	10,987	2,570	3,031	561
淀橋	7,730	11,289	8,983	2,061	1,979	338
中野	8,539	12,881	9,151	1,804	1,541	153
杉並	8,883	14,195	11,403	2,073	1,536	105

八、市立小學校卒業者の進路

小學校卒業者の進路は購買力の程度を示すと同時に又生活慣習をも表はすものであらう。先づ男子の部について見るに何れも高等小學校進學者、最も多きは當然であるが江戸川(六六%) 城東(六二%) 葛飾(六〇%) 板橋(六〇%) 足立(五八%) 深川 (五六%) 本所(五六%) 等殊に多く、中學校進學者多きは麹町 (四四%) 赤坂(四三%) 杉並 (四六%) 本郷(三八%) 中野(三二%) 等である。商業學校にては日本橋區の四二%が斷然群を拔いてゐる。

女子の部については全然男子の部と正比例し男子に於て高等小學校に多數送つてゐる區は女子も多く送り中學校に多數通學せしめてゐる區は又高等女學校に多くを送つて居る。第十表を靜かに眺むれば新宿商域の狀況が大體頭に浮んで來る樣な氣持がする。

第十六表　東京市立小學校卒業者の進學狀況 (昭和十一年度)

	高等小學校(男子)	中學校	商業學校	工業學校	青年學校	實業從事者	高等女學校	高等小學校(女子)
總數	47%	18%	13%	6%	2%	11%	28%	40%
麹町	28	44	17	6	0	2	56	21
日本橋	23	20	42	6	0	6	53	24
京橋	49	13	22	6	0	7	29	37
四谷	37	26	16	8	2	9	36	36
牛込	35	25	21	6	2	8	34	37
下谷	43	14	26	5	2	6	29	42
淺草	51	8	21	5	3	11	18	40

大森	39	30	11	8	2	7	46	31
蒲田	53	15	7	10	2	10	28	41
世田谷	41	28	10	5	1	8	35	35
雜谷	35	29	16	8	1	8	40	30
淀橋	38	29	16	7	1	6	42	36
中野	35	32	14	7	0	7	41	29
杉並	33	40	11	5	0	5	48	27
荒川	50	6	9	4	7	20	12	42
王子	55	14	9	6	4	11	20	49

九、郵便物引受配達狀況

商業取引の盛んな區に於ては之に關する郵便物の遣取の頻繁なることは當然であつて麹町、日本橋、京橋等各區は遙かに他區を拔いてゐるが郵便物は又社交に從つて送受されるものであるから郵便物の多い區の居住者は亦際多きものと認める事が出來、而も生活程度高き程社交も密となるものと考へられる。斯樣な點より郵便引受配達狀況を見れば第十一表の如く四谷、牛込、世田谷、四谷、淀橋、中野、杉並の各區は他に比し決して少い方ではない。

更に小包郵便について調べれば第十二表の如き矢張りビジネス・センター麹町、日本橋、京橋等が多い、が中野杉並その他新宿の商域は大體中位を占めて社交的通信のみを計算すれば上位を占めるらしく思はれる。

第十七表　通常郵便物發着高（昭和十一年）
〔單位千〕

	引受	配達
總數	1,094,066	788,467
京橋	81,338	40,435
日本橋	117,412	47,438
赤坂	27,096	18,657
四谷	15,324	17,400
牛込	27,936	23,453
淺草	27,665	27,616
本所	24,323	29,073
蒲田	9,553	14,599
世田谷	13,722	19,644
澁谷	23,499	34,062
淀橋	21,429	19,090
中野	16,831	20,783
杉並	12,886	24,093
荒川	11,155	—
王子	14,725	18,356
城東	13,480	11,504

第十八表　書留小包郵物引受及配達（昭和十一年）
〔單位千〕

	引受		配達	
	總數	書留（有料）	總數	書留
麴町	2,811	726	989	574
日本橋	2,191	1,099	461	154
京橋	1,394	522	348	116
四谷	229	69	131	29
牛込	526	132	260	60
世田谷	280	66	401	92
澁谷	476	140	461	103
淀橋	464	167	279	70
中野	270	63	328	73
杉並	292	83	412	107
大森	352	80	338	73
蒲田	181	45	252	52
王子	169	35	286	57

研究題目並に研究者氏名

（◎ハ本書ニ掲載ノモノ）

第一班

◎我國の海運界に就いて……五　D　菅原榮五郎
映畫會社企業に關する研究……五　A　志保澤秀雄
映畫會社の企業に就いて……五　B　櫻井謙治郎
日滿支の經濟的關係……五　B　關昌雄
◎日滿經濟ブロック……五　C　唐澤一雄
日滿支經濟ブロックの研究……五　C　秋本俊雄

第二班

時局と輸入材……五　C　松宮加之助
ステーブル・ファイーバーの現況に就いて……五　C　新堀清
◎現下の石油問題に就いて……五　A　毛塚芳正
日滿支の貿易……五　D　坂内信雄
◎捕鯨業に就いて……五　A　菅原俊夫
……五　B　鈴木康郎

産業組合聯合會に就いて……五A 岩佐幸三
五C 石原千年

第三班

我國自動車工業に就いて……五A 鈴木定雄
綿布の配給……五A 阿部誠
普通銀行の貸出に就いて……五B 高橋康雄
我國拓殖事業の過去及び現在……五B 村上一雄
南洋貿易……五C 藤本透
東京を中心としたる貨物の移動……五C 井坂清
本邦光學工業の現狀……五C 今枝新一
倉庫業經營の一班……五D 雨宮俊夫
◎販賣豫算に關する一考察……五D 松山良太郎
◎新宿商店街の分析……五B 永田武男
五C 今枝新一
五C 井坂清
五D 竹澤義弘

商業調査部
新聞資料研究部 共同事業

商品研究部の事業概況

はしがき

本校に於ける本格的「商業調査」は第五學年生徒に依つて實施されてゐるが、産業界の實態に觸れ之に對し絶えず深き關心を持つことは將來業界の第一線に立たんとする商業學校生徒の素養としては勿論のこと、平素學校に於て學修するところの商業科目の知識を實際界に連繫せしめる上に於ても又寔に望ましいことである。

從つて第四學年以下に於ても夫々其の能力に應じて何等かの積極的活動を行はせたいとの念願より、第二學年に於ては生徒全員をして百貨店・大商店・公私設市場・郵便局・銀行・信託會社・保險會社・倉庫會社・無盡會社・質屋等に調査に赴かしめ四百三十二册に上るスクラツプを完成せしめると共に、區内銀行調査・同私設市場調査・同小賣商店街調査・同郵便局所在地調査を行はせたのである。又第四學年に於ても生徒全員をして夏季休暇中に各自希望の商品に關する論文を作成せしめ百七十部の研究論文を得てゐる。以下に記載した商業調査部並に新聞資料研究部共同事業としての「商品研究部」も又、同一目標を目指して新設されたものであつて、斯かる活動が生徒の積極的學習態度の建設及び其の發展に寄與するところあると共に、之をよき準備とし體驗として夫々是等の生徒が第五學年に至つて本格的「商業調査」を實施するに當り更に輝かしき成果を收め得ることを希望して止まぬ次第である。

終りに以上の種々の調査・資料蒐集に於て多大の御迷惑をおかけ致したにも不拘御多用中何かと御便宜をお與へ下さつた各方面の方々に對し衷心より感謝の意を表する。

商品研究部

一、目的

現在の如き世界經濟並びに我國産業の目ぐるましき進展特に長期戰時體制下に於ける我國經濟界の變動時代に於ては物資需給の問題は最も重要なるものとなり國策線に沿ふての「重要商品の時代的知識」は國民常識の上よりするも忽緒に附し得ないところであつて、特に商業學校に於て商品を學習する生徒にとつては、この必要を痛感する。

然し乍ら現在の商品教科書はこの「時代的知識」に觸るゝこと少く且業界の實態に觸れざるため解說の語句等にも抽象的で生徒をして容易に理解せしめ得ない點が多いのである。もと〳〵商品の學習はそれが生徒の日常生活に最も關係深き商品を對象とするものなるに依り須く生徒自身、積極的に研究的に行はるべきであり商品關係の新聞經濟記事等にも趣味を以て接するの程度まで到達するを理想とする。

從來兎角商品なる學科を無味乾燥ならしむる所以のものも要するに生徒自身に重要商品に對する興味を喚起せしめる何等かのきつかけを作らず從つて學習に於ても積極的態度を建設せしめ得ざるところに其の根本的原因を有するのである。

本校に於てはこの點に着目し、商業調査部並びに新聞資料研究部の共同事業として商品研究部を新設し本學年最初より第四學年各學級より三名宛の委員を選出し、學科擔任指導の下に教材の進度を追ふて學習する重要商品に就き以下の方法に依り各種の資料を實際界より蒐集し之を整理して揭示を行ひ、委員の活動を通じて之が全般的活用を計つてゐるのである。

二、資料蒐集

個々の重要商品に就き

イ、關係各會社・工場・商店等に赴き營業案内・製造工程・製品其他の適當なる寫眞・商品見本・統計等に關する各種資料の蒐集、業界の現狀に關する調査を行ふ。

ロ、最近の當該業界の實情・統制問題等の新聞記事並びに當該商品の常識的知識と見らるべき記事を平生より準備するためスクラツプ・ブツクを準備し各種新聞の切拔を行ふ。この場合、委員の中數名は新聞資料部員たる者選出されあるを以て、右部に於ける日々の一般的經濟記事の切拔きと密接なる連絡を計り其の活用を計るの便宜を有する。

ロ、中外・都・讀賣・東日・東朝・國民等の新聞に揭載される相場欄其他一般市況・海外商品市況等を同一日附に於て切拔きを行ふ。

ハ、取引所に於ける取引の實情・格付表の蒐集

ニ、最高價格表及び商店に於ける組合協定値段表等の蒐集

ホ、其他個々の委員に依る經濟雜誌・一般雜誌・寫眞週報等よりの資料蒐集

三、整理と揭示

斯くして委員に依つて蒐集されたる是等各種の資料は一定期日の商品研究會（毎週又は隔週）に持寄り、學科擔任指導の下に各委員の愼重なる研究の結果適宜取捨選擇を行ふことゝなる。

現在利用せる揭示板は縱約一〇〇糎横約七〇糎のガラス張りのもの三個であつて、適切なる見出し、解說・新聞記事中重要箇所への傍線等を附して揭出するのであるが、是等も總て委員の研究に依り、見出し、解說に於ける其の文字・色彩或は資料の配置等無味乾燥に陷らずしてよく生徒の注視するところとなり、而も尙よく興味を唆り以て進學

の一助となり得る樣細心の注意が拂はれるのである。

斯くして委員の努力を通じて全學級全校に重要商品の一般的並びに時代的知識を與へ商業學校生徒としての素養に遺憾なきを期して居るのである。

四、現在までの掲示狀況

第一回　米

【其ノ一】

寫眞…◎田園の春◎戰火と支那農民◎各種精米機

記事…◎米の常識（中外・商品辭典）◎產地より消費者までの運賃諸掛◎無砂搗きの白米はこんなにも損◎無砂搗米と混砂搗米とは家庭でどう見分ける？　◎抗日の凶作を恨む悲しい支那農民の穫入れ（寫眞解說）◎季と行事（讀賣・地方經濟）

圖表…◎玄米一俵をつくるまで◎玄米一俵から何がどれだけとれる（米の興味的計數）

其他…◎清算米格付表（東京米穀商品取引所）

【其ノ二】

寫眞…◎銃後は農作

記事…◎東京市小賣白米公定價格の解說◎お米の等級は米屋でまち〳〵◎白米食は廢めろ

市況…◎中外・都・讀賣・東朝・東日

【其ノ三】

圖表…◎昭和五年以降清算米當限壹圓高低表　同中限壹圓高低表　同先限壹圓高低表、昭和三年以降正米標準値

月棒、最近十一ヶ年間東京清算米先限月棒、大正元年以降東京清算米年棒、同大阪清算米年棒、大正元年以降實收米表（藤金之助商店）

第二回　小麥・小麥粉

【其ノ一】

寫眞…◎製粉工程（內地小麥の荷卸・外國小麥の工場入・精選機・挽碎機・篩機・除麩機・袋詰・自動ミシン・貨車積込・トラック積込）◎日清製粉鶴見工場以下各地工場全景◎日清製粉製品銘柄の一部（赤鶉印・ボイス印・青蟬印・銀杏印・鶉印・オリオン印・雀印・鶴印・雪印・赤千成印・飛龍印・ニハトリ印・ラヂオ印）◎日東製粉製品銘柄の一部（カツブ印・赤カツブ印・赤ナイト印・赤ハンド印・七福神印・黃鶴印・赤鶴印・鯱印・二福神印・赤鯛印・大將印・ホームラン印・ゴール印・汽車印・綠汽車印・テニス印・鏡印・赤鶏印・青鯛印・綠グレート印）◎畝岡式ビーター零番型粉碎機

【其ノ二】

記事…◎全國小麥實收高◎小麥粉（中外・商品辭典）◎小麥粉の話（學生中外）◎「日清製粉」北支にも進出（學生中外・會社のはなし）◎北支を舞臺とし濠洲粉と太刀打（讀賣・商品展望）小麥粉輸出促進に市場安定策攻究◎小麥に低價格制◎北支向內地小麥粉三月以降輸出急增◎北支製粉輸出最高記錄◎英・小麥の大量買付

市況…◎內地市況◎東京物價◎海外市況（中外）

圖表…◎內地小麥生產高及び外國小麥輸入高◎我國小麥粉消費狀態

第三回　砂糖

【其ノ一】

寫眞…◎臺灣糖業圖◎甘蔗畑◎砂糖の山◎甘蔗運搬◎南洋興發會社のテニヤン製糖工場◎甘蔗の刈取◎大日本製糖臺灣支社虎尾製糖所全景

圖表…◎砂糖製品の分類

解說…◎虎尾製糖所に就て

【其ノ二】

記事…◎砂糖の話（學生中外）◎有り餘る資金で多角經營に進出、我が糖業界の新しき道（學生中外・會社のはなし）◎世界砂糖評議會開催◎黑砂糖の正體

市況…◎中外・都・讀賣・東朝・東日

圖表…◎砂糖配給系路◎酒精製造工程略圖

【其ノ三】

圖表…◎分蜜糖製造工程◎耕地白糖製造工程（臺灣製糖）

第四回　麥　酒

【其ノ一】

寫眞…◎麥酒釀造工程（麥酒釀造用大麥・忽布・酵母菌、製麥作業——浸麥槽・發芽罐、仕込作業——糖化槽・麥汁濾過機、醱酵作業——醱酵槽・貯酒鐵樽・麥酒濾過機、製品作業——壜詰機・殺菌機・裝製室・樽詰機、オーエンス式自働製壜機械・エビオス・モルトコーヒー）◎大日本麥酒製品種類（エビス・サツポロ・サツポロ黑・アサヒ・アサヒ黑・特製アサヒ・アサヒスタウト・ユニオン・ユニオン黑・特製ユニオン・カブト・チンタオ・シーズン・ビタミン）

圖表…麥酒釀造工程略圖

【其ノ二】

寫眞…◎目黑工場全景◎釀造工程

記事…◎暑さにグツト一杯ビールの爽味（ビールの常識）◎麥酒値上げ決定◎物價抑制とビール値上げ◎先進國を凌駕して國產麥酒へ凱歌

圖表…◎大日本麥酒生產高比較圖　同賣上高指數圖表◎同麥酒輸出高比較圖

解說…◎ビール販賣協定の內容

第五回　醬　油

【其ノ一】

寫眞…◎キツコーマン醬油釀造工程（原料倉庫・撰分室・麥煮釜・小麥割碎機・豆蒸釜・麹室・兩味混合・食鹽溶解室・諸味タンク・諸味壓搾室・副產物・樽詰作業實況・壜詰作業實況・貨車積出荷情況・自動車に依る出荷・船舶に依る出荷、樽摺機・マーク貼付・樽縛り・樽內部殺菌　檢壜・醬油詰機・キヤツプシール打機・乾燥機）◎十六立樽の出來るまで（キツコーマン製樽工場內部・樽材の乾燥・箍の製作・側材の切斷・側の組立・鏡と底板・箍かけ・磨き・マークの貼付・樽しばり・消毒と檢査・樽詰）◎キツコーマン醬油釀造工程圖解

【其ノ二】

寫眞…◎原料倉庫◎麥煎機◎豆蒸釜◎カメラで描くキツコーマン醬油工場◎戰線とキツコーマン醬油◎キツコーマン醬油とマンジョウ味淋

圖表…◎キツコーマン定量分析及粘度檢定表

第六回　棉花・綿糸

【其ノ一】

實物…◎印棉アコカン◎米棉 Strict Middling ◎同 Middling ◎同 Good Middling ◎埃及棉六〇S原料◎同八〇S原料◎伯國棉◎アフリカ棉◎支那棉紡績用◎同製綿用◎朝鮮棉（東洋棉花株式會社寄贈）

寫眞…◎精紡機

記事…◎工場見學綿糸の出來るまで…鐘淵紡績株式會社東京工場（學生中外）◎物資總動員俎上の重要商品——棉花◎物資總動員商品取引の知識——綿製品◎綿糸の番手とは　◎一九三七——三八年度米棉國別輸出高——日本向けは大減少◎オール・ス・フ時代來る（學生中外）◎農村工場方面への純綿布配給

【其ノ二】

記事…◎綿業界に一大轉機來る——個人リンク制の下に從來の統制御破算今や自由競爭へ還元◎〃綿〃非常管理の解說（1——8）◎綿布上場認可せん◎リンク制と綿布輸出狀況

市況…◎棉花、綿糸最高價格◎公定價格と實物最高値（中外）

第七回　生絲

【其ノ一】

寫眞…◎製絲工程（選繭・繰絲・揚返・玉造・洋俵）◎生絲檢査（原量檢査・正量檢査・セリブレーン檢査・纖度檢査・强力檢査）◎無音絹齒車

圖表…◎大日本政府生絲檢査所品位檢定證（格等級・絲條斑檢査・小類檢査・大中類檢査・肉眼檢査・再繰檢査・纖度偏差檢査）◎同正量檢査證◎輸出生絲商標（片倉）◎生絲格差表・格等級合格基準表（横濱取引所）

【其ノ二】

記事…◎中外特輯蠶糸號

◎多事多端を豫想さる事變下蠶糸界の展望——關心は米國と支那へ◎政府の指導下に乾繭取引進展◎生絲こそ「愛國纖維」斯業の發展を圖れ（大日本蠶糸會會頭　日本中央蠶糸會會長　松平賴壽氏）◎國際商品としての生糸（横濱正金銀行頭取　大久保利賢氏）◎協力、機運を逸せず需要增に邁進せよ（横濱生糸檢査長所　肥後俊彦氏）◎國際格付への飛躍を提言（神戸横引所理事長　瀧川儀作氏）◎高値で大量に（横濱生糸輸出業組合長　伊藤武男氏）◎生糸の國際格付法いよ〳〵確立へ——米國綜合點主義を採用◎神戸生絲輸出業組合員◎神戸生糸問屋業組合員

（其ノ三）

記事…◎夏秋蠶收繭豫想◎生糸八百圓臺乘せ——晩秋繭高値に躍る◎繭高は減産相場——業界の樂觀尙早◎蠶糸業の運命◎蠶種製造狀況◎混毛用特殊繭とは？◎戰時下財界の解剖——生糸

市況…◎內地市況——中外・都・讀賣・東朝、　海外市況——東朝

第八回　人絹

（其ノ一）

實物…◎昭和人絹 120 D No.1 ◎同 150 D 1 ◎同 250 D A ◎東洋レーヨン高級艶消東洋マルチ 100—1

記事…◎人絹こゝにあり矣◎人絹糸最高價格一覽表◎織物の輸出制進にパルプ換算率手加減——人絹リンク細目決る◎人絹義務輸出期間◎綿莫大小、雜品の人絹糸にもリンク

【其ノ二】

記事…◎統制強化と人絹界◎戰時下の財界解剖——人絹（至上命令リンク制、業界の生きる道は唯一）◎業觀は出來ぬ輸出、最高價格で採算不利◎業績低下は必至、七割操短で命を繋ぐ

圖表…◎一九二六年——一九三七年日・米・英・獨・伊主要五ケ國人絹生産高グラフ

【其ノ三】

市況…◎中外・都

圖表…◎人造絹糸格付清算取引受渡品銘柄表（福井人絹取引所）◎福井人絹取引所年報（自昭和十二年一月至昭和十二年十二月）

第九回　ステーブル・ファイバー

【其ノ一】

寫眞…◎木材からステーブル・ファイバーまで（用材・パルプ・パルプの浸漬・パルプの粉碎・ヴイスコースの製造・紡糸機・仕上げ・試驗室）◎ステーブル・ファイバーが織物になるまで（練條機・粗紡機・精紡機・精紡管糸・製糸の精撰整理・綛糸・整經機・織機・生地檢査）

實物…◎ステーブル・ファイバー◎ス・フ糸◎ス・フ織物

【其ノ二】

實物…◎パラマウント赤票 10/1 s ◎同銀票 20/1 s ◎同銀票 40/1 s ◎同銀票 80/2 s ◎同金票 120/2 s（日東紡績）◎純毛糸◎ス・フ二割入◎ス・フ三割入◎ス・フ四割入◎ス・フ五割入◎ス・フ六割入（日本毛織）◎パラマツクス十種（日東紡績）

圖表…◎日東パラマツクス雜菊着尺廣告（伊藤萬商店）

（其ノ三）

記事…◎國民各層が認識した〝人織〟の實用價値—パルプ自給の實現を待望◎自治的運用の建前でス・フリンク制實施◎ス・フ製品、毛製品等標準價格決る——中央物價委員會答申◎ス・フ織物の規格統一第一回分發表——實施は明年二月一日◎日東紡績の花形製品——パラマフイル・パラマウント・パラマツクス◎乳兒の肌着類は純綿物に限る——大日本產婆會起つ◎ス・フに非難——〝多少の缺點は我慢願ふ〟商工省の辯を聽く◎ス・フ混紡のメリヤスも出た—實用的な絹毛混紡物

寫眞…◎木材から採れる代用品（パルプ材の山・出來上つたパルプ・出來上つたス・フ織物・美しいセロフアン）

市況…◎人織糸最高價格

圖表…◎日本レイヨン株式會社新日本レイヨン株式會社・新興人絹株式會社・旭ベンベルグ絹絲株式會社・東洋レイヨン株式會社・太陽レーヨン株式會社・倉敷絹織株式會社・東洋紡績株式會社各種廣告

【其ノ四】

圖表…◎昭和七年——昭和十三年（豫想）日・獨・伊・英・米主要五ケ國ス・フ生産高◎パラマツクス・毛織物・木綿織物强力比較表◎各種原絲の關係浸潤强力增減率比較表◎各種纖維對一デニール强力比較表

商品研究部委員

四A　阿久澤　昇　　天羽春夫　　安立一夫　　野崎榮一

四B　小泉勇二　　鈴木常雄　　野川伊三郎

四C　千賀敏啓　　內藤佳博　　矢野照正

四D　磯村志郎　　坂根一正

編輯室より

本年度商業調査は昨年五月第一回の會合を行ひ、研究調査方法の指導が行はれて以來約半年を經過し、九月末を以て玆に終了した。

其の間生徒は平素の、受動的なる學習に反しで、從來習得した事項の綜合應用により積極的、自主的に行はれる本調査に對しては非常なる興味と意氣込とを持つに至り、自ら產業界の實狀に觸れて種々の疑問を解決し得る機會に遭遇する喜びに溢れて調査に沒頭したのであつた。而してそれだけに又、生徒の本調査に於ける苦心と努力も並々ならぬものであつた。

本年度の研究報告も之を檢討すれば未だ消化不充分なる箇所が見受けられ、況や實際界に對し有益なる資料を提供する等といふことは到底望み得べくもないが、生徒が之に從事して體得した經驗は寔に貴重なるものがあらう。

「商業調査」は斯かる研究報告より選んで編輯されたものであるが、本年度は局柄極力用紙の節約を圖ることとした爲數編に止めることとした。

終りに臨み御多用中にも拘らず連日御懇切なる御指導、貴重なる資料を御與へ下されし各方面に對し重ねて深甚なる謝意を表し度い。

昭和十四年一月二十日印刷納本
昭和十四年一月廿五日發行
（非賣品）

東京市立京橋商業學校內
商業調査部
編輯兼發行人代表者　市川健兒

東京市芝區片門前一ノ五
印刷所　加利屋印刷所
電芝一六四一

東京市芝區芝公園四號地
發行所
東京市立京橋商業學校
商業調査部
電芝　一九六〇　〇〇六一

391
420

終